九州横断自動車道関係
埋蔵文化財調査報告
— 39 —

福岡県朝倉郡朝倉町所在 中道・石成久保・大還端遺跡の調査

下巻

1996

福岡県教育委員会

九州横断自動車道関係
埋蔵文化財調査報告

— 39 —

福岡県朝倉郡朝倉町所在 中道・石成久保・大遷端遺跡の調査

下巻

例　言

1．本書は、福岡県教育委員会が日本道路公団から委託されて発掘調査を実施した、九州横断自動車道関係遺跡についての39冊目の報告書である。

2．本書に収録したのは、1985（昭和60）年度に発掘調査を行った福岡県朝倉郡朝倉町所在の中道・石成久保・大塔端遺跡である。

3．遺構については、実測は井上裕弘・高橋章・伊崎俊秋・小田和利・木村幾多郎・武田光正・柏原孝俊・渡辺輝子が行い、高田一弘・平嶋文博・目憲一・中村光恵・後藤かみ代・萩原瑞江の援助を受けた。

写真は高橋・伊崎・小田が撮影した。

4．出土遺物の整理は、岩瀬正信の指導のもとに、九州歴史資料館および福岡県文化課甘木事務所とで行った。鉄器については九州歴史資料館の横田義章氏のもとで保存処理を実施した。

5．遺物については、実測は高橋・伊崎・小田・杉原敏之・渡辺・高瀬照美・岡泰子・大野愛里・辻啓子が行い、写真は北岡伸一が撮影した。

6．遺構・遺物の浄書は塩足里美・渡辺輝子・秋吉邦子・井上久美子・井上裕弘・木下修・高橋・伊崎が行った。

7．本書で使用した方位は、新平面直角座標系のⅡ系に基づく座標北である。

8．本書の挿図・付図において、住居跡はそのままの数字で示すが、掘立柱建物跡はＳＢ、土坑はＤ、甕棺墓はＫの略号を番号の前に冠する場合がある。

9．本報告書にかかる図面・写真の記録と遺物については、当分の間、九州歴史資料館および文化課太宰府事務所・甘木事務所において保管している。

10．本書の執筆は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ-A・B・D-5-d・E・F-1、Ⅳ、Ⅵを伊崎、Ⅲ-C・D・F-2を高橋、Ⅴを小田が行った。

11．本書の編集は高橋の支援を受けて伊崎が行った。

本 文 目 次

〈下巻〉

Ⅳ　石成久保遺跡の調査

A．旧石器・縄文時代の遺構と遺物……265

1．落し穴状遺構……265

2．その他……265

B．古墳時代以降の遺構と遺物……269

1．竪穴住居跡……269

2．掘立柱建物跡……272

3．焼土坑……278

4．土坑……278

5．溝その他……278

C．小結……284

Ⅴ　大還端遺跡の調査

A．遺構と遺物……285

1．竪穴住居跡……285

2．掘立柱建物跡……289

3．竪穴遺構……292

4．土壙墓……294

B．小結……308

1．土壙墓について……310

Ⅵ　総括……312

図 版 目 次

[中道遺跡]

図 版 1　1 中道遺跡航空写真（南から）　2 同 気球写真（西から）
図 版 2　1 中道遺跡中央部気球写真　2 同上（東から）
図 版 3　1 中道遺跡中央部気球写真　2 同 東半部発掘前（東から）
図 版 4　トレンチ（G4）；33・34・36号土坑
図 版 5　53～56号土坑
図 版 6　57・59～62号土坑
図 版 7　63～66号土坑
図 版 8　67～69・72号土坑
図 版 9　1 中道1・2号住居跡、ＳＢ103・ＳＷ1（気球写真）
　2 1号住居跡（北西から）　3 同 下層
図 版 10　1 1号住居跡遺物出土状態　2 同 東南隅土坑（北から）
　3 同 炭化材
図 版 11　1 2号住居跡（真上から）　2 3号住居跡（北から）
　3 同 西南隅付近
図 版 12　1 4号住居跡（北から）　2 同 下層
　3 同 炭化材
図 版 13　1 5号住居跡（東から）　2 同 下層
　3 同 木器出土状態
図 版 14　1 6号住居跡（東北から）　2 7号住居跡（北から）
　3 8号住居跡（北から）
図 版 15　1 9・10号住居跡（南から）　2 同 下層
　3 9号住居跡（北から）
図 版 16　1 10号住居跡（南から）　2 同 遺物出土状態
　3 同上
図 版 17　1 11号住居跡（北から）　2 同 下層
　3 同 遺物出土状態
図 版 18　1 12号住居跡（北から）　2 同 下層
　3 11～13号住居跡（東上空から）
図 版 19　1 13号住居跡（北から）　2 同 下層
　3 同 遺物出土状態

図版 20　1　14号住居跡（北から）　2　同 下層
図版 21　1　14号住居跡遺物出土状態　2　14A 号住居跡屋内土坑
3　14A号住居跡投弾出土状態
図版 22　1　15・16号住居跡（気球写真）　2　同（北から）
図版 23　1　17・20・107号住居跡、30号土坑（気球写真）
2　17・107号住居跡下層（北から）
図版 24　1　18号住居跡（北から）　2　同 下層
3　同 竈出土状態
図版 25　1　18号住居跡遺物出土状態　2　同上
3　19・20号住居跡、30号土坑（気球写真）
図版 26　1　20号住居跡（北から）　2　同 下層
3　同 遺物出土状態
図版 27　1　21号住居跡（北から）　2　同上
3　同 下層
図版 28　1　21号住居跡遺物出土状態　2　同上
3　同 炭化材
図版 29　1　23号住居跡（北から）　2　24号住居跡（北から）
3　25号住居跡（南から）
図版 30　1　ＳＢ１（北から）　2　ＳＢ２・14号土坑（東から）
3　ＳＢ３・29号土坑（北から）
図版 31　1　1号土坑（東から）　2　7号土坑（北から）
図版 32　1　11号土坑（東から）　2　12号土坑（南から）
図版 33　1　13号土坑（北から）　2　16号土坑（北から）
図版 34　4・5・9・10・14号土坑
図版 35　18・21・22・24・25号土坑
図版 36　26～28・31号土坑
図版 37　37～40号土坑
図版 38　41・42・45～47号土坑
図版 39　1　48号土坑（北から）　2　1号円形周溝遺構（真上から）
3　15号土坑（南から）
図版 40　1　1号甕棺墓（西南から）　2　2号甕棺墓（南から）
3　3号甕棺墓（東から）
図版 41　中道遺跡出土押型文土器1

図　版　42　中道遺跡出土押型文土器2
図　版　43　中道遺跡出土旧石器、縄文土器・石器
図　版　44　中道遺跡出土弥生土器1
図　版　45　中道遺跡出土弥生土器2
図　版　46　中道遺跡出土弥生土器3
図　版　47　中道遺跡出土弥生土器4
図　版　48　中道遺跡出土弥生土器5
図　版　49　中道遺跡出土弥生土器6
図　版　50　中道遺跡出土弥生土器7
図　版　51　中道遺跡出土弥生土器8
図　版　52　中道遺跡出土弥生土器9
図　版　53　中道遺跡出土弥生土器10
図　版　54　中道遺跡出土弥生土器11
図　版　55　中道遺跡出土弥生土製品・石器
図　版　56　中道遺跡出土石器・鉄器・粉滓土器
図　版　57　1　101・102号住居跡（南から）　2　101号住居跡カマド（南から）
3　103号住居跡（南から）
図　版　58　1　104号住居跡（南から）　2　同上 下層（南から）
3　同上 カマド
図　版　59　1　105号住居跡（南から）　2　同上 下層（南から）
3　同上 カマド及び土器出土状態（南から）
図　版　60　1　106号住居跡（北から）　2　同上 下層（北から）
3　同上 カマド（南から）
図　版　61　1　101号建物跡（南から）　2　102号建物跡（南から）
3　103号建物跡（西から）
図　版　62　中道遺跡古墳時代住居跡出土土器1
図　版　63　中道遺跡古墳時代住居跡出土土器2
図　版　64　1　107号住居跡周辺（気球写真）　2　107号住居跡周辺（北から）
図　版　65　1　107号住居跡（北から）　2　同上 下層（北から）
図　版　66　1　108号住居跡下層（南から）　2　同上 カマド（南から）
3　109号住居跡下層（北から）
図　版　67　1　110号住居跡（南から）　2　同上 下層（南から）
図　版　68　1　110号住居跡カマド（南から）　2　111～123号住居跡（北から）

図版 69　111～123号住居跡（気球写真）
図版 70　1　116～121号住居跡（気球写真）　2　111～122号住居跡（気球写真）
図版 71　1　111～115号住居跡（南から）　2　同上 下層（南から）
図版 72　1　114号住居跡カマド（東から）　2　115号住居跡カマド（南から）
図版 73　1　116～122号住居跡下層（南から）　2　117号住居跡カマド（南から）
3　118号住居跡カマド（南から）
図版 74　1　117・118・120号住居跡（南から）　2　同上 下層（南から）
図版 75　1　122号住居跡（南から）　2　120号住居跡カマド（南から）
3　122号住居跡カマド（南から）
図版 76　1　123号住居跡（東から）　2　同上 下層（東から）
3　同上 カマド（東から）
図版 77　1　124号住居跡（南から）　2　同上 下層（南から）
図版 78　1　125～127号住居跡遠景　2　125・126号住居跡（南から）
図版 79　1　126号住居跡（南から）　2　127号住居跡（南から）
図版 80　1　調査区東半遠景（西から）　2　128～134号住居跡遠景（北から）
図版 81　1　128～132号住居跡（南から）　2　128～130号住居跡（南から）
3　131号住居跡カマド（南から）
図版 82　1　132号住居跡（南から）　2　同上 カマド（南から）
3　同上 カマド（南から）
図版 83　1　133・134号住居跡（南から）　2　134号住居跡カマド（南から）
図版 84　1　104号建物跡（北から）　2　105号建物跡（北から）
3　106号建物跡（西から）
図版 85　1　107・108号建物跡（気球写真）　2　109号建物跡（北から）
図版 86　1　110～113号建物跡（気球写真）　2　110・111号建物跡（西から）
図版 87　1　112号建物跡（西から）　2　113号建物跡（西から）
3　114号建物跡（西から）
図版 88　1　115・116号建物跡（東から）　2　115号建物跡（北から）
図版 89　1　116号建物跡（北から）　2　117号建物跡（北から）
3　118・119号建物跡（北から）
図版 90　1　120号建物跡（西から）　2　121号建物跡（東から）
3　122号建物跡（南から）
図版 91　1　30号土坑（西から）　2　32号土坑（東から）
3　35号土坑（東から）

図　版　92　1　43・44号土坑（東南から）　2　43・44号土坑土層（西南から）
図　版　93　1　49・50号土坑（東から）　2　51・52号土坑（北東から）
3　58号土坑（東から）
図　版　94　1　71号土坑（北から）　2　75号土坑（南から）
図　版　95　1　1号溝土層断面２　2　1号溝瓦器出土状態
図　版　96　中道遺跡出土奈良時代土器１
図　版　97　中道遺跡出土奈良時代土器２
図　版　98　中道遺跡出土奈良時代土器３
図　版　99　中道遺跡出土奈良時代・中世土器
図　版　100　中道遺跡出土製塩土器
図　版　101　中道遺跡出土製塩土器・奈良時代土製品
図　版　102　1　中道遺跡出土奈良時代石器　2　中道遺跡出土奈良時代鉄器
[石成久保遺跡]
図　版　103　1　石成久保遺跡Ⅰ区全景（東から）　2　同上（東から）
3　同Ⅱ区全景（西から）
図　版　104　1　１号住居跡カマド（南から）　2　同上
3　２号住居跡（南から）
図　版　105　1　２号住居跡カマド（南から）　2　２号住居跡遺物出土状態
3　同上
図　版　106　1　ＳＢ１（東から）　2　ＳＢ２（南から）
3　ＳＢ３（北から）　4　ＳＢ４（南から）
図　版　107　1　ＳＸ１（南から）　2　ＳＸ２（北から）
3　ＳＸ３（東南から）
図　版　108　ＳＫ６（南から）・ＳＫ１（西から）と石成久保遺跡出土遺物
[大還端遺跡]
図　版　109　1　大還端遺跡西半部全景（北西から）　2　大還端遺跡東半部全景（南東から）
図　版　110　1　１号住居跡（東から）　2　同貼床掘下げ後（東から）
図　版　111　1　２号住居跡（東から　2　同貼床掘下げ後（東から）
図　版　112　1　１号住居跡カマド（南東から）　2　２号住居跡カマド（東から）
図　版　113　1　１号建物跡（北東から）　2　２号建物跡（南東から）
図　版　114　1　３号建物跡（南西から）　2　１号竪穴遺構（北から）
図　版　115　1　南西端土壙墓群全景（東から）
2　14・15・18～24・27号土壙墓（東から）

図 版 116　1　1号土壙墓（東から）　2　2号土壙墓（東から）
3　3号土壙墓（北から）　4　4号土壙墓（北東から）
図 版 117　1　5号土壙墓（東から）　2　6号土壙墓（西から）
3　7号土壙墓（西から）　4　8号土壙墓（北東から）
図 版 118　1　9号土壙墓（西から）　2　10号土壙墓（西から）
3　11号土壙墓（北から）　4　12・13号土壙墓（西から）
図 版 119　1　14号土壙墓（北東から）　2　15号土壙墓（西から）
3　16号土壙墓（西から）　4　17号土壙墓（北から）
図 版 120　1　18号土壙墓（西から）　2　19号土壙墓（北東から）
3　20号土壙墓（北東から）　4　21号土壙墓（南から）
図 版 121　1　22号土壙墓（南西から）　2　23号土壙墓（南西から）
3　24号土壙墓（北東から）　4　25号土壙墓（北から）
図 版 122　1　26号土壙墓（西から）　2　27号土壙墓（西から）
3　28・29号土壙墓（南東から）　4　30号土壙墓（南東から）
図 版 123　1　31号土壙墓（北から）　2　32号土壙墓（東から）
3　33号土壙墓（北から）　4　34号土壙墓（北から）
図 版 124　大還端遺跡出土土器

挿 図 目 次

第 241 図　石成久保遺跡遺構図（1/1,000）……266
第 242 図　石成久保Ⅰ区遺構配置図（1/400）……267
第 243 図　石成久保Ⅱ区遺構配置図（1/400）……268
第 244 図　石成久保Ⅰ区グリッド土層実測図（1/80）……269
第 245 図　石成久保出土石器実測図（1/2）……269
第 246 図　石成久保Ⅰ区1号住居跡カマド実測図（1/30）……270
第 247 図　石成久保Ⅰ区2号住居跡実測図（1/60）……271
第 248 図　石成久保Ⅰ区2号住居跡カマド実測図（1/30）……272
第 249 図　石成久保1・2号住居跡出土土器実測図（1/3）……273
第 250 図　石成久保2号住居跡出土土器実測図（1/3）……274
第 251 図　石成久保Ⅰ区ＳＢ1実測図（1/60）……275

第 252 図 石成久保Ⅰ・Ⅱ区ＳＢ２・３実測図（1/60）……276
第 253 図 石成久保Ⅱ区ＳＢ４実測図（1/60）……277
第 254 図 石成久保Ⅰ・Ⅱ区ＳＫ１～３実測図（1/30）……279
第 255 図 石成久保Ⅰ区ＳＫ1～4実測図（1/30）……280
第 256 図 石成久保Ⅰ区ＳＫ5～7実測図（1/30）……281
第 257 図 石成久保Ⅰ区ＳＫ8・9・11～13実測図（1/30）……282
第 258 図 石成久保Ⅰ区ＳＫ19・23実測図（1/30）……283
第 259 図 石成久保Ⅰ区土坑等出土遺物実測図（1/3）……283
第 260 図 大還端遺跡遺構図（1/600）……折込(P284-285)
第 261 図 大還端１号住居跡実測図（1/60）……286
第 262 図 大還端１号住居跡カマド実測図（1/30）……287
第 263 図 大還端１号住居跡出土土器実測図（1/4）……287
第 264 図 大還端２号住居跡実測図（1/60）……288
第 265 図 大還端２号住居跡カマド実測図（1/30）……289
第 266 図 大還端１・２号住居跡出土土器実測図（1/3）……290
第 267 図 大還端１～３号掘立柱建物跡実測図（1/60）……291
第 268 図 大還端１号竪穴遺構実測図（1/80）……293
第 269 図 大還端１号竪穴遺構出土土器実測図（1/4）……293
第 270 図 大還端1～4号土壙墓実測図（1/30）……295
第 271 図 大還端5～7・10号土壙墓実測図（1/30）……297
第 272 図 大還端8・9・12～14号土壙墓実測図（1/30）……299
第 273 図 大還端11・15・17・19・21号土壙墓実測図（1/30）……301
第 274 図 大還端16・18・20・23号土壙墓実測図（1/30）……302
第 275 図 大還端22・24～26号土壙墓実測図（1/30）……304
第 276 図 大還端27・28・30・32号土壙墓実測図（1/30）……305
第 277 図 大還端29・31・33・34号土壙墓実測図（1/30）……307
第 278 図 大還端土壙墓出土土器実測図（1/3）……308
第 279 図 大還端遺跡土壙墓群配置図（1/300）……折込(P308-309)
第 280 図 大還端遺跡土壙墓法量分布図……310
第 281 図 大還端遺跡土壙墓頻位グラフ……310

写真挿図目次

16. 石成久保Ⅰ区……270
17. 古塔塚のナンジャモンジャ……284
18. 大遷端遺跡を望む……286
19. 2号建物跡発掘中……292
20. 18号墓のわたし……311

表目次

表3 大遷端遺跡土壙墓一覧表……309

付図

付図1 中道遺跡全体図(1／400)

Ⅳ　石成久保遺跡の調査

[概要]

石成久保遺跡は横断道のカルバートボックスを挟んで西側をⅠ区、東側をⅡ区とした。調査面積はⅠ区が2660㎡、Ⅱ区が2860㎡で合計5520㎡である。この両区については関連した遺跡とみてよいだろう。Ⅱ区のすぐ東側に中道遺跡があるが、この両遺跡間にはごく浅い谷が入り込んでいて、とくに弥生時代・古墳～奈良時代においては両者が一連の集落であったとしても、同一の集団ではなかったことを示しているといえよう。

各区ごとに検出された主な遺構は次のとおりであるが、Ⅰ区におけるＳＫとした土坑は先の太平洋戦争後に掘られた「いも貯蔵穴」とみられる。また、住居跡などの遺構検出面が黄褐色土層であったことから、両区にグリッドを設定して掘り下げてみた。落し穴状遺構については旧石器・縄文時代の所産とする確証はないが、その項にて説明する。

[Ⅰ区]	竪穴住居跡	2軒	[Ⅱ区]	掘立柱建物跡	2棟
	掘立柱建物跡	2棟		落し穴状遺構（ＳＸ）	1基
	焼土坑	1基		土坑（ＳＸ）	1基
	土坑（ＳＫ）	39基		溝（ＳＤ・ＳＲ）	4条
	溝（ＳＤ）	1条			

A．旧石器・縄文時代の遺構と遺物

1．落し穴状遺構

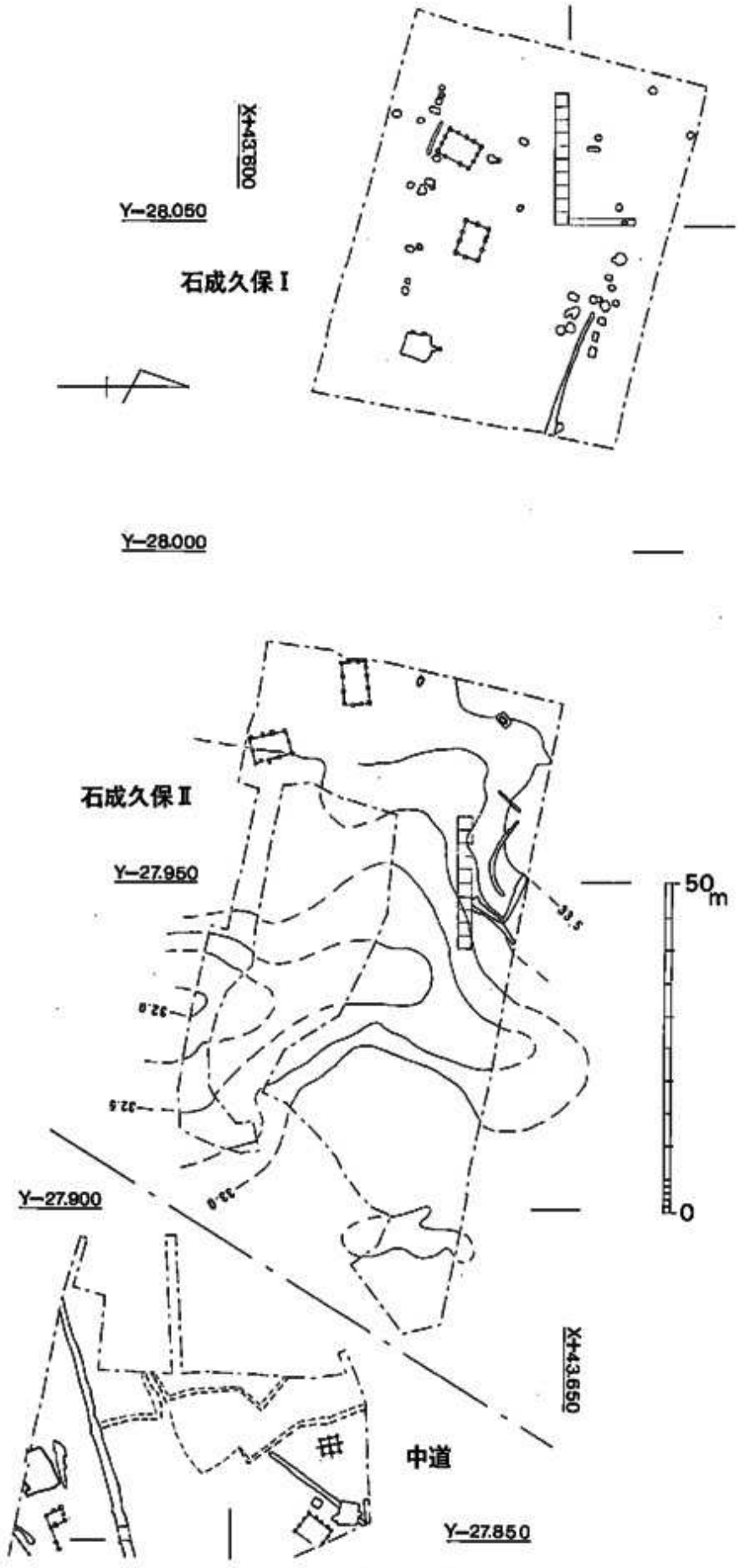
この時期ものとする確証はないが、Ⅱ区の北西端部にあった。

ＳＸ３（図版107、第254図）

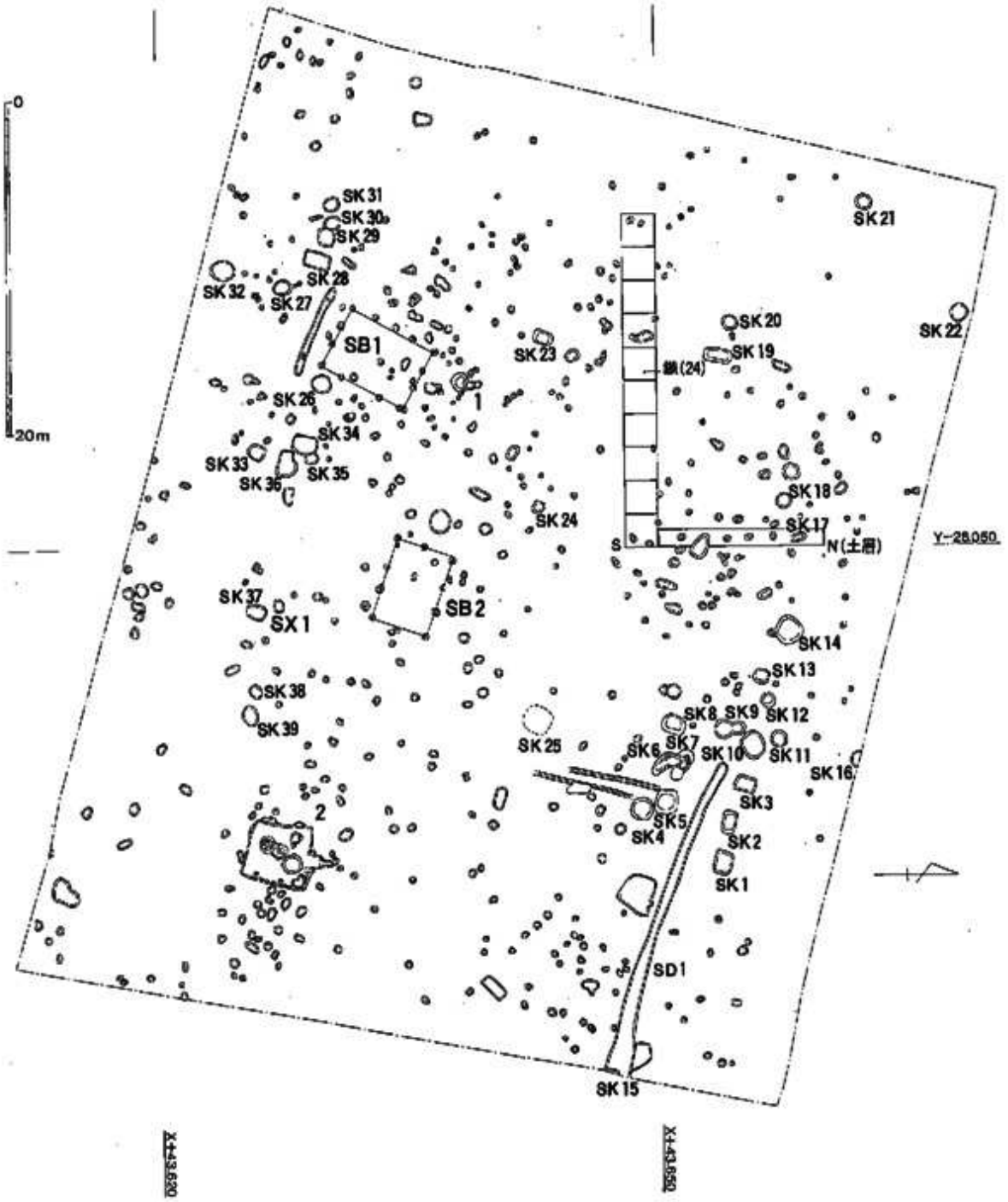
ＳＥ４の北方にある。長軸220cm、短軸140cmの隅円長方形プラン内の南寄りに、床面の主軸長95cm、幅60cmの坑が穿たれている。深さは検出面から95cm。主軸方位はN-36°-E。出土遺物はない。

2．その他

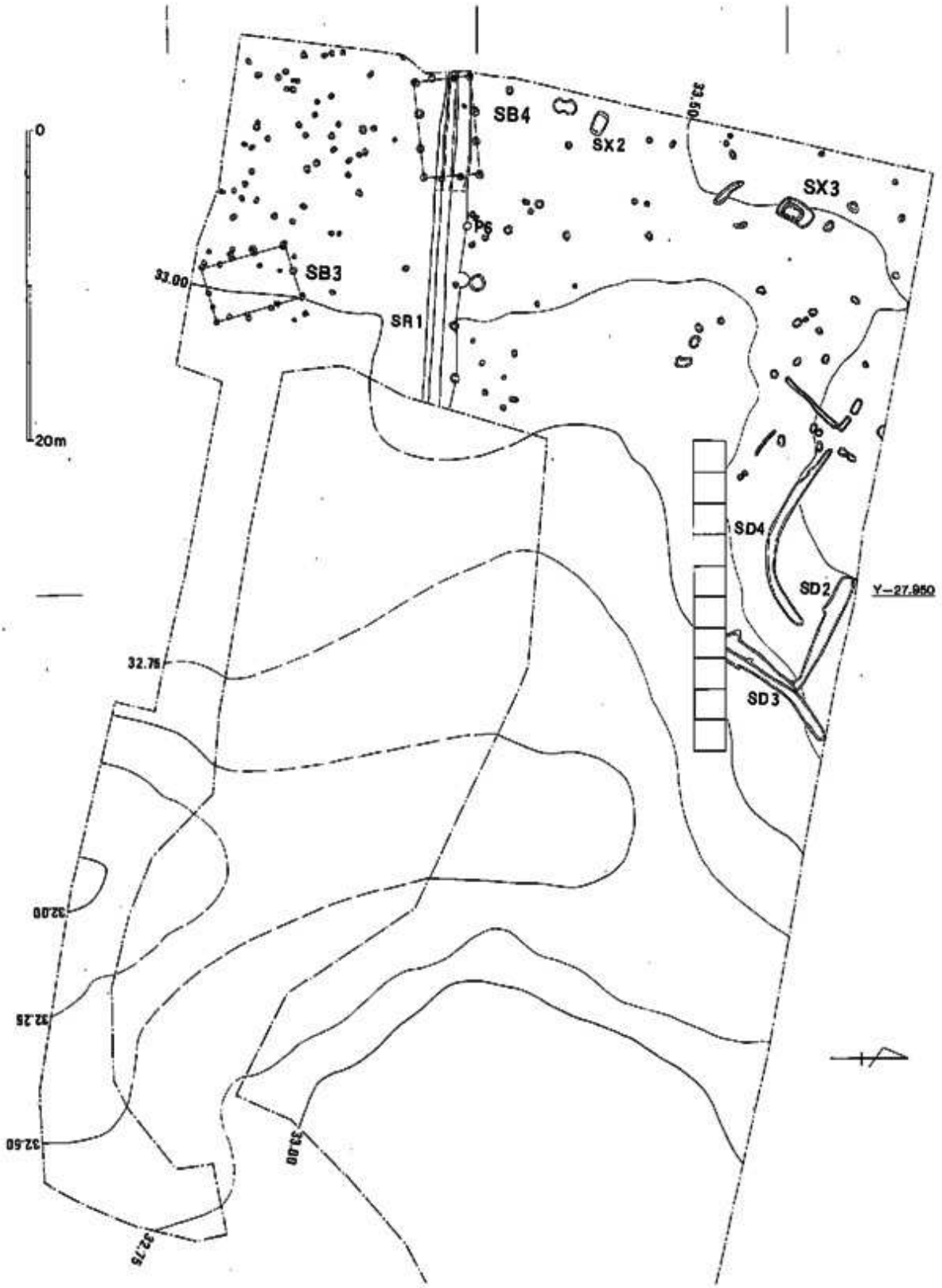
Ⅰ区・Ⅱ区ともにその北西部にグリッド・トレンチを設けた。その土層は第244図に見るよう



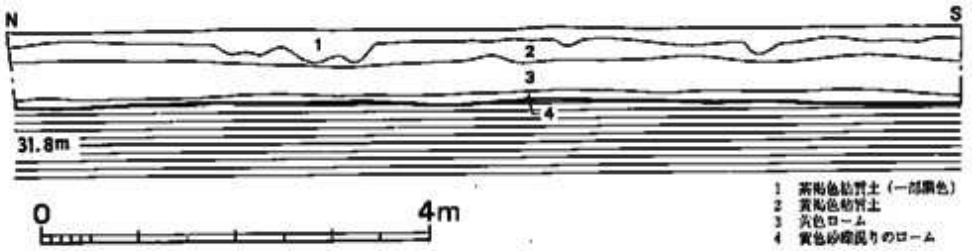
第241図　石成久保遺跡遺構図（1/1,000）



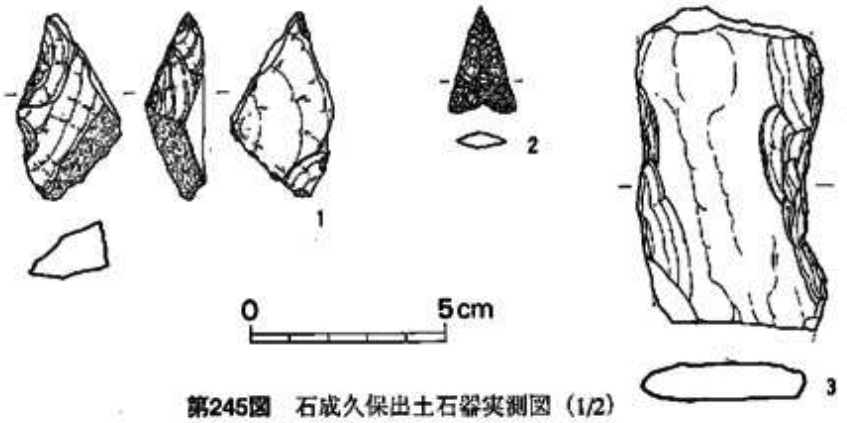
第242図　石成久保Ⅰ区遺構配置図（1/400）



第243図　石成久保Ⅱ区遺構配置図（1/400）



第244図　石成久保Ⅰ区グリッド土層実測図（1/80）



第245図　石成久保出土石器実測図（1/2）

にほぼ水平の堆積で、遺構はみられない。

出土遺物（図版108、第243図）

1はⅡ区採集のサヌカイト製スクレイパーで、長さ47㎜、幅26.5㎜、厚さ5.5㎜、重さ13.3g。旧石器と考えられる。2はⅠ区のグリッド①層出土の黒曜石製鏃である。先端部をごく僅かに欠失する。長さ25.8㎜、幅16.7㎜、厚さ3.9㎜、重さ1.1g。3はⅠ区のＳＫ10埋土から出土した片岩の板状品で石斧としてよいのかどうかはわからない。長さ81㎜、幅48㎜、厚さ9㎜。

B．古墳時代以降の遺構と遺物

1．竪穴住居跡

1号住居跡（図版104、第246・251図）

ＳＢ１の北にある。竪穴住居の壁面を欠失してカマドのみ遺存しているものと捉えたが、あるいはＳＢ１との位置関係から、この建物に付随する屋外カマドの可能性もあることを指摘し

ておきたい。焚口幅67cm、奥行き64cmで壁面はよく焼けている。焚口から15～25cmで壁面寄りの所に深さ3cmほどの小穴がほぼ対になるように穿たれている。焚口部とその前面にて須恵器の破片が出土した。2号住居跡と同じ6世紀末～7世紀初頭と考えられる。

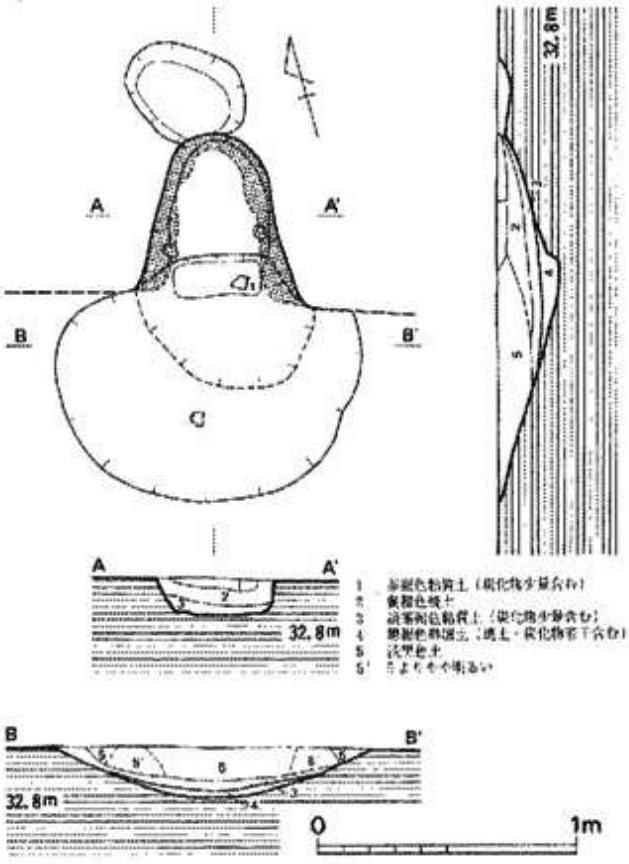
出土遺物（第249図4）

須恵器の甕の胴部片である。外面は平行タタキの上にカキ目が入る。

2号住居跡

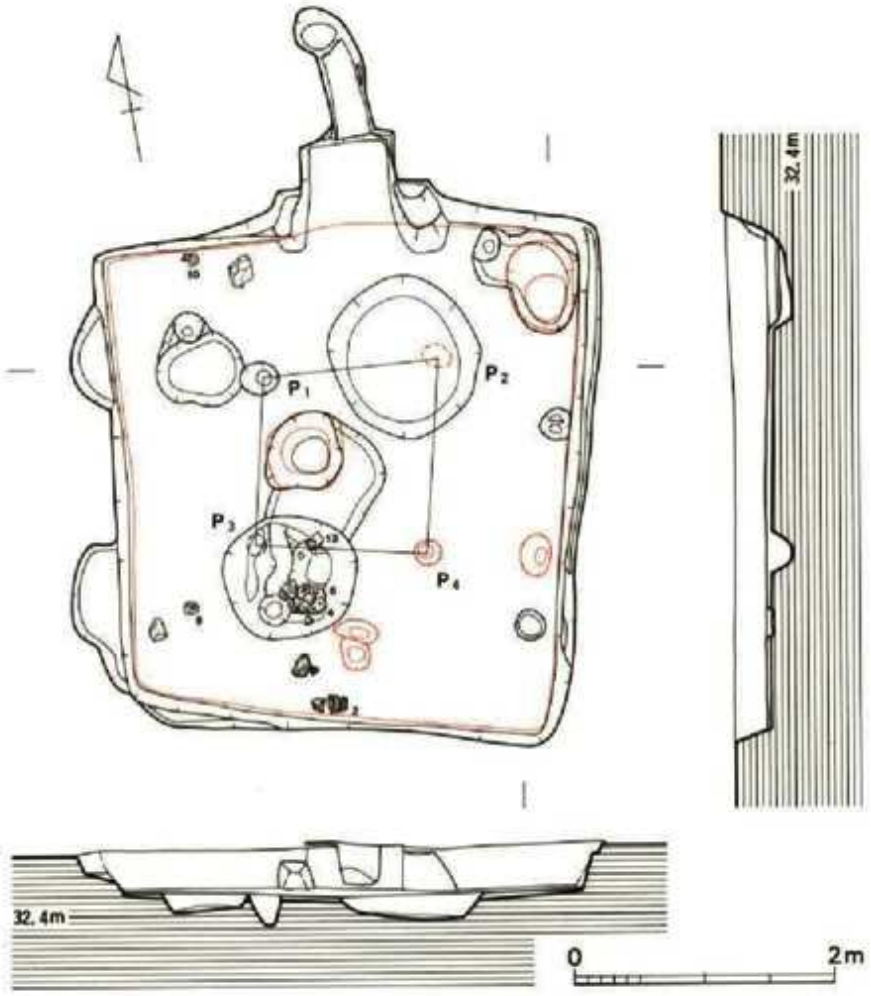
（図版104・105、第247・248図）

I区の東南部にある。当初は4軒ほどが重複しているように見えたが、実際は1軒であった。但し、東辺・南辺や後述のカマドのあり方等からすると、建て直しがなされているのは確かであろう。床面で南辺3.15m、北辺3.65m、東辺3.85m、西辺3.3mの



第246図　石成久保I区1号住居跡カマド実測図（1/30）

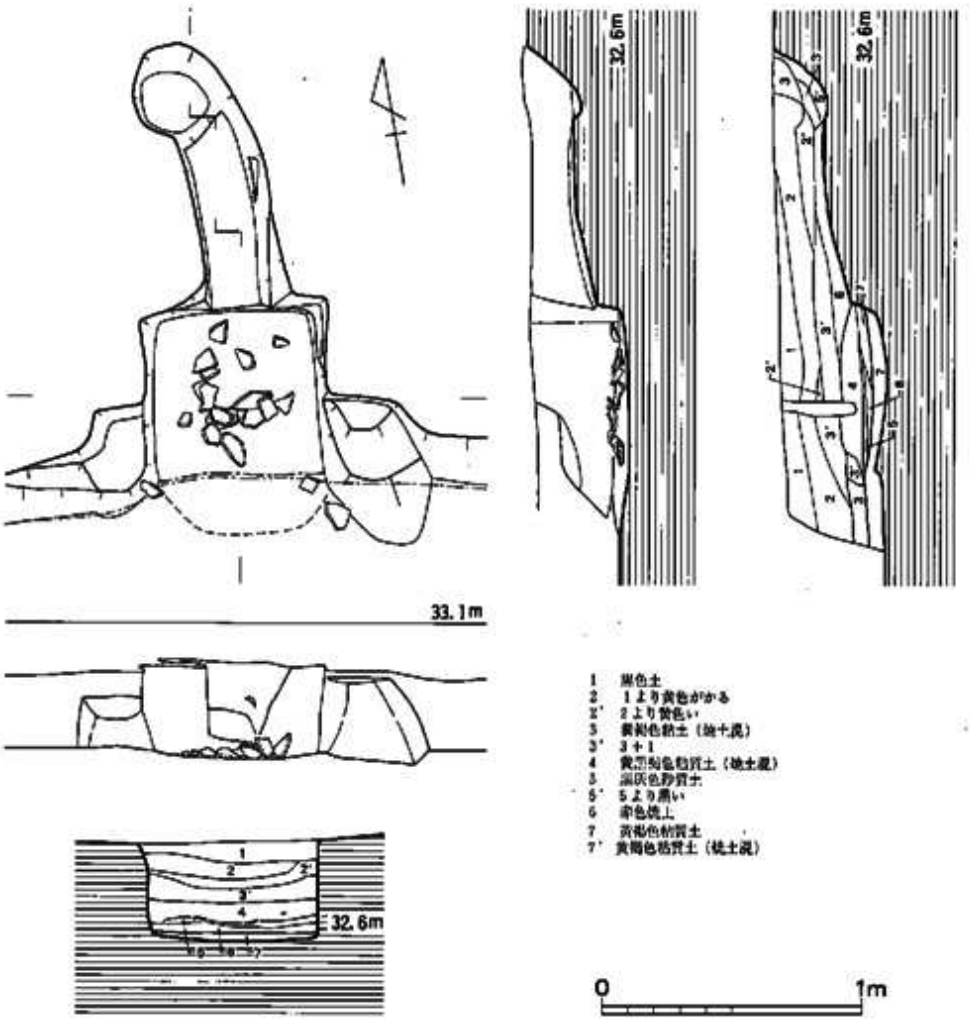
Photo. 16　石成久保I区



第247図　石成久保1区2号住居跡実測図（1/60）

台形状プランを呈する。床面積12.57㎡。カマドは北辺の中央やや東寄りに造り付けられている。カマドを通る主軸方位はN-9.5°-E。主柱穴はP2・P4が明確ではないものの図示した4個とみてよい。P2-P4間が1.5mで、それ以外は1.3mの柱間隔である。カマド前面の西側に作業台石らしい石と土師器高坏が、P3を取り込むピット内およびその南側周辺から須恵器・土師器が出土している。6世紀末～7世紀初頭頃に比定されよう。

カマド（図版105、第248図）　幅60～65cmが約62cm突出し、その先に105cmの長さの煙道が取り付く。煙道先端は少し窪んでいる。このカマドの燃焼部は当初は煙道より5cm前後低く造られていたが、のちに煙道とほぼ同じ高さにまで埋めて使われている。その時燃焼部内にあった土器は残したままであった。



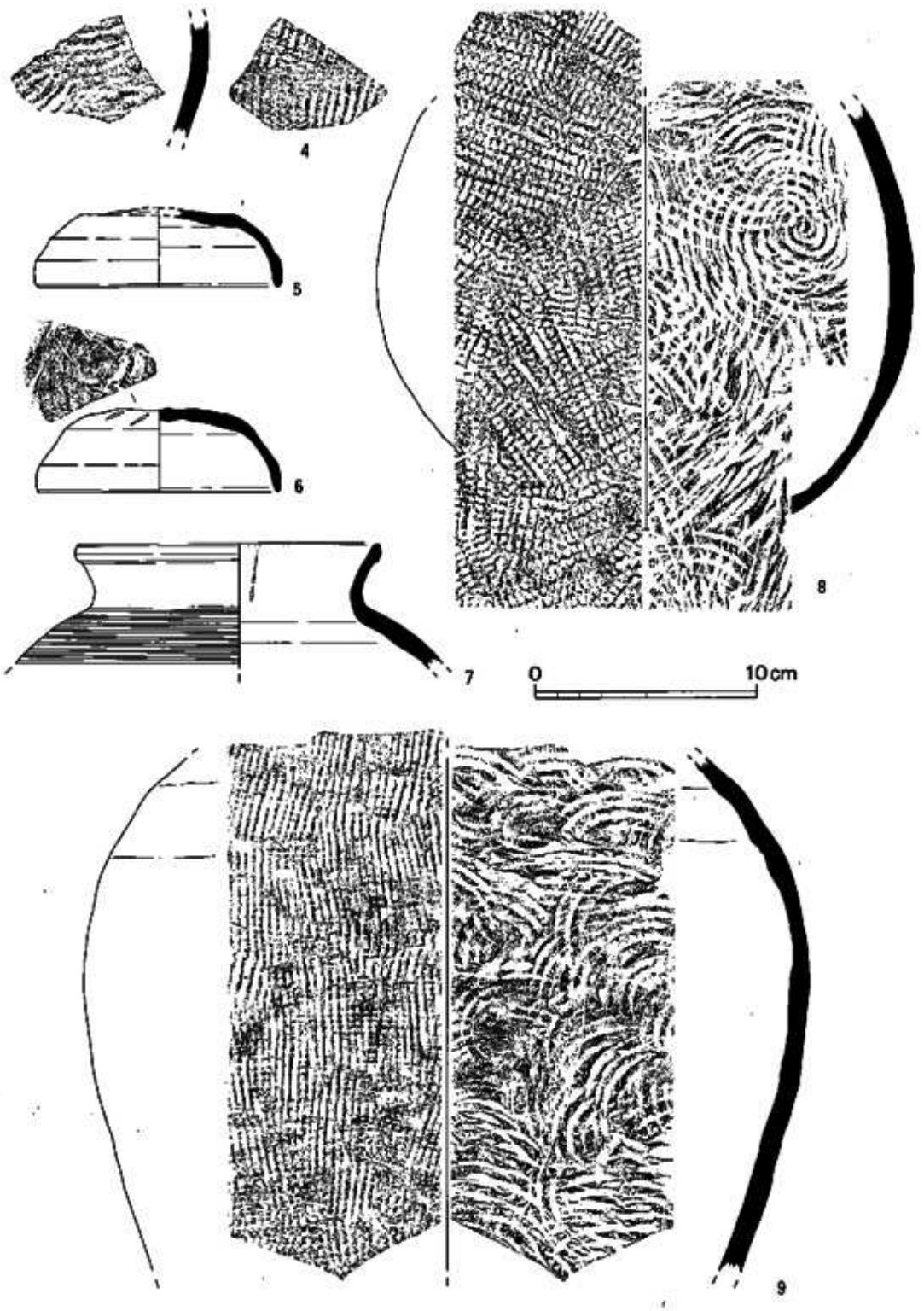
第248図　石成久保Ⅰ区２号住居跡カマド実測図（1/30）

出土遺物（図版108、第249・250図5～16）

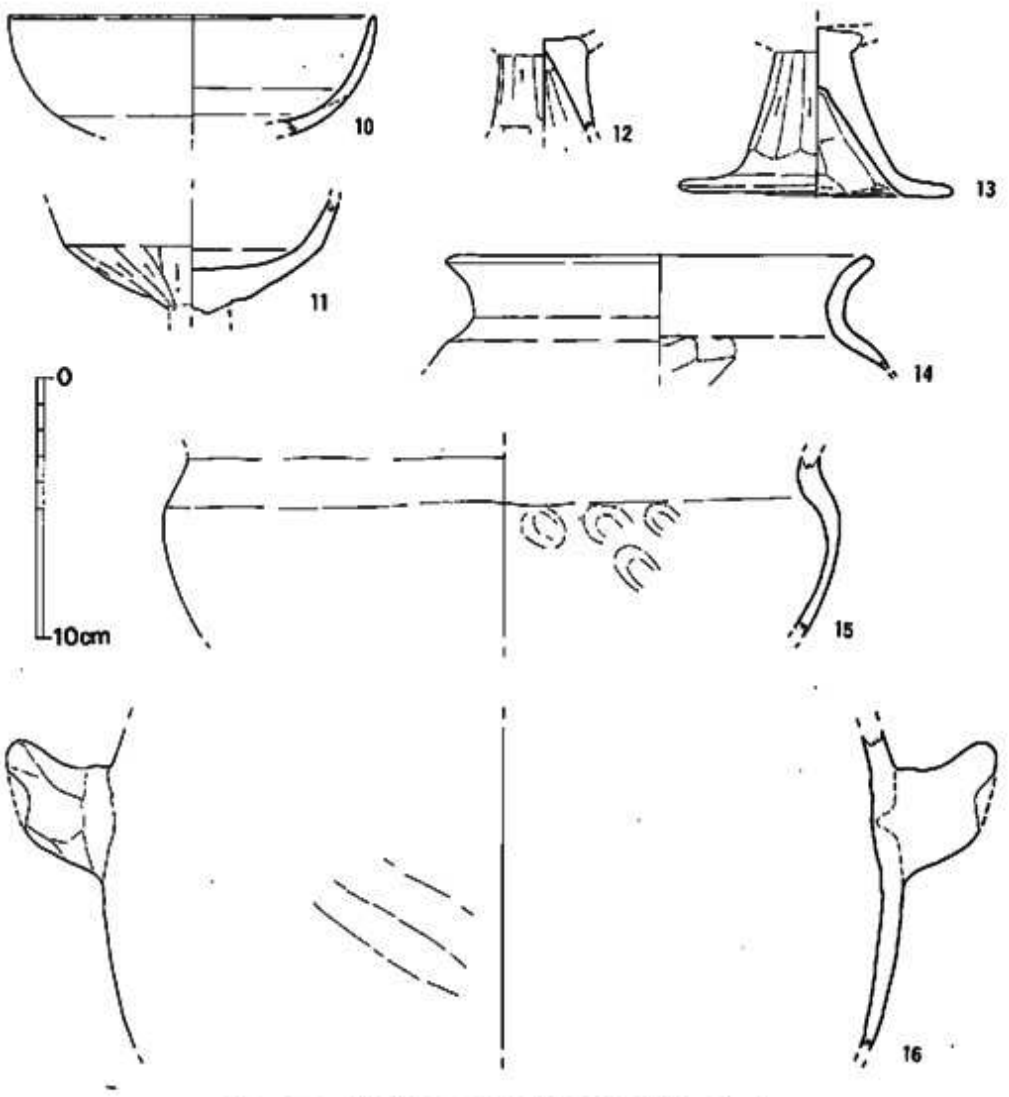
5～9は須恵器、10～16は精製の土師器である。5の坏蓋の外天井部にはヘラ記号が施され、また指紋が残る。5・6とも復原口径11cm。7の頸部内面にもヘラ記号がある。8の外面は格子目タタキ、9は平行タタキである。10は二次熱を受けているらしい。13は据付近にひびが入ったのを補修して焼成している。

2．掘立柱建物跡

Ⅰ区中央南寄りに２棟（ＳＢ１・２）、Ⅱ区西端南側に２棟（ＳＢ３・４）が検出された。



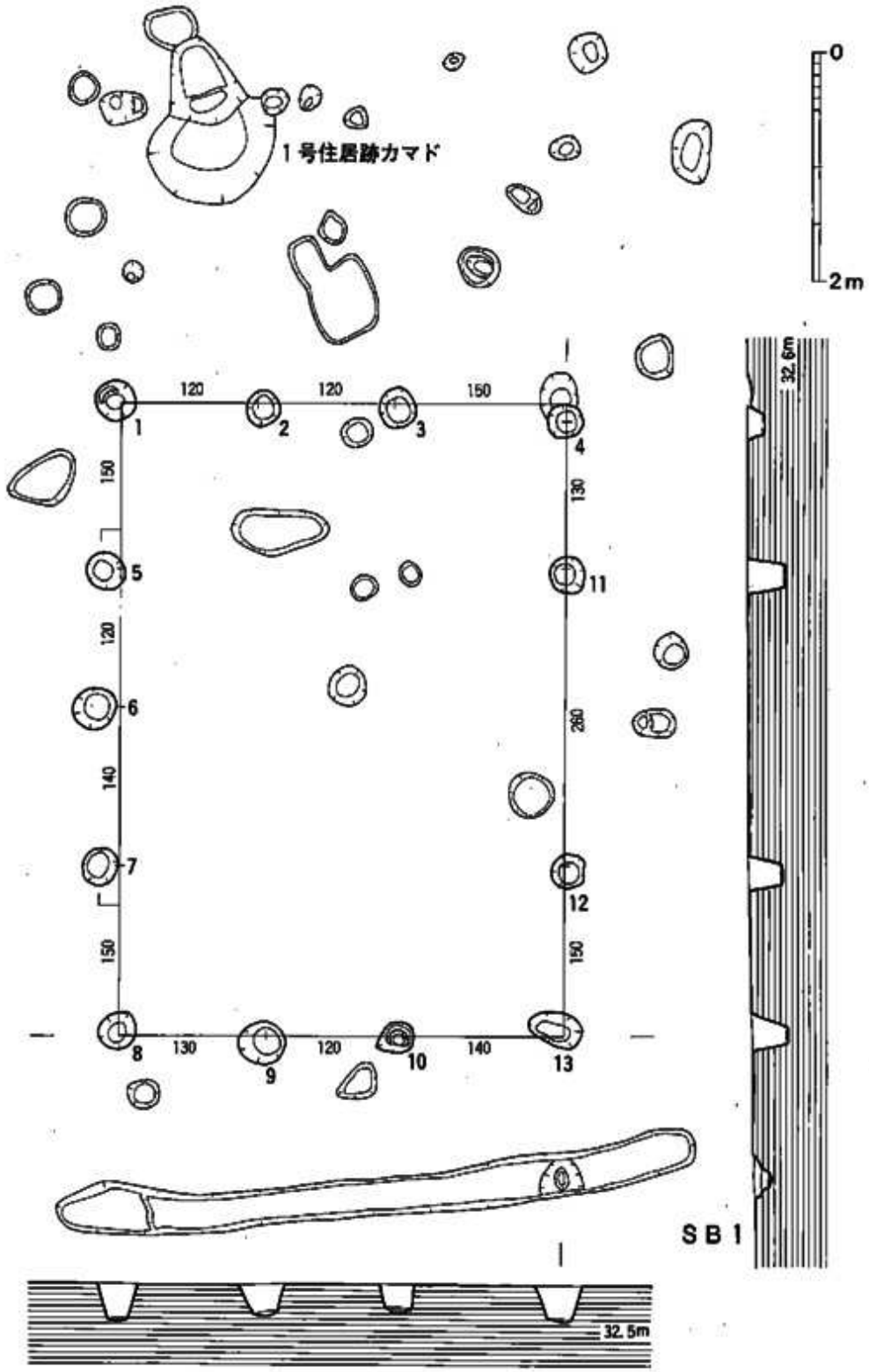
第249図　石成久保１・２号住居跡出土土器実測図（1/3）



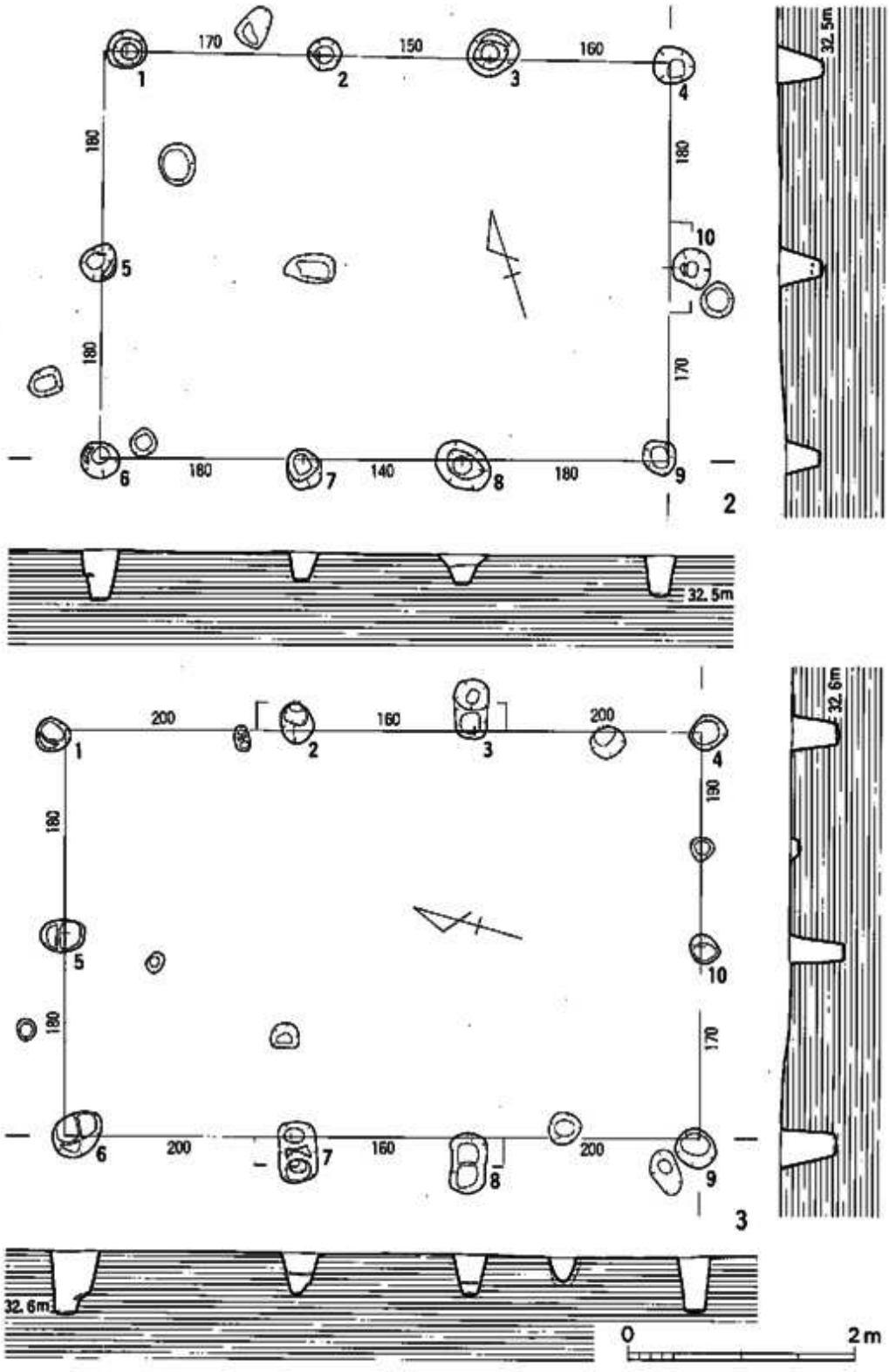
第250図　石成久保２号住居跡出土土器実測図（1/3）

１号掘立柱建物跡［ＳＢ１］（図版106、第251図）

１号住居跡カマドの南にある。梁行は３間で3.9mだが、桁行は東辺が３間、西辺が４間となって5.6mを測る。ただ東辺も４間を意識していたものと思われる。占有面積は21.84㎡。主軸方位はN-30°-E。また、南辺の南側に最大幅45cm、長さ565cmの浅い溝がある。雨落ち溝か目隠し塀の痕跡であろうか。Ｐ３から７世紀代かと思われる須恵器・土師器の破片が出土しているが図示しえない。



第251図　石成久保Ⅰ区ＳＢ１実測図（1/60）



第252図　石成久保Ⅰ・Ⅱ区ＳＢ２・３実測図（1/60）

2号掘立柱建物跡［ＳＢ２］（図版106、第252図）

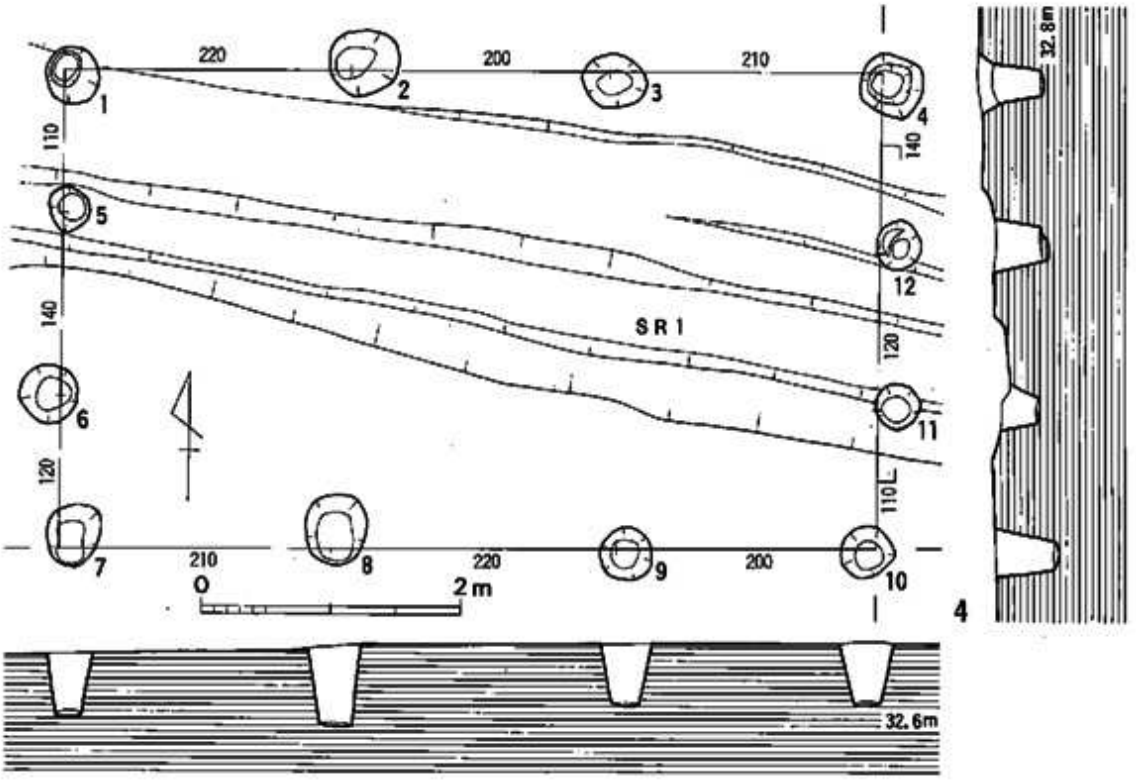
ＳＢ１の北東にある２×３間の建物である。梁行は3.5～3.6m、桁行は4.8～5.0mを測る。桁行中央のＰ２・Ｐ３間とＰ７・Ｐ８間は狭くなる。占有面積は18㎡。主軸方位はN-71°-W。出土遺物はない。

3号掘立柱建物跡［ＳＢ３］（図版106、第252図）

２×３間の建物である。梁行は3.6m、桁行は5.6mを測り、桁行は柱間が東西対称となる。桁行中央のＰ２・Ｐ３間とＰ７・Ｐ８間は狭い。占有面積は20.16㎡。主軸方位はN-16.5°-W。出土遺物はない。

4号掘立柱建物跡［ＳＢ４］（図版106、第253図）

ＳＢ３の北西にある３×３間の建物である。上面を新しい溝（ＳＲ１）に切られている。梁行は3.7m、桁行は6.3mを測る。占有面積は23.31㎡。主軸方位はN-85°-E。



第253図　石成久保Ⅱ区ＳＢ４実測図（1/60）

3．焼土坑

SX1（図版107、第254図）

Ⅰ区のＳＢ２の南、ＳＢ１と２号住居跡のちょうど中間あたりにある。60×70cmほどの東西に長い楕円形プランで深さ20cm。壁面は焼けていないが、堰土上層に焼土が入っている。土師器片と粘土塊がはいっていたが図示しえない。

4．土坑（図版103・108、第255～258図）

Ⅰ区にＳＫとしたもの39基、Ⅱ区にＳＸ２とした１基があった。基本的に黄褐色ロームを混入した灰褐色土もしくは淡黒色土を埋土として、陶器・磁器・鉄線のような鉄器などを出土しており、一見して近時の所産であることは間違いない。いもを貯蔵した穴蔵ではないか、というのは調査に携わった作業員のおじさんの言である。

円形・楕円形・長方形などのプランがあり、深さは20cmから50cmほどまでがあり、あまり深いとはいえない。個別の説明は省略し、一部について図示する。この40～50年ほど前のものであろう。

出土遺物（第259図17～22）

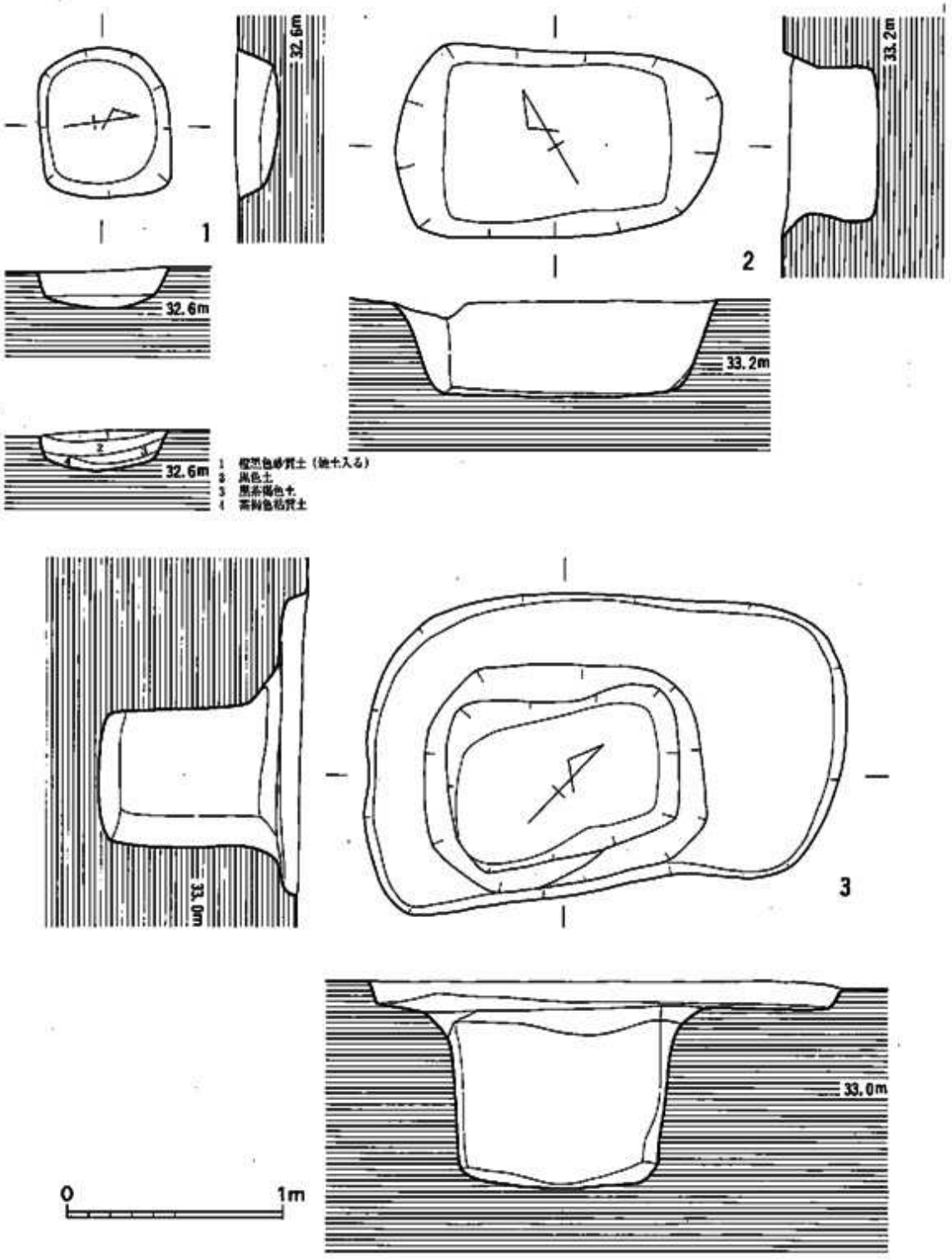
17は磁器碗で、仏飯碗であろうか。ＳＫ１出土。18は染付でＳＫ３出土。19は青磁碗でＳＫ10の出土。20は唐津系の陶器でＳＫ19出土。21は土鍋片でＳＫ20出土。22は須恵器の高台付碗で、ＳＫ32出土。

5．溝その他（図版103、第242・243図）

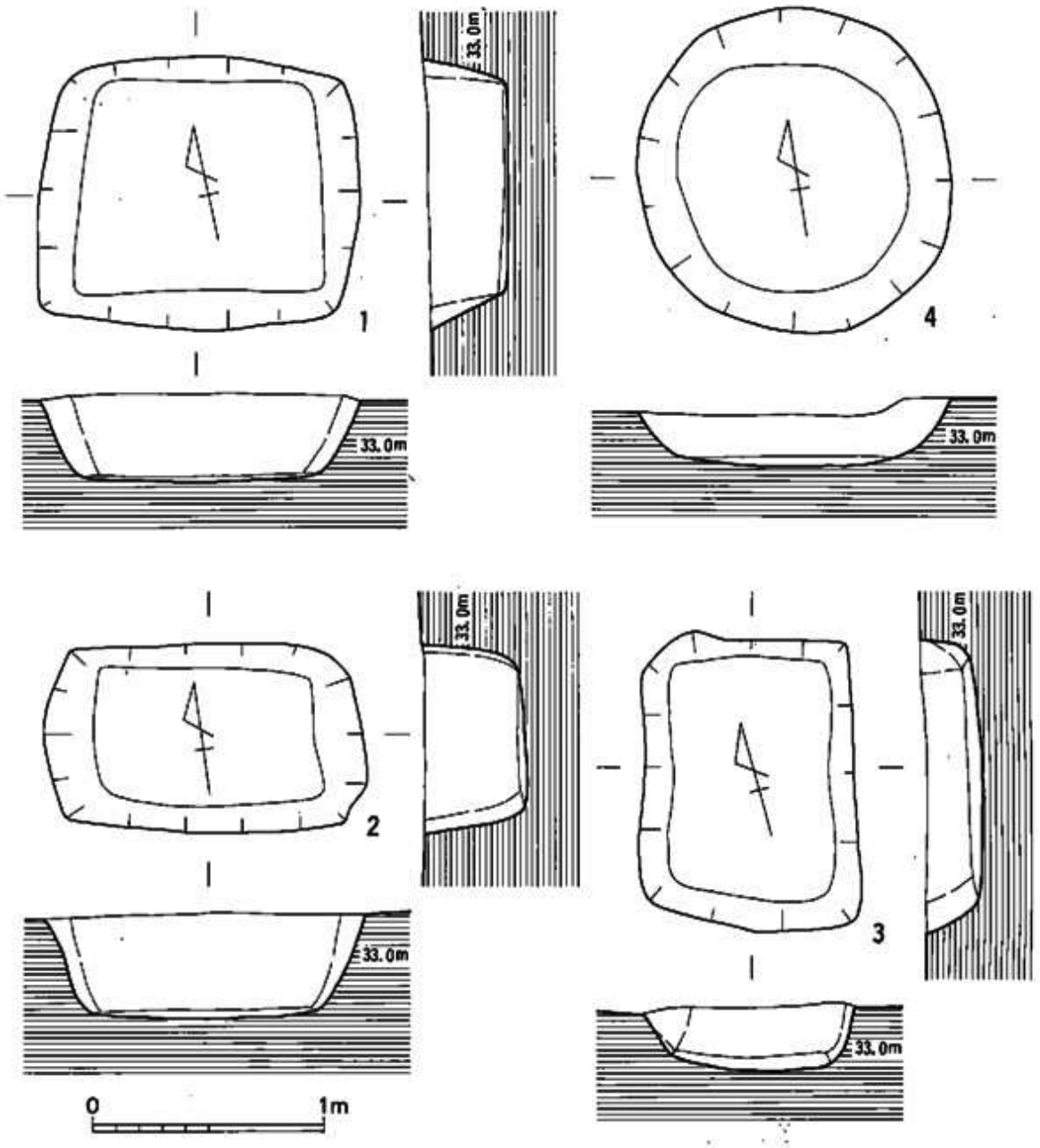
溝としてはⅠ区にＳＤ１、Ⅱ区にＳＤ２～４、ＳＲ１がある。このいずれもが新しいものであり、畑地の区画や深耕に関連するものであろう。時期的には先のＳＫとした土坑と同じと考えたい。ピットは大半が淡黒色粘質土を埋土としていたが、それは地山の変化に近い様相、すなわち柱穴とするには躊躇するような埋土であった。はっきり確認できたものはやはり新しいものが多いようである。

出土遺物（第259図23～26）

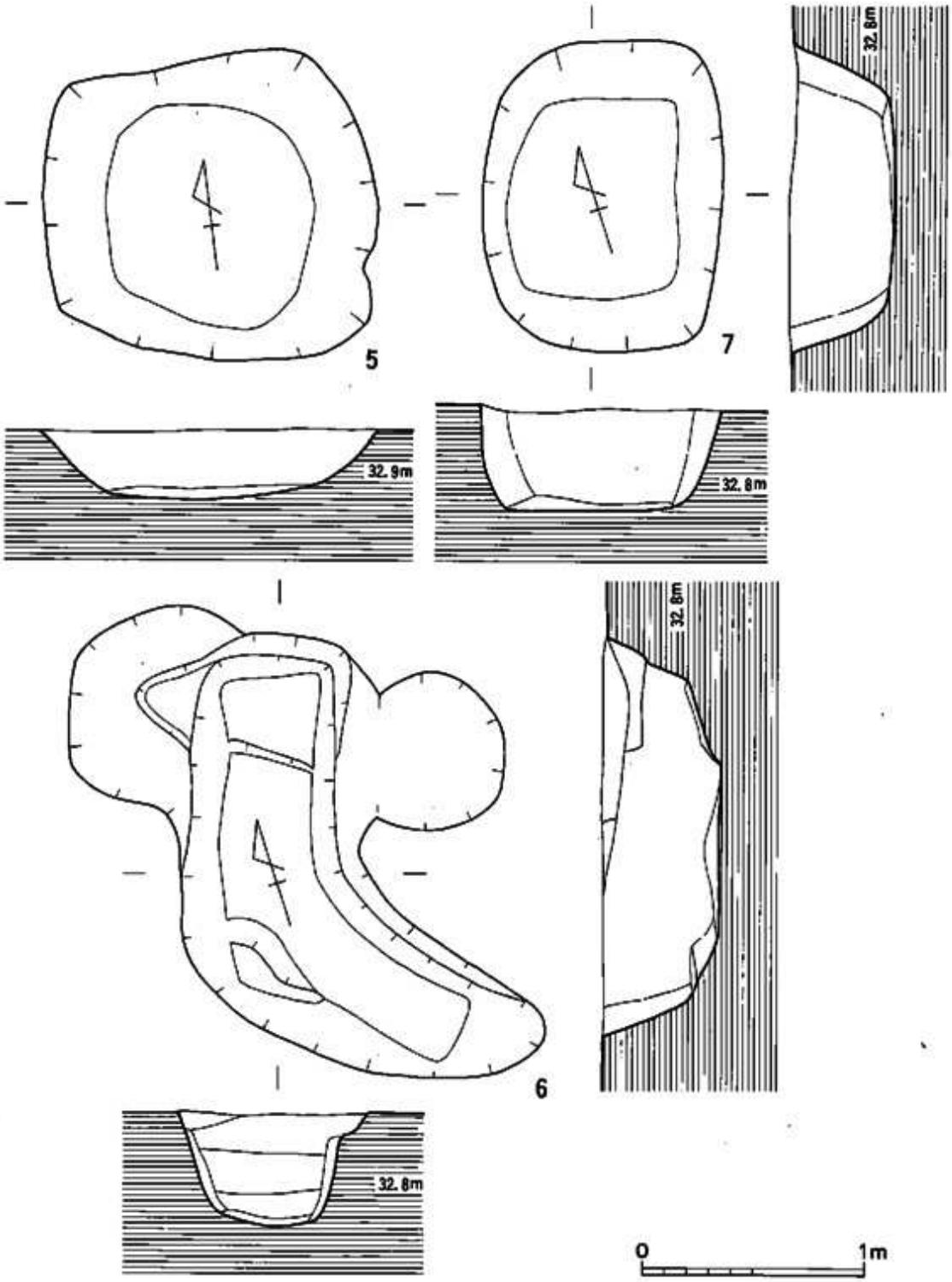
23は染付碗でＳＤ２の出土。24は青磁の鉢でＳＲ１出土。25・26はＰ６出土で、25は陶器壺、26は染付碗。



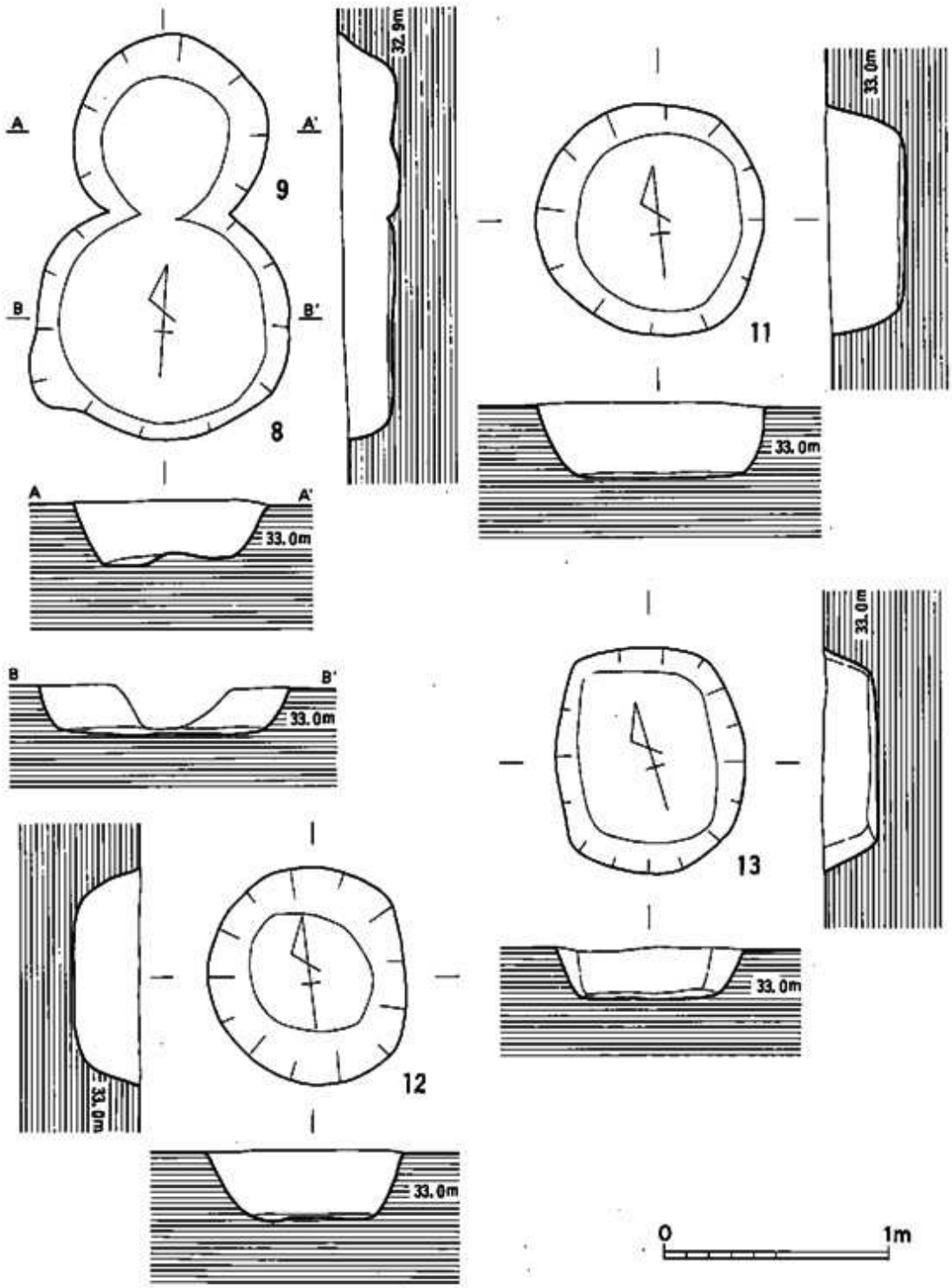
第254図　石成久保Ⅰ・Ⅱ区ＳＸ１～３実測図（1/30）



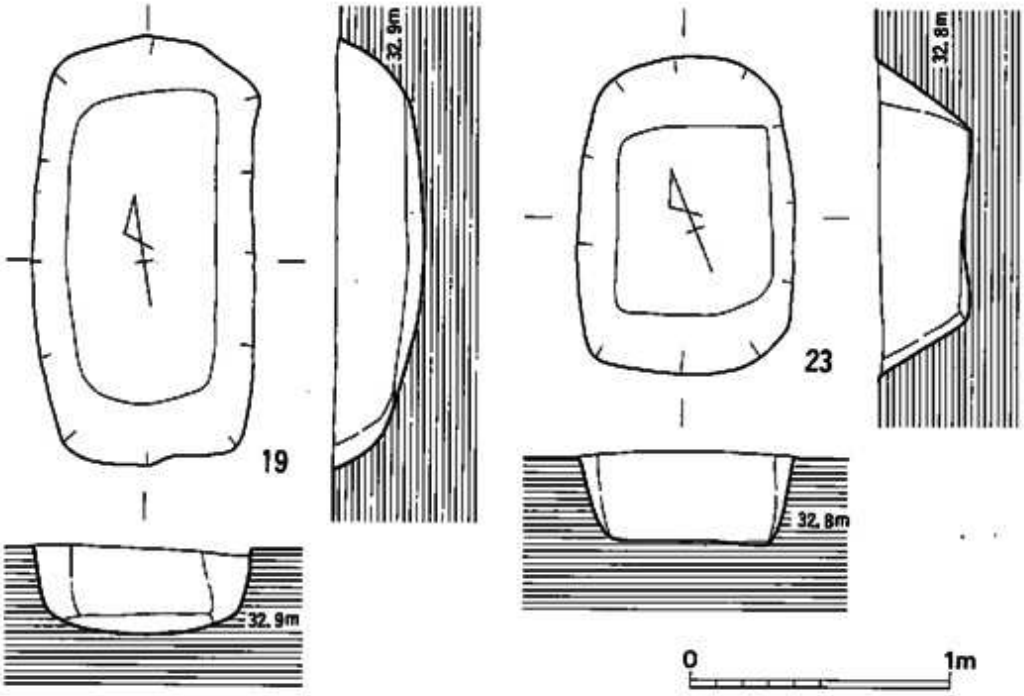
第255図　石成久保Ⅰ区ＳＫ１～４実測図（1/30）



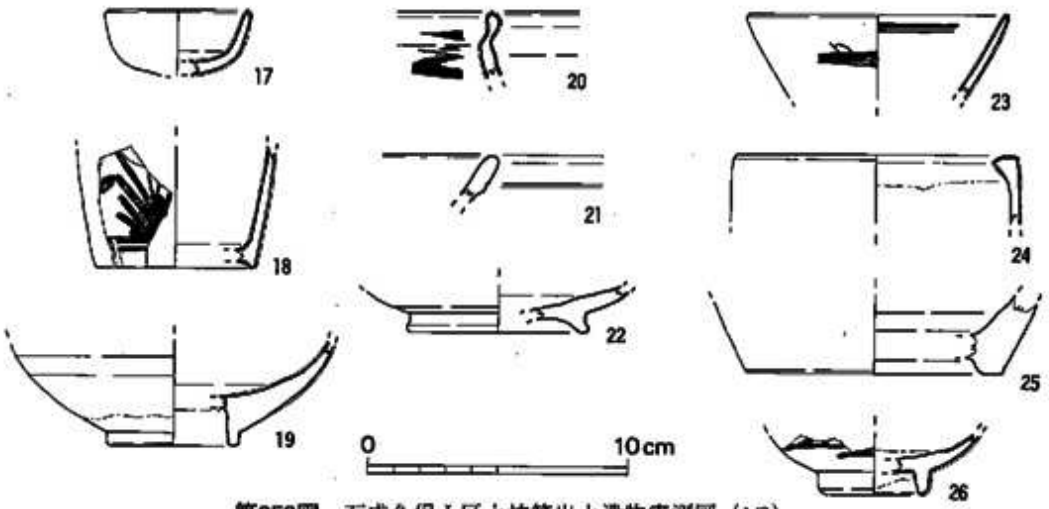
第256図　石成久保Ⅰ区ＳＫ５～７実測図（1/30）



第257図　石成久保Ⅰ区ＳＫ8・9・11～13実測図（1/30）



第258図　石成久保Ⅰ区ＳＫ19・23実測図（1/30）



第259図　石成久保Ⅰ区土坑等出土遺物実測図（1/3）

C．小結

この石成久保遺跡で検出された遺構はあまり多くはなかった。

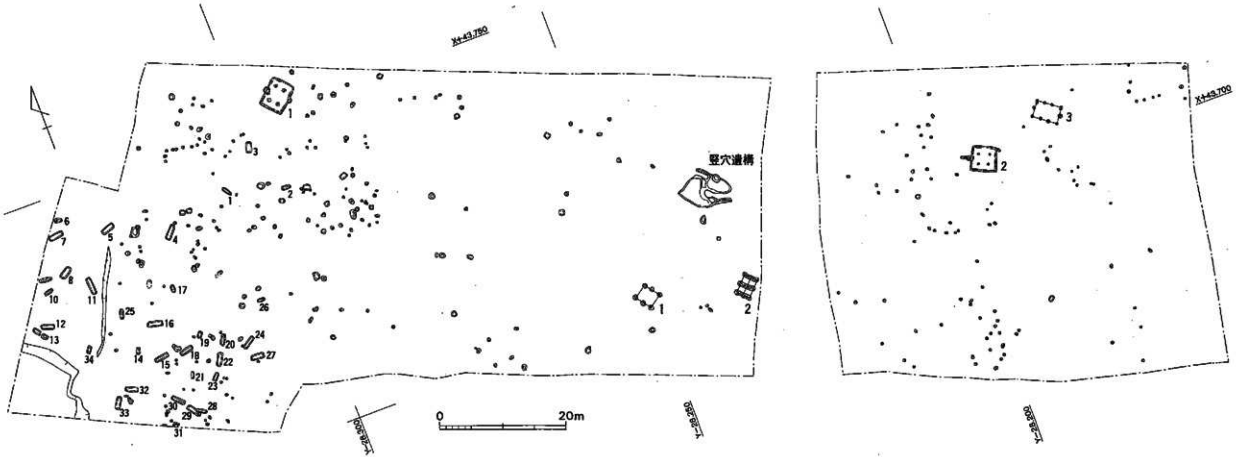
旧石器時代は遺構は見られないが、Ⅱ区採集のサヌカイトのスクレイパーがこの時代に属する物と見られる。

縄文時代は土器片さえも見られなかったが、Ⅱ区の落し穴遺構がこの時期の可能性がある。また、Ⅰ区のグリッド出土の石鏃も同様と思われる。

古墳時代後期以降は、竪穴住居跡の２号が6世紀末～7世紀初頭前後で、１号としたカマドもほぼ同じ時期とみてよいだろう。掘立柱建物４棟は明確な時期比定が難しいが、１号の柱穴から出土した須恵器・土師器片が7世紀代と思われるので、他の３棟も棟方向は合わないがほぼ同じ頃と見ておきたい。そうすると竪穴住居跡ともあまり時期を異にするものではないだろう。ここで１号住居跡としたカマドは１号掘立柱建物に伴う屋外炉の可能性もあることを再度述べておきたい。これら古墳時代後期以降の住居・建物跡は調査区の南端近くで検出されており、該期の集落の本体はさらに南側に展開するのは間違いないところである。

この遺跡では近時の「いも貯蔵穴」と思われる土坑も検出された。全くの憶測であるが、先の大戦後の食料難の時期に活用されたものではないだろうか。

Photo.17　古塔塚のナンジャモンジャ



第260図　大道端遺跡遺構図（1/600）

V　大還端遺跡の調査

[調査経過と概要]

大還端遺跡は、試掘調査の結果、竪穴住居跡と思われる4m程の方形プランを2基検出したので、県道塔ノ瀬十文字小郡線の東側部分について、長さ190m×幅47mの8,930㎡を調査対象地とした。しかし、調査区の南西部で土壙墓を28基検出し、土壙墓群は南側に拡がることが十分予測されたので、南西端を長さ44m×幅8mの約350㎡拡張した。その結果、6基の土壙墓を追加した。

表土除去作業には重機を用い、昭和60年11月15日から11月27日まで行った。発掘調査は、翌年早々の1月7日から開始し、1月31日までの実質20日間に及んだ。

調査面積は9,300㎡程であったが、遺構密度は非常に希薄であり、6世紀後半の竪穴住居跡2軒・掘立柱建物跡3棟・竪穴遺構1基・ピット及び8世紀中～後半の土壙墓34基が検出されたにすぎない。土壙墓は調査区南西部に群集する。調査以前は畑地・植木畑であり、深耕により遺構の遺存状態は極めて悪い。

A．遺構と遺物

1．竪穴住居跡

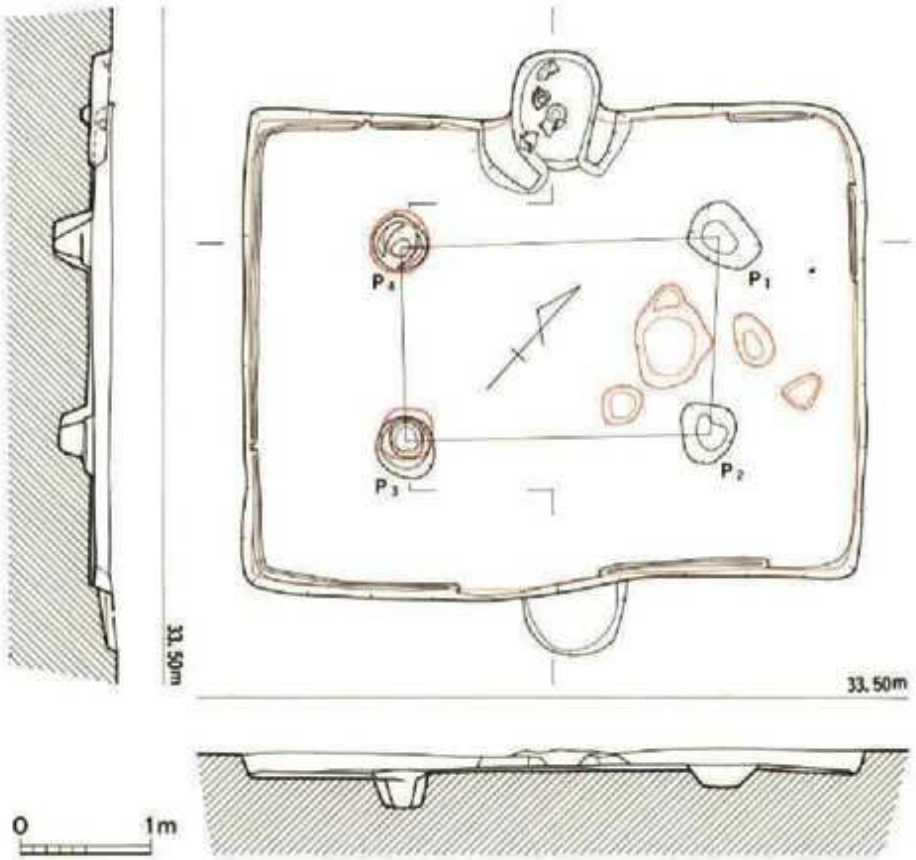
1号住居跡（図版110・112、第261・262図）

調査区の北西端に単独で位置する。平面形は横位長方形を呈し、北西壁長4.52m、南西壁長3.58mで、壁高は北西側で14cmと著しい削平を受ける。主柱穴はP1～4で、径0.38～0.56m、深さ0.2～0.26mを測る。柱間はP1－2間1.52m、P1－4間2.46mの間隔を有する。カマドの対面にあるピットは、当住居に切られ、無関係。埋土中から土師器が出土した。

カマド（第262図）　住居壁をコ字形に掘込む突出型で、北西壁中央に付設する。焚口幅25cm、奥壁までの長さ91cmを測る。袖部には暗茶褐色土を盛っており、右袖の長さ51cm、基底部幅31cm、残高9cm、左袖は長さ64cm、基底部幅42cm、残高8cmを測る。カマド床面中央には支脚を抜き去った径15cmの小穴がある。煙道は削平により遺存しないものと思われる。浮いた状態で土師器が出土した。

出土遺物（図版124、第263・266図）

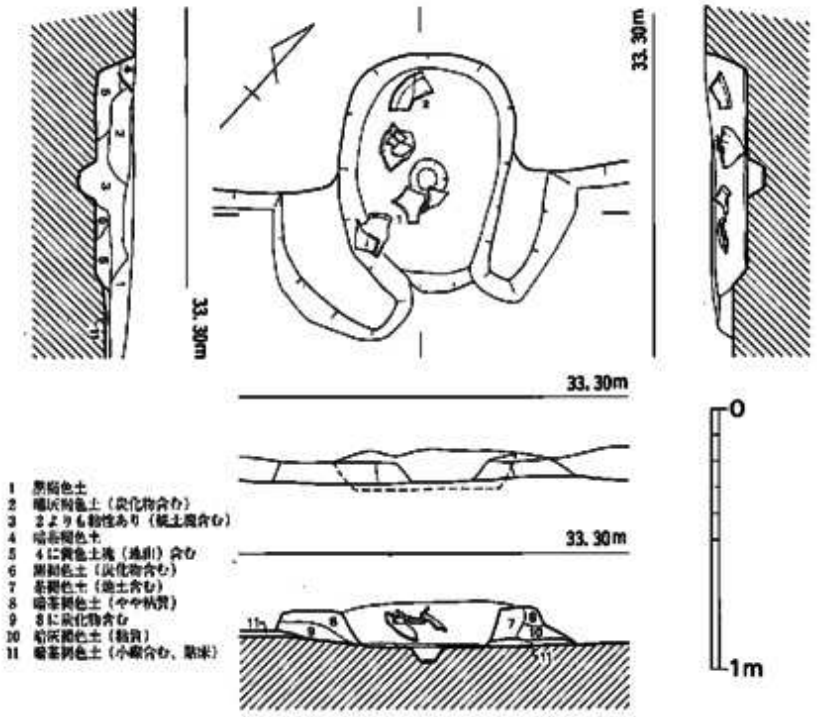
土師器（1～6）1は球胴の甕で、床面直上とカマド内出土の破片が接合した。口縁部は肥厚せずに緩く外反する。推定器高31.5cm、復原口径は31.6cm程になろう。器面調整は口縁部ヨコナ



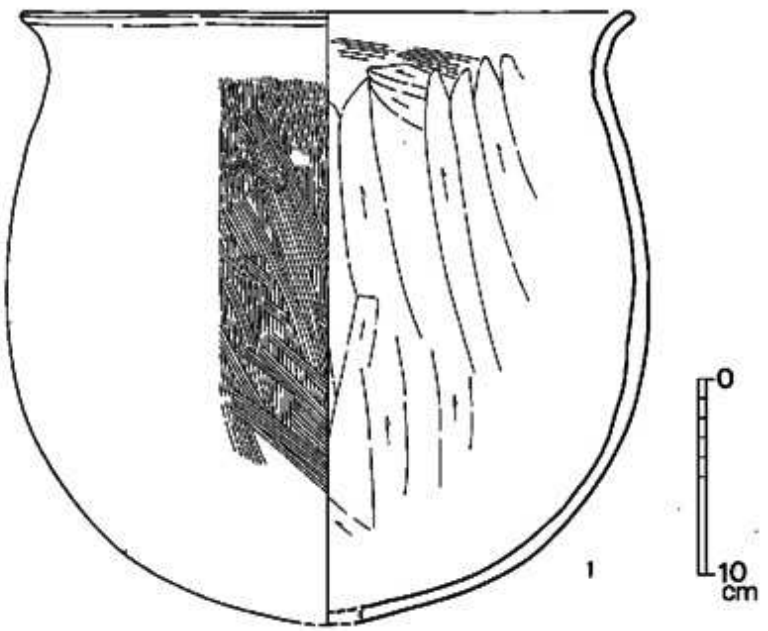
第261図　大還端1号住居跡実測図（1/60）

デ、外面ハケ目（7条／cm）、内面ヘラケズリによる。焼成は良好で、淡褐色を呈する。2は口頸部破片で、口縁部は肥厚せず外方に屈曲する。口径は33.4cmに復原した。口縁部ヨコナデ、外面工具ナデ、内面ヘラケズリ調整による。器形からして甕になるか。3は小型甕で、口径は15.2cmに復原した。4～6は甑片で、4・5が把手部、6は底部の破片である。

Photo.18　大還端遺跡を望む



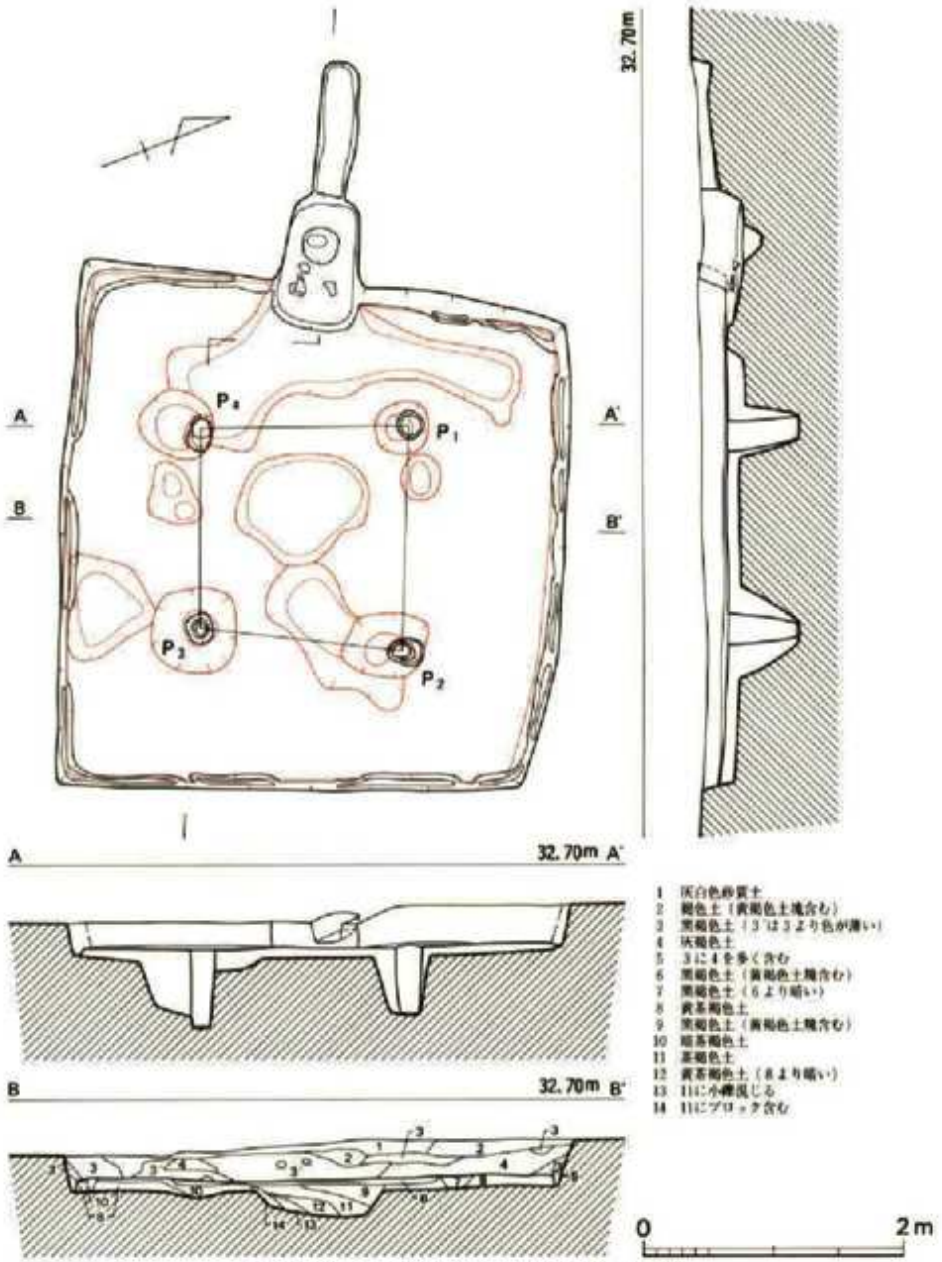
第262図　大還端1号住居跡カマド実測図（1/30）



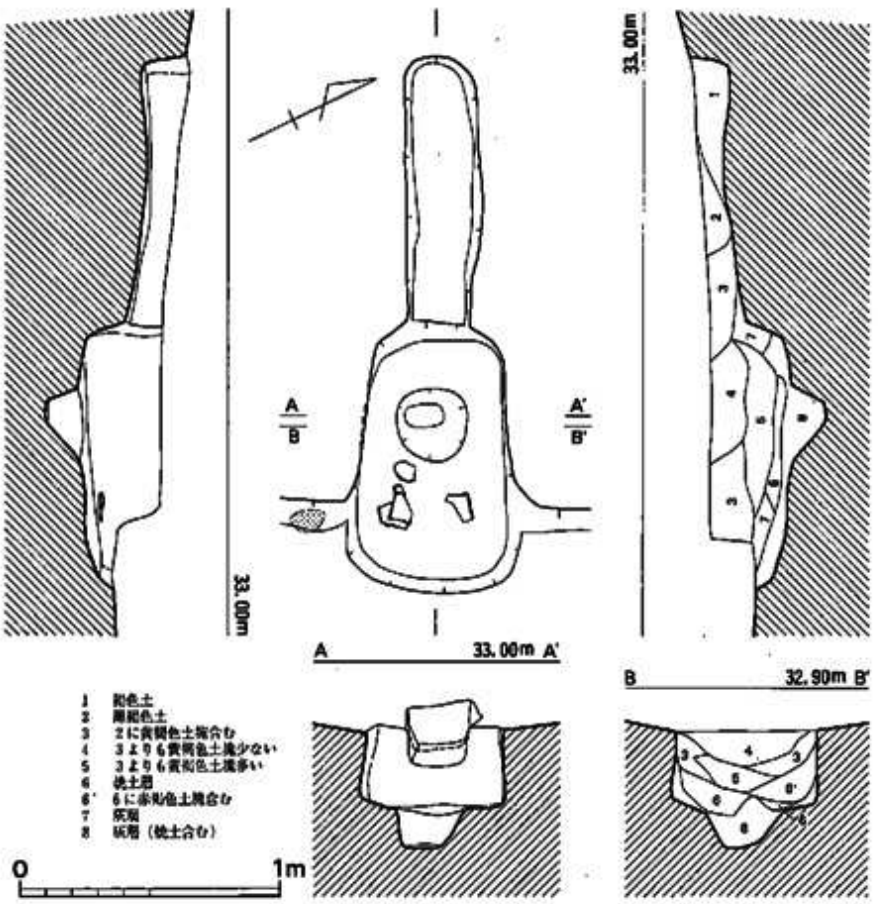
第263図　大還端1号住居跡出土土器実測図（1/4）

2号住居跡（図版111・112、第264・265図）

調査区の北東部で、3号建物跡の8m西側に位置する。平面形は長方形を呈し、南壁長4.02m、西壁長3.72mの規模で、壁高は北壁側で0.3m遺存する。主柱穴はP1～4で、径0.2～0.26mの柱痕跡を確認した。柱穴の深さは0.54～0.62mと片腕程の長さがある。貼床を剝がしたところ、0.4～0.65mの柱掘形を検出した。柱間はP1－2間1.73m、P1－4間1.6mの間隔を有する。



第264図　大還端2号住居跡実測図（1/60）



第265図　大遺端2号住居跡カマド実測図（1/30）

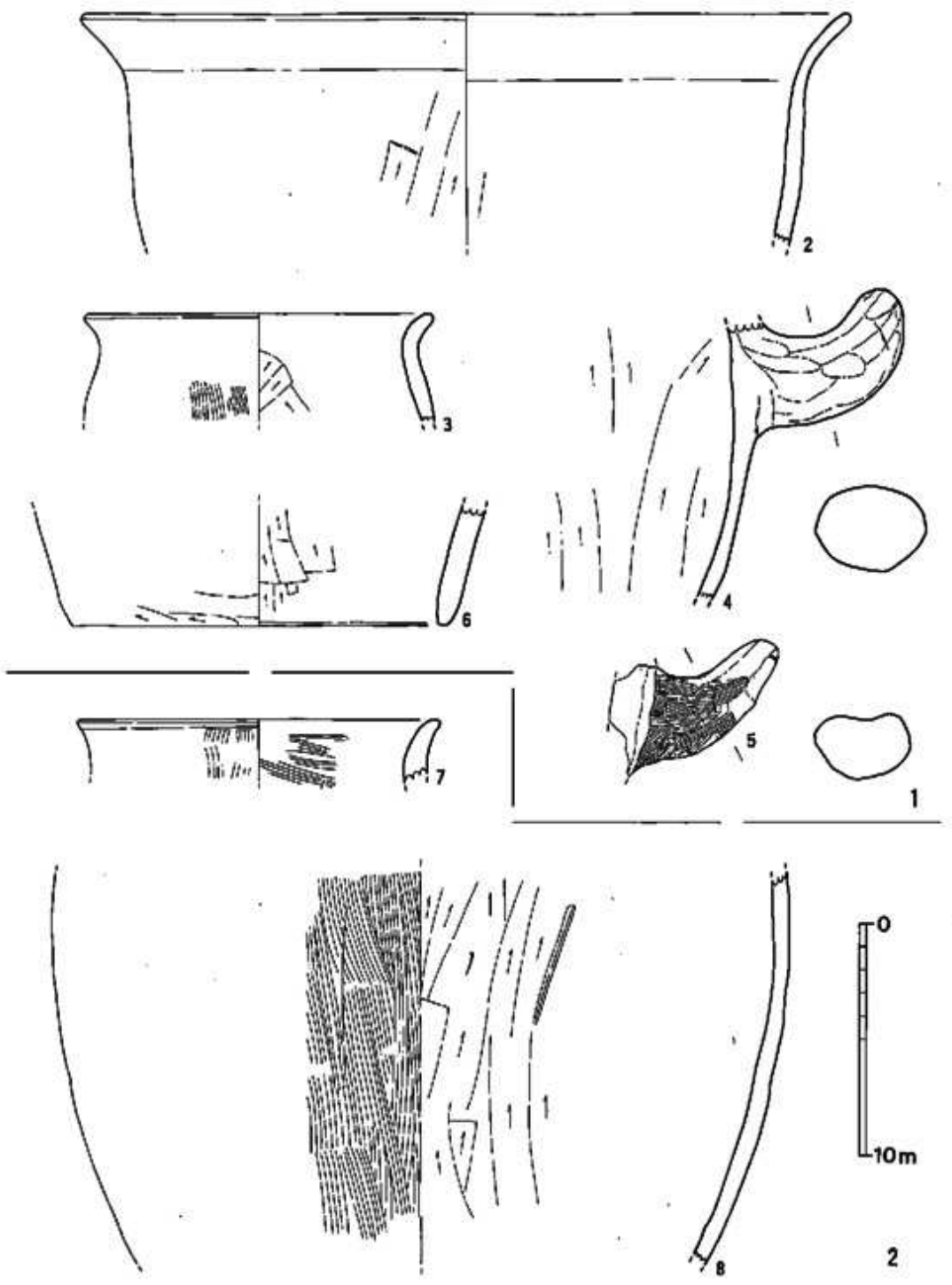
カマド（第265図）　本例も突出型で、西壁中央に付設する。遺存状態は悪く、両袖部を留めていない。壁体は長方形を呈し、長さ1.03m、幅0.62m、壁高0.32mを測る。火床面には0.28mの小ピットがあり支脚を抜き去ったものであろう。煙道の遺存状況は割合良好で、長さ1.02m、先端部幅0.27m、同深さ0.19mを測る。埋土中から土師器が出土した。

出土遺物（第266図）

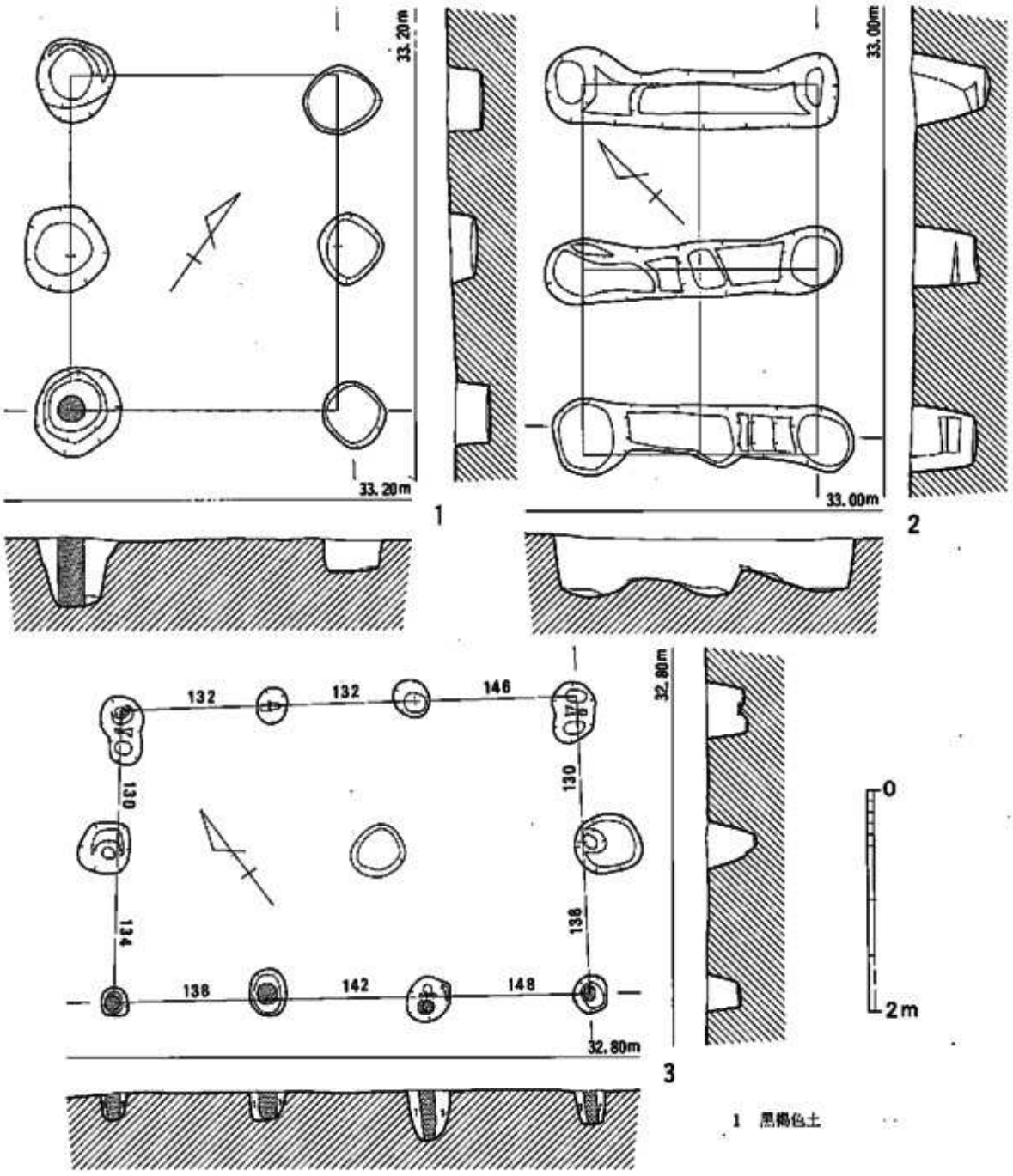
土師器（7・8）7はカマド内出土の小型甕の口縁部小片で、復原口径は15.8cm。8は胴下半部破片で、甕もしくは甑になろう。外面ハケ目、内面ダイナミックなヘラケズリによる。

2．掘立柱建物跡

1号建物跡（図版113、第267図）



第266図　大還端1・2号住居跡出土土器実測図（1/3）



第267図　大遠端1～3号掘立柱建物跡実測図（1/60）

調査区の中央南側に位置する。梁行1間×桁行2間の建物で、梁行8尺（2.4m）、桁行10尺（3m）とした。柱掘形は円形を呈し、径0.6～0.8mで、深さは0.3～0.6mを測る。桁行方位はN-35°30′-Wを示す。掘形が大きく、梁行の柱間が広いことから高床倉庫と考えられる。柱穴からの出土遺物はない。

2号建物跡（図版113、第267図）

1号建物跡の12m東側に位置する。梁行2間×桁行2間の総柱倉庫で、梁行7尺（2.1m）、桁行11（3.3m）尺とした。柱掘形は布掘りで、深さは0.5mを測る。桁行方位はN-45°-Eを示す。柱穴からの出土遺物はない。

3号建物跡（図版114、第267図）

調査区の北東部で，2号住居跡の8m東側に位置する。梁行2間×桁行3間の建物跡で、北東側梁行2.68m（9尺）、南西側桁行4.28m（14尺）規模である。柱掘形は円形を呈し、径0.3～0.6m、深さ0.24～0.43mを測る。柱穴埋土は黒褐色を呈し、10数cmの柱痕跡が確認された。梁行方位はN-36°30′-Eを示す。遺物の出土はなかった。

3．竪穴遺構

1号竪穴遺構（図版114、第268図）

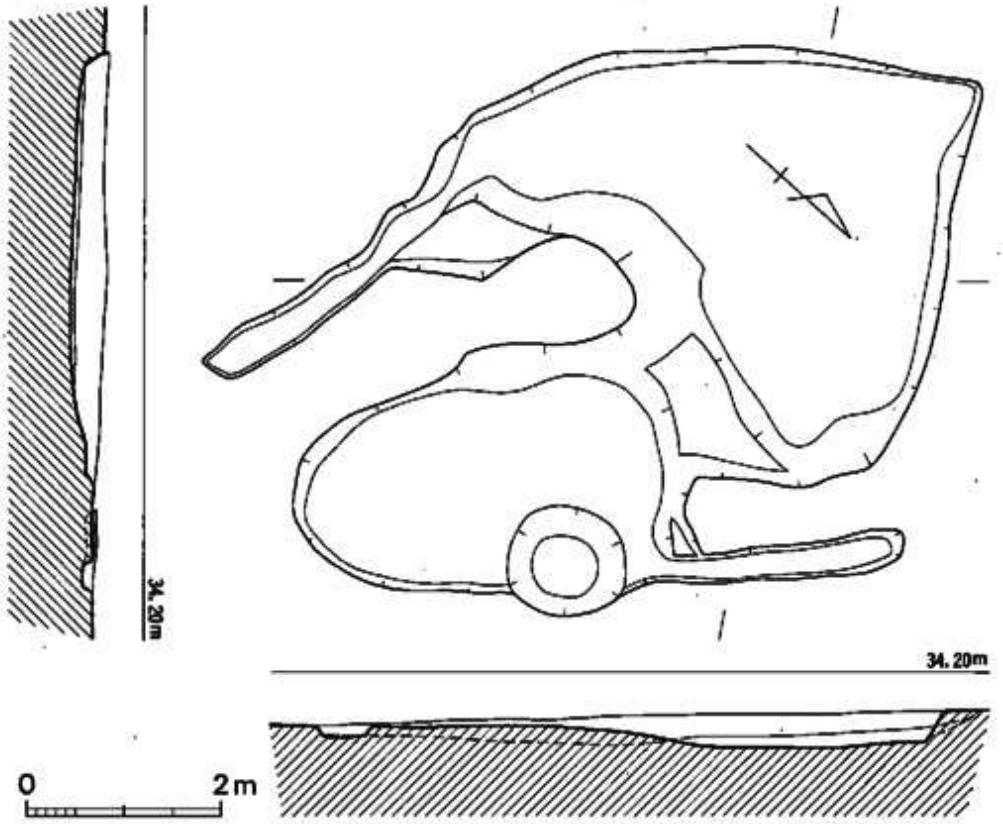
調査区の中央で，2号建物跡の12m北側に位置する。埋土は黒色土で、検出当初は竪穴式住居ということで掘下げたが、不整形を呈することから竪穴遺構とした。南北長5.3m、東西長4.4m、深さ0.36mを測り、北側と南側とに溝状の遺構が付随する。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（図版124、第269図）

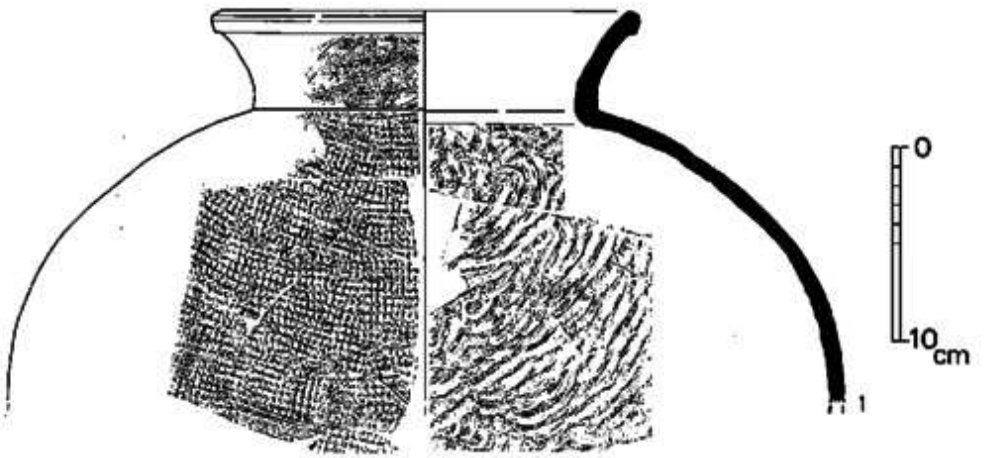
須恵器（1）1は須恵器甕の口縁部～胴部破片である。口縁部は大きく外反し、端部は若干肥厚

Photo.19
2号建物跡発掘中

する。器面調整は外面格子タタキ、内面同心円タタキによる。焼成は堅緻で、色調は灰色を呈する。頸部外面には「＋＋」のヘラ記号を付している。



第268図　大還端1号竪穴遺構実測図（1/80）



第269図　大還端1号竪穴遺構出土土器実測図（1/4）

4．土壙墓（図版109・115～123、第279図）

1号土壙墓（図版116、第270図）

1号住居跡の14.5m南西側に位置する。長方形を呈し、長軸152cm、短軸34cm、深さは7cmと著しい削平を受ける。屍床面は南側が若干下がる。小口幅が広い北西側が頭位で、頭位方向はN-34°30′-Wを示す。出土遺物はなかった。

2号土壙墓（図版116、第270図）

1号土壙墓の8m東側に位置する。隅丸長方形を呈し、長軸135cm、短軸54cm、深さ16cmを測る。屍床面は中央が若干下がる。小口幅が広い西側が頭位で、頭位方向はN-84°-Wを示す。出土遺物はない。

3号土壙墓（図版116、第270図）

1号土壙墓の7m北東側に位置する。隅丸長方形を呈し、長軸158cm、短軸75cmで、深さは7cmと削平が著しい。屍床面は北側が高く、南側に下がっている。小口幅が若干広い南側を頭位とすると頭位方向はS-20°-Wを示す。出土遺物はない。

4号土壙墓（図版116、第270図）

1号土壙墓の9.5m南西側に位置する。大型の土壙墓で、平面形は長方形を呈し、長軸230cm、短軸63cm、深さ25cmを測る。屍床面を一旦掘り窪め、貼床を施している。頭位は南西側で、頭位方向はS-41°-Wを示す。床面から浮いた状態で、割れた須恵器坏身が出土した。

出土遺物（図版124、第278図）

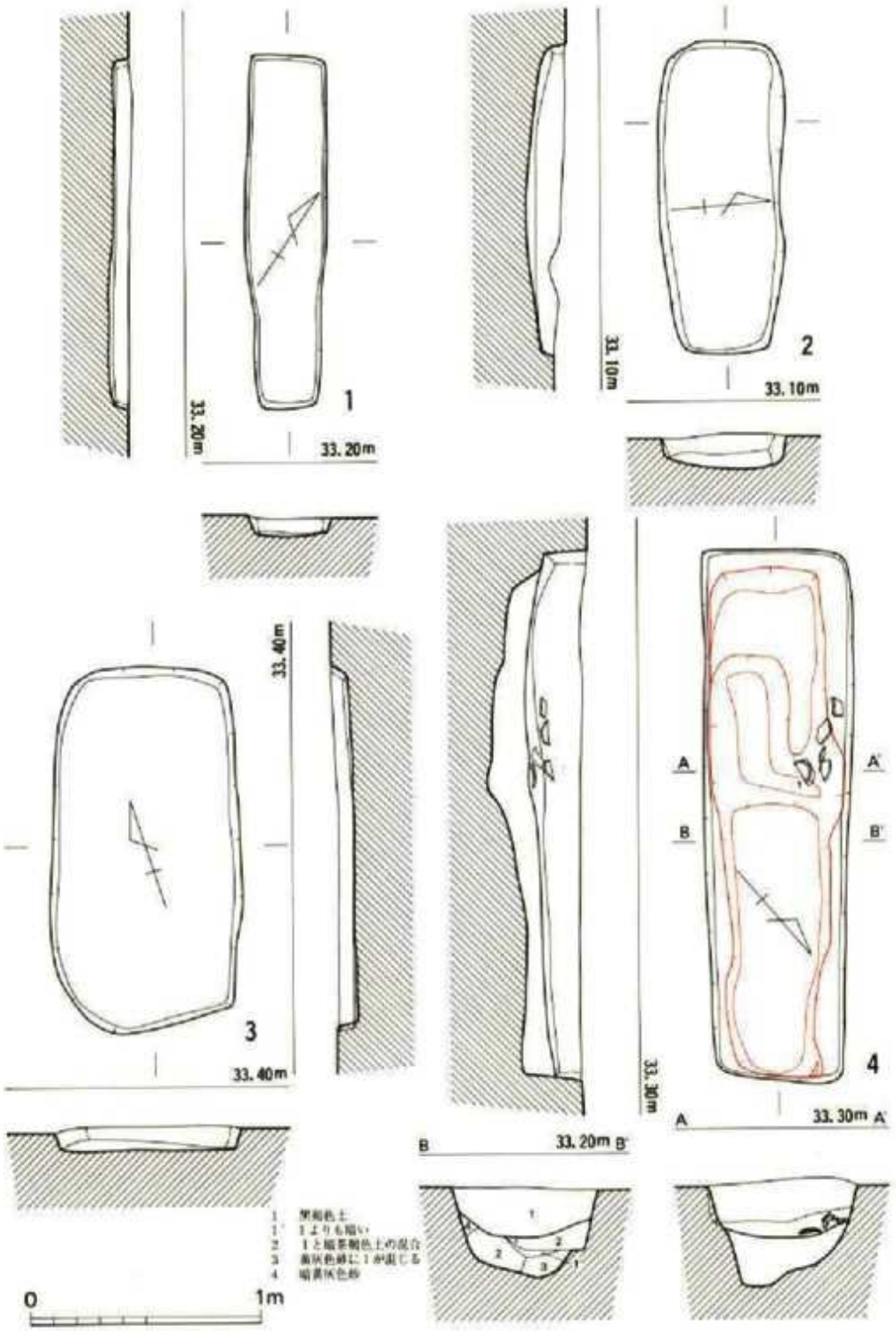
須恵器（1）1は高台付坏身で、口縁部は内湾気味に開く。器高に比して口径が大きく、低めの高台を貼付する。器高4.5cm、口径14.8cm、高台径9.9cmを測る。体部は回転ナデにより、外底部はヘラケズリを留める。焼成は堅緻で、色調は暗灰色を呈する。

5号土壙墓（図版117、第271図）

4号土壙墓の8.5m北西側に位置する。隅丸長方形を呈し、長軸210cm、短軸70cm、深さ19cmを測る。屍床面は水平である。東側が頭位で、頭位方向はN-68°30′-Eを示す。出土遺物はない。

6号土壙墓（図版117、第271図）

5号土壙墓の7m北西側に位置する。長円形を呈し、長軸108cm、短軸58cm、深さ27cmを測る。頭位は西側で、頭位方向はN-72°-Wを示す。屍床面のピットは後世のもの。



第270図　大還端1～4号土壙墓実測図（1/30）

7号土壙墓（図版117、第271図）

6号土壙墓の1.5m南側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸233cm、短軸75cm、深さ27cmを測る。屍床面は西側が一部下がっている。東側には須恵器坏身・坏蓋のセットが二個体分あり、床面から浮いた状態で出土した。小口幅がやや広い西側を頭位とすると、供献土器は足もとに置かれたことになる。頭位方向はS-82°30′-Wを示す。

出土遺物（図版124、第278図）

須恵器（1～4）1・2は坏蓋で、口縁部は鳥嘴状をなす。天井部は低く、扁平な釦形の摘みを貼付する。口縁部ヨコナデ、外天井部回転ヘラケズリによる。口径は1・2ともに13.7cmで、器高は1が2.3cm、2は2.5cmを測る。焼成は堅緻で、暗灰色を呈する。2は焼き歪みが著しい。3・4は高台付坏身で、やや深めの器形。高台は低めで、底部はへたばる。口径は3が13.0cm、4は12.6cmで、器高は3が4.9cm、4は5.2cmを測る。焼成は堅緻で、色調は暗灰色を呈する。

8号土壙墓（図版117、第272図）

7号土壙墓の5m南側に位置する。平面形は不整長方形を呈し、長軸204cm、短軸93cm、深さは29cmを測る。屍床面は中央が窪む。頭位は北東側で、頭位方向はN-55°-Eを示す。埋土中からの出土遺物はない。

9号土壙墓（図版118、第272図）

8号土壙墓の1.5m西側に位置する。長円形を呈し、長軸193cm、短軸60cm、深さ28cmを測る。屍床面は中央が窪み、後世のピットに切られる。頭位は西側で、頭位方向はN-84°-Wを示す。遺物は出土していない。

10号土壙墓（図版1118、第271図）

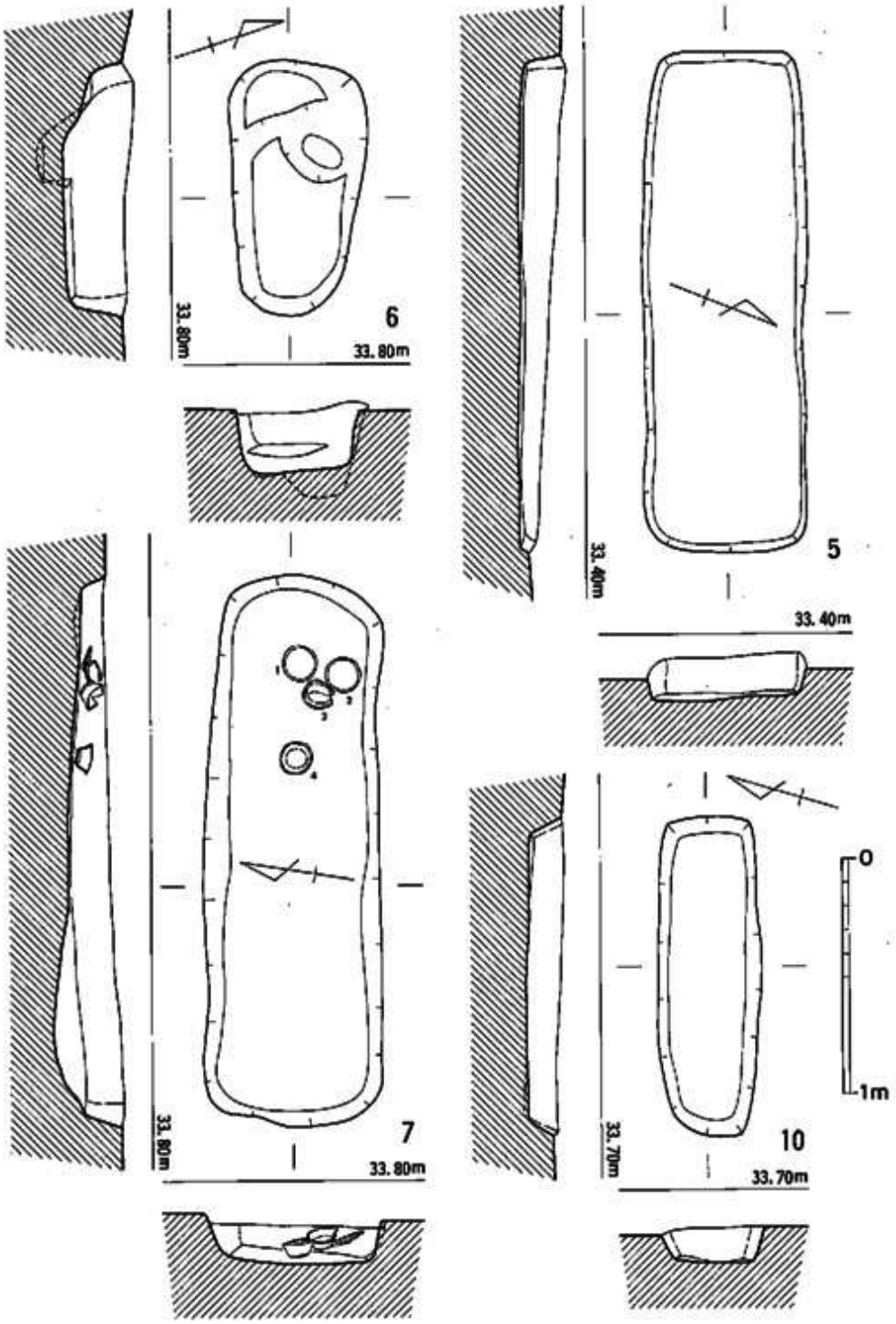
9号土壙墓の1.5m南側に位置する。小型の土壙墓で、長軸136cm、短軸43cm、深さ15cmを測る。屍床面は水平で、小口幅がやや広い東側が頭位になろう。頭位方向はN-74°-Eを示す。出土遺物はなかった。

11号土壙墓（図版118、第273図）

8号土壙墓の3m南東側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸216cm、短軸73cm、深さ25cmを測る。屍床面が南側に下がることから北側が頭位で、頭位方向はN-5°30′-Eを示す。埋土中から土師器坏の小片が出土した。

出土遺物（第278図）

土師器（1）1は坏の口縁部小破片で、口縁部は小さく立つ。口唇部は丸く納め、外面にキザミ



第271図　大遠端5～7・10号土壙墓実測図（1/30）

目風のヘラキズがある。焼成は良好で、淡褐色を呈する。

12号土壙墓（図版118、第272図）

10号土壙墓の5m南側に位置する。長方形を呈し、長軸204cm、短軸72cm、深さ17cmを測る。頭位は東側で、頭位方向はS-71°-Eを示す。出土遺物はない。

13号土壙墓（図版118、第272図）

12号土壙墓の1m南側に位置する。小型の土壙墓で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸95cm、短軸65cm、深さ26cmを測る。南東側が頭位であろう。頭位方向はS-35°-Eを示す。

14号土壙墓（図版119、第272図）

11号土壙墓の11m南側に位置する。小型の土壙墓で、平面形は長方形を呈し、長軸98cm、短軸36cm、深さ20cmを測る。屍床面はほぼ水平で、北東側が頭位になろう。頭位方向はN-23°-Eを示す。遺物の出土はなかった。

15号土壙墓（図版119、第273図）

14号土壙墓の2.5m南東側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸219cm、短軸57cm、深さ27cmを測る。屍床面はほぼ水平で、5～10cm程の貼床を施している。小口幅の広い東側が頭位で、頭位方向はN-79°-Eを示す。出土遺物はない。

16号土壙墓（図版119、第274図）

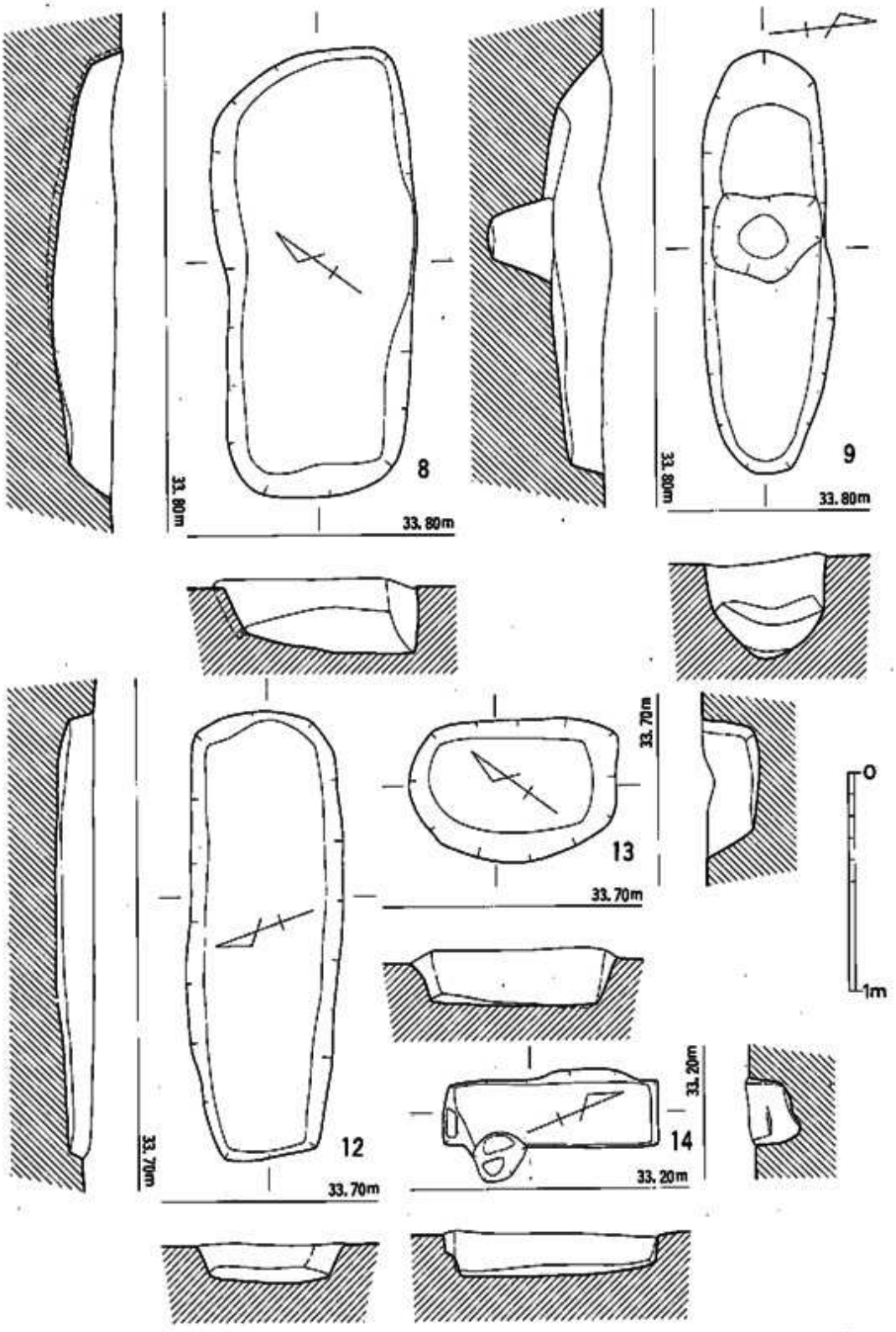
15号土壙墓の4.5m北側に位置する。大型の土壙墓で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸233cm、短軸77cm、深さ23cmを測る。屍床面は水平で、10cm程の貼床を施している。頭位は小口幅が広い東側で、頭位方向はS-78°30′-Eを示す。遺物は出土していない。

17号土壙墓（図版119、第273図）

16号土壙墓の5m北東側に位置する。隅丸長方形を呈し、長軸113cm、短軸43cm、深さ22cmを測る。北側小口が広いことから頭位は北側になろう。頭位方向はN-0°30′-Eを示す。

18号土壙墓（図版120、第274図）

15号土壙墓の2m東側に位置する。長方形を呈し、長軸206cm、短軸59cm、深さ22cmを測る。屍床面はほぼ水平であり、小口幅が若干広い東側が頭位で、頭位方向はN-74°-Eを示す。



第272図　大遠堰8・9・12～14号土壙墓実測図（1/30）

19号土壙墓（図版120、第273図）

18号土壙墓の1.8m北東側に位置する。不整長方形を呈する小型の土壙墓で、長軸91cm、短軸50cm、深さは9cmと削平が著しい。頭位は北東側になろう。頭位方向はN-37°-Eを示す。

20号土壙墓（図版120、第274図）

19号土壙墓の3.2m南東側に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸173cm、短軸52cm、深さ22cmを測る。屍床面は南西側に下がっており、北東側が頭位になろう。頭位方向はN-29°30′-Eを示す。屍床面から10cm程浮いた状態で、須恵器坏蓋が出土している。

出土遺物（図版124、第278図）

須恵器（1）1は坏蓋で、鳥喙状の口唇部を有する。天井部は低く、中央に扁平な擬宝珠形の摘みを貼付する。口縁部ヨコナデ、外天井部回転ヘラケズリ、内面不整方向ナデ調整による。焼成は堅緻であるが、焼き歪みが著しい。色調は暗灰色を呈する。

21号土壙墓（図版120、第273図）

18号土壙墓の3m南側に位置する。平面形は長円形を呈し、長軸104cm、短軸30cmで、深さは9cmと削平が著しい。屍床面はほぼ水平で、浮いた状態で須恵器坏身が出土した。頭位を北側とすると頭位方向はN-12°30′-Eを示す。

出土遺物（図版124、第278図）

須恵器（1）1は高台付坏身で、口縁部は直線的に開き、体部端に低めの高台を貼付する。器高4.6cm、高台径8.5cmで、口径は11.9cmに復原した。体部は回転ナデ調整による。焼成は堅緻で、色調は緑灰色を呈する。

22号土壙墓（図版121、第275図）

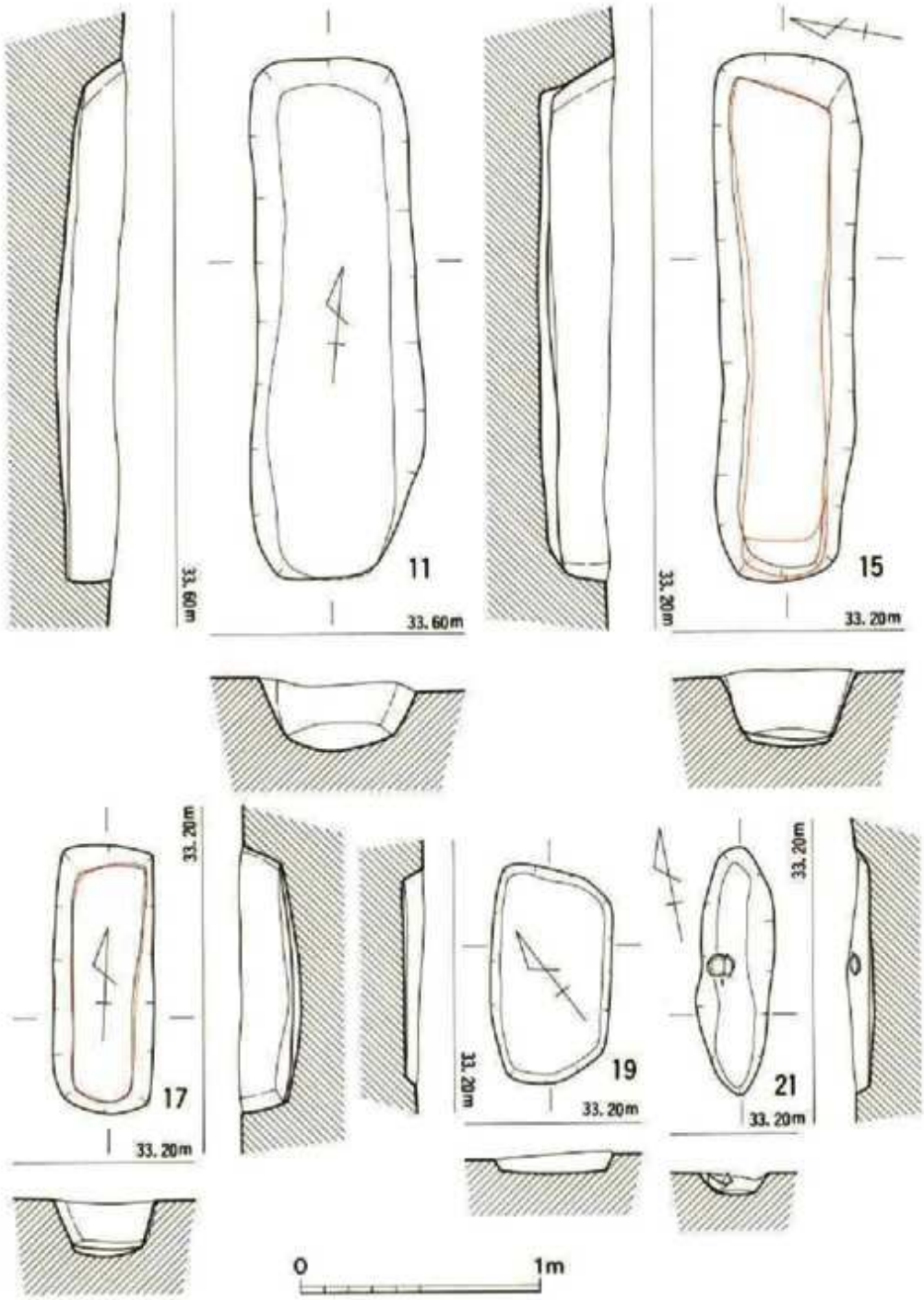
20号土壙墓の1.2m南西側に位置し、20号とは直線的に配される。隅丸長方形を呈する大型の土壙墓で、長軸227cm、短軸59cm、深さ25cmを測る。屍床面は10cm程の貼床を施しており、ほぼ水平である。小口幅がやや広い北東が頭位で、頭位方向はN-29°-Eを示す。

23号土壙墓（図版121、第274図）

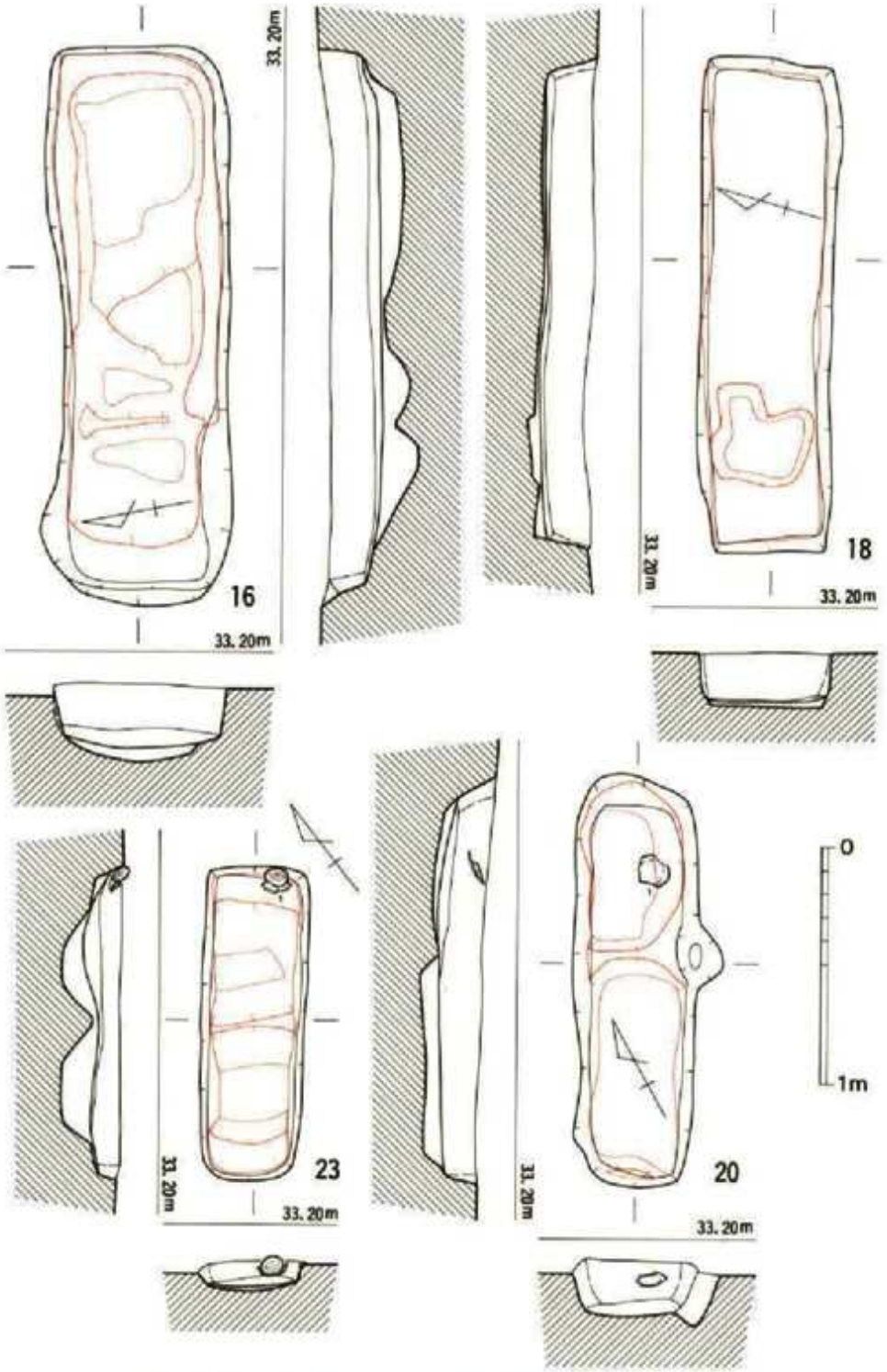
22号土壙墓の1m南西側に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸132cm、短軸44cm、深さ13cmを測る。屍床面は貼床を施しており、若干起伏がある。頭位方向はN-39-°Eを示す。浮いた状態で須恵器坏蓋が出土した。

出土遺物（図版124、第278図）

須恵器（1）1は高台付坏身で、体部端に下端幅0.7cmの太めの高台を貼付する。器高5.1cm、復



第273図　大還端11・15・17・19・21号土壙墓実測図（1/30）



第274図　大還端16・18・20・23号土壙墓実測図（1/30）

原口径12.5cm、高台径8.5cmを測る。体部は回転ナデ調整による。焼成は堅緻で、色調は緑灰色を呈する。

24号土壙墓（図版121、第275図）

20号土壙墓の3.2m南東側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸227cm、短軸46cm、深さ19cmを測る。土壙基底部を二箇所落込み状に掘り窪め、黄褐色土と黒褐色土とで貼床を施し、屍床面を水平にしている。小口幅が若干広い南西側を頭位とすると頭位方向はS-57°-Wを示す。遺物の出土はない。

25号土壙墓（図版121、第275図）

11号土壙墓の4.5m南東側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸154cm、短軸45cm、深さ7cmを測る。小口幅が若干広い南西側が頭位で、頭位方向はS-13°-Wを示す。遺物は出土していない。

26号土壙墓（図版122、第275図）

24号土壙墓の6m北東側に位置する。隅丸長方形を呈し、長軸106cm、短軸38cmで、深さは11cmと削平が著しい。埋土は黒褐色土で、遺物の出土はなかった。屍床面が一段高く、小口幅が広い西側が頭位になる。頭位方向はN-87°-Wを示す。

27号土壙墓（図版122、第276図）

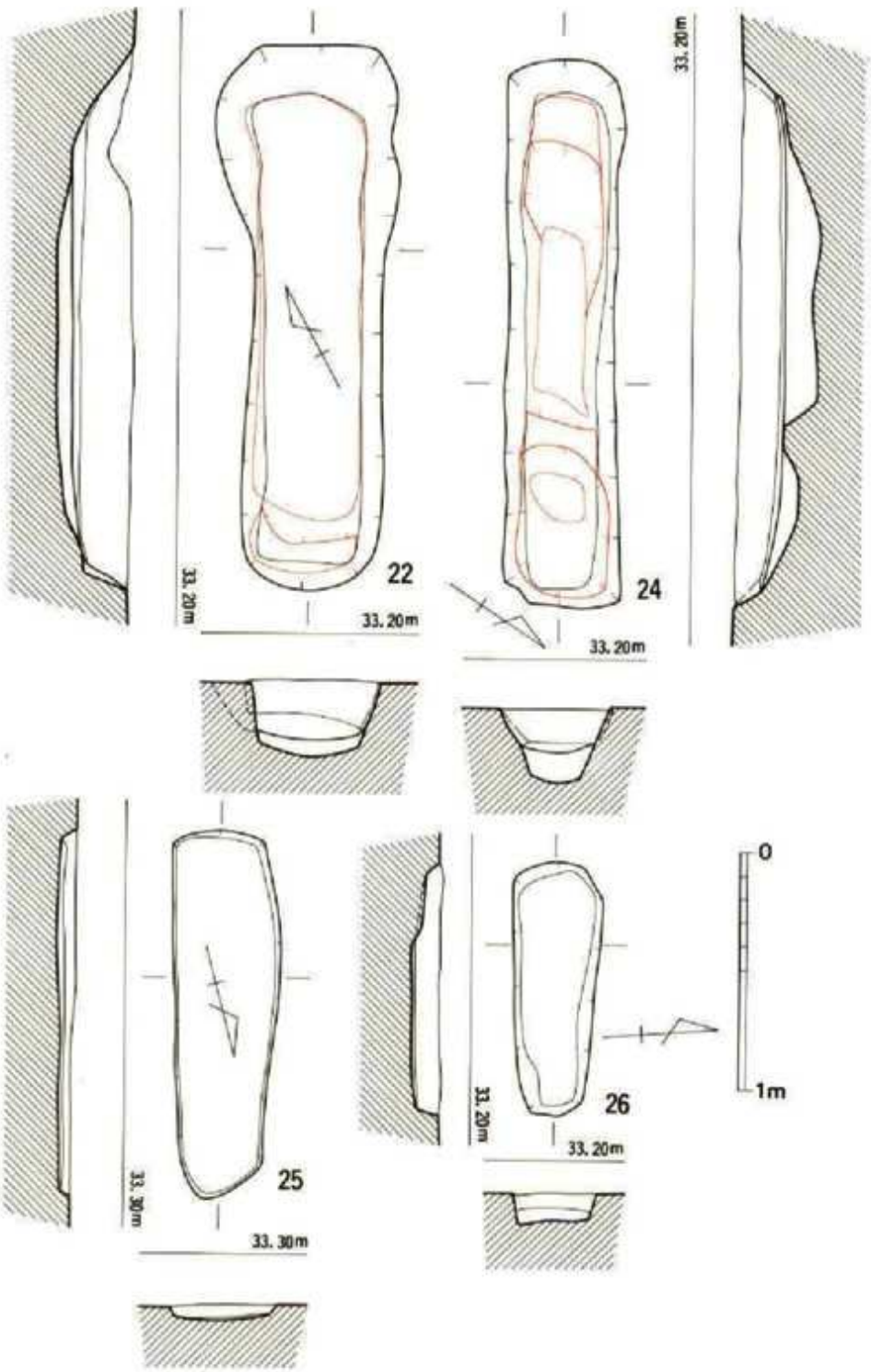
24号土壙墓の1.5m南側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸209cm、短軸70cm、深さ32cmを測る。屍床面はほぼ水平で、10cm程の貼床を施している。頭位は小口幅が若干広い東側で、頭位方向はN-87°-Eを示す。遺物の出土はなかった。

28号土壙墓（図版122、第276図）

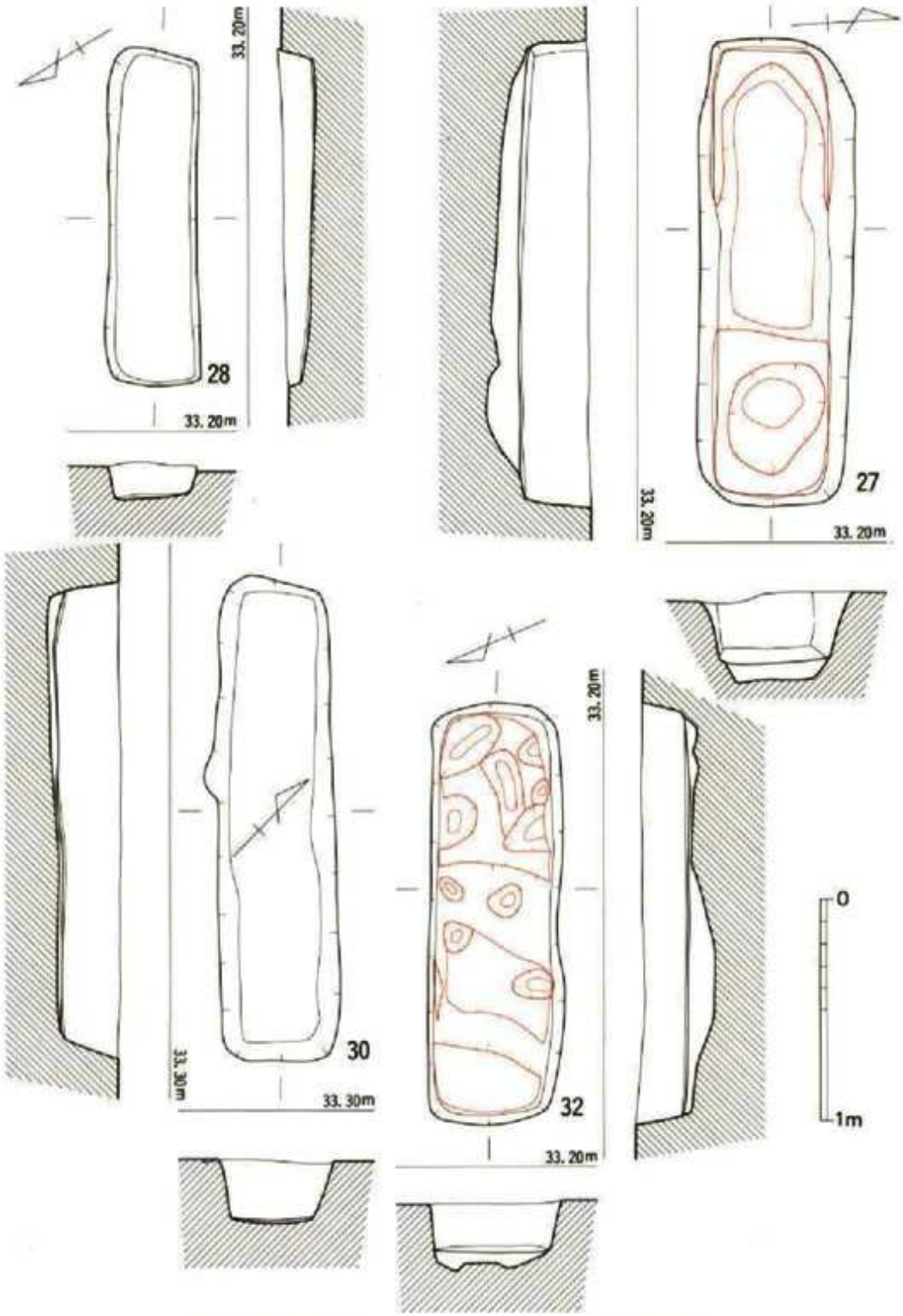
23号土壙墓の5m南西側に位置し、29号土壙墓を切っている。隅丸長方形を呈し、長軸151cm、短軸43cm、深さ15cmを測る。屍床面はほぼ水平である。小口幅が若干広い北西側を頭位とした。頭位方向はN-58°-Wを示す。出土遺物はない。

29号土壙墓（図版122、第277図）

28号土壙墓の西側に切られて位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸218cm、短軸55cm、深さ16cmを測る。屍床面は北東側が5cm程高くなっており、こちら側が頭位になろう。頭位方向はS-34°-Eを示す。出土遺物はない。



第275図　大還端22・24～26号土壙墓実測図（1/30）



第276図　大蓮端27・28・30・32号土壙墓実測図（1/30）

30号土壙墓（図版122、第276図）

29号土壙墓の0.8m北西側に位置し、前後に配される。隅丸長方形を呈し、長軸215cm、短軸55cm、深さ28cmを測る。屍床面はほぼ水平で、2～5cm程の貼床を施している。小口幅は東西とも変わりはないが、屍床面が高い北西側を頭位とすると頭位方向はN-46°-Wを示す。遺物の出土はなかった。

31号土壙墓（図版123、第277図）

拡張区の中央部南端で小口部を検出した土壙墓で、本体は南側に延びる。29号土壙墓の2.8m南西に位置する。ピットと重複しているが、北小口幅55cm、深さ23cmを測る。遺物は出土していない。

32号土壙墓（図版123、第276図）

30号土壙墓の5.5m北西側に位置する。隅丸長方形を呈し、長軸189cm、短軸61cm、深さ28cmを測る。屍床面は貼床を施しているため水平であるが、貼床を掘り下げた結果、小ピット及び落込みを検出した。頭位は南西側で、頭位方向はN-66°-Wを示す。出土遺物はない。

33号土壙墓（図版123、第277図）

32号土壙墓の1.5m南西側に位置し、両者はL形に配される。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸200cm、短軸60cm、深さ24cmを測る。基底部を160cm×40cmの長円形に掘り下げ、5～10cm程の貼床を施し、屍床面を造っている。北隅部から蓋が裏返った坏のセットが出土しているが、床面から若干浮いている。

出土遺物（図版124、第278図）

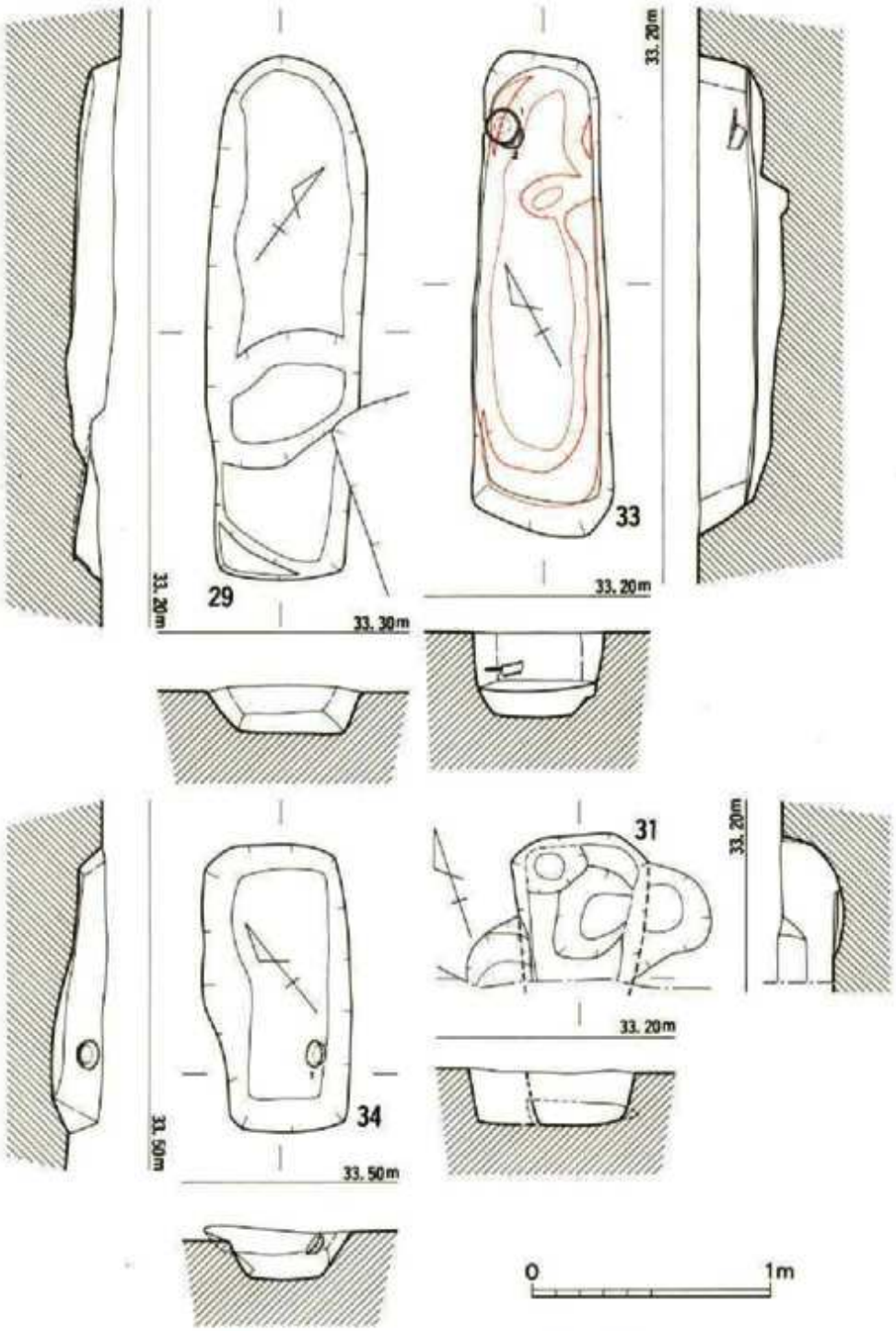
須恵器（1・2）1は坏蓋で、鳥嘴状の口唇部を有する。天井部は低く、中央に扁平な擬宝珠形の摘みを貼付する。口縁部ヨコナデ、外天井部回転ヘラケズリによる。焼成は堅緻であるが、焼き歪みが著しい。2は高台付坏身で、口縁部が若干屈曲する。高台は低めで、端部寄りに貼付する。器高4.9cm、口径13.1cm、高台径8.5cmを測る。体部は回転ナデ調整による。

34号土壙墓（図版123、第277図）

14号土壙墓の7m北西側に位置し、南小口側は攪乱坑に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸120cm、短軸62cm、深さ21cmを測る。屍床面は南側に下がっており、南隅部付近から須恵器坏身が上部から落込んだ状態で出土した。頭位は北東側で、頭位方向はN-37°-Eを示す。

出土遺物（図版124、第278図）

須恵器（1）1は高台付坏身で、底部端に低い高台を貼付する。体部は回転ナデ調整による。焼

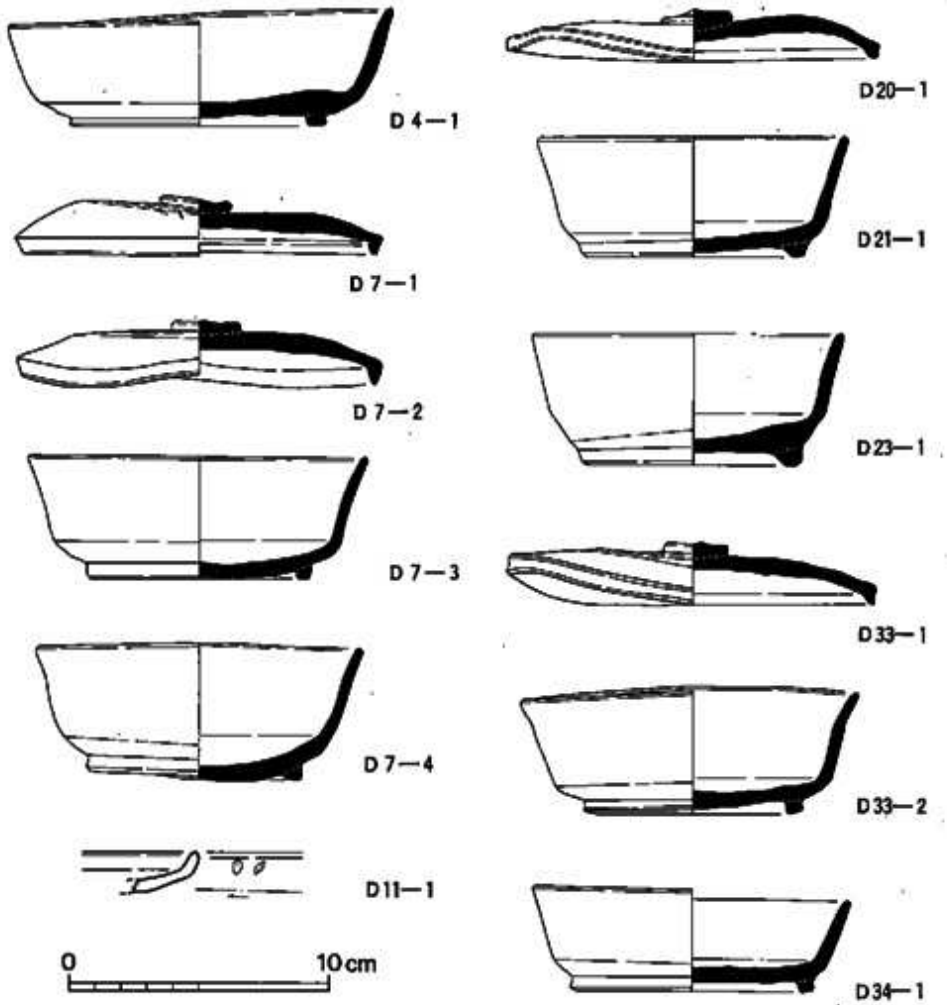


第277図　大遺端29・31・33・34号土壙墓実測図（1/30）

成は堅緻で、色調は暗灰色を呈する。器高4.0cm、口径12.2cm、高台径9.4cmを測る。

B．小　結

本跡では約9,300㎡を調査対象面積としたが、遺構密度は非常に低く、古墳時代後期の集落跡（6世紀後半）と奈良時代中～後半の墓地を検出したにすぎない。古墳時代後期の集落は竪穴住居跡2軒・掘立柱建物跡3棟・竪穴遺構1基で構成されるが、各遺構は散在し、母村から隔離された集落という印象を受ける。また、奈良時代の墓地は土壙墓が34基営まれている。ここでは、比較的検出例の多かった土壙墓について考察し、まとめとしたい。



第278図　大瀧端土壙墓出土土器実測図（1/3）

第279図　大道南遺跡土壙墓群配置図（1/300）

表3　土壙墓一覧表

単位：cm

番号	平面形	長軸長	短軸長	床面長	頭位幅	足位幅	深さ	頭位	頭位方向	備　考
1	長方形	152	34	147	28	20	7	北西	N34° 30′ W	
2	隅丸長方形	135	54	129	44	32	16	西	N84° W	
3	隅丸長方形	158	75	151	72	60	7	南西	S20° W	
4	長方形	230	63	226	59	51	25	南西	S41° W	須恵器出土・貼床
5	隅丸長方形	210	70	203	62	50	19	東	N68° 30′ E	
6	長円形	108	58	95	37	24	27	西	N72° W	床面西側にテラスあり
7	隅丸長方形	233	75	220	65	56	27	西	S82° 30′ W	須恵器出土・貼床
8	不整長方形	204	93	184	71	62	29	北東	N55° E	
9	長円形	193	60	162	32	25	28	西	N84° W	床面中央にピットあり
10	隅丸長方形	136	43	123	28	22	15	東	N74° E	
11	隅丸長方形	216	73	205	44	38	25	北	N5° 30′ E	
12	長方形	204	72	198	51	35	17	東	S71° E	
13	隅丸長方形	95	65	75	35	31	26	南東	S35° E	
14	長方形	98	36	88	27	26	20	北東	N23° E	
15	隅丸長方形	219	57	198	42	30	27	東	N79° E	貼床
16	隅丸長方形	233	77	221	58	53	23	東	S78° 30′ E	貼床
17	隅丸長方形	113	43	109	29	23	22	北	N0° 30′ E	貼床
18	長方形	206	59	193	44	42	22	東	N74° E	貼床
19	不整長方形	91	50	82	42	36	9	北東	N37° E	
20	長方形	173	52	157	36	36	22	北東	N29° 30′ E	須恵器出土・貼床
21	長円形	104	30	95	21	16	10	北？	N12° 30′ E	須恵器出土
22	隅丸長方形	227	59	195	47	42	25	北東	N29° E	貼床
23	長方形	132	44	126	36	33	13	北東	N39° E	須恵器出土・貼床
24	隅丸長方形	227	46	206	30	27	19	南西	S57° W	貼床
25	隅丸長方形	154	45	149	34	30	7	南西	S13° W	
26	隅丸長方形	106	38	97	32	13	11	西	N87° W	
27	隅丸長方形	209	70	119	48	39	32	東	N87° E	貼床
28	隅丸長方形	151	43	146	37	28	15	北西	N58° W	29号土壙墓を切る
29	隅丸長方形	218	55	203	43	38	16	北東	S34° E	貼床
30	隅丸長方形	215	55	201	35	32	28	北西	N46° W	貼床
31	長方形？	—	55	—	—	—	23	？	—	
32	隅丸長方形	189	61	181	45	42	28	南東	N68° E	貼床
33	隅丸長方形	200	60	180	47	38	24	南西	S28° W	須恵器出土・貼床
34	隅丸長方形	120	62	96	37	30	21	北東	N37° E	須恵器出土

1. 土壙墓について

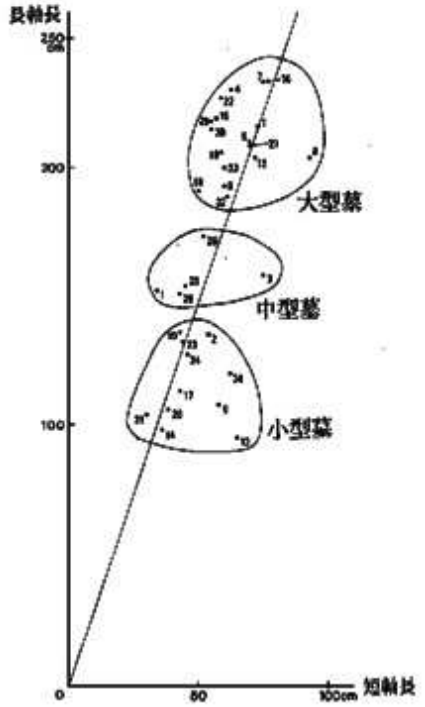
① 立地

本跡の土壙墓群は、朝倉扇状台地群の中央部（標高34m）に立地し、8世紀中～後半の集落跡が調査された塔ノ上遺跡の500m南東にあたる。本跡においては、奈良時代の集落跡は検出されておらず、墓地が営まれている。このことは、当地が水田耕作には適さない場所、あるいは畑地として除外された土地として認識されたが故に、墓所として土壙墓が営まれたと考えられる。本跡から遠からずして、同時期の集落が存在するのであろう。

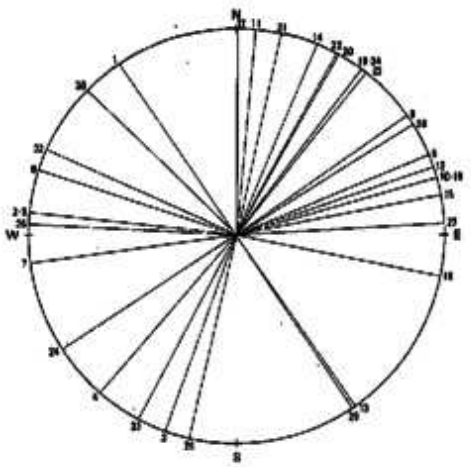
② 形態・規模（第280図）

土層観察の結果では木棺痕跡は確認できない。また、墓壙壁面は緩やかに立上がることから土壙墓と断定した。ただ、供献土器の出土状況はいずれも床面から浮いており、棺外副葬と考えられ、木蓋の上に供献していた土器が木蓋の腐朽とともに墓壙内に落ち込んだものと理解されることから、本跡の土壙墓は木蓋土壙墓と推定される。

墓壙の平面形は隅丸長方形もしくは長円形を呈する。墓壙の長さは95cm～233cmの幅があり、大型墓（長軸長190cm以上のもの）・中型墓（長軸長150～170cm前後のもの）・小型墓（長軸長90～130cm前後のもの）に大別でき、大・中型墓が成人用で、小型墓が小児用に比定される。



第280図　大道端遺跡土壙墓法量分布図



第281図　大道端遺跡土壙墓頭位グラフ

当土壙墓群で特徴的な点は、4・7・15～18・20・22～24・27・29・30・32・33号墓にみられる屍床面の貼床で、半数の土壙墓が行っている。墓壙基底面を平坦に仕上げるのではなく、貼床を施すことによって屍床面を水平に保つ。これは、竪穴住居に普遍的にみられる貼床と同じ行為で、湿気対策と考えられる。非日常的な土壙墓にも施されており、死者を手厚く葬る行為の一つと理解したい。

③ 配列（第281図）

頭位方向は、頭位グラフでみるように各方向を向いており、埋葬方位が規制された様子は窺えない。また、"西方浄土"を意識した配列を呈する訳でもない。ただ、20・22・23号土壙墓及び29・30号土壙墓は、1m程の間隔で直線的に配されることから埋葬時期が近接するものと考えられる。

④ 遺物

土壙墓の副葬品には、4・7・21・23・33・34号土壙墓から須恵器杯身杯蓋が出土した程度であり、被葬者の階級を明示するような遺物の出土はなかった。また、須恵器は焼き歪みが著しい非日常的なもので、焼き歪んだものを故意に選別して副葬した感がある。立野遺跡の土壙墓群では、須恵器の他に鉄鏃・鉄刀子・紡錘車を副葬していた[註1]。

律令体制下において、どのクラスまでが造墓可能であったのか、今後とも追求してゆかねばならない問題ではあるが、当時の社会的状況からみて一般の班田農民全てが墓を造り得たとは到底考え難く、被葬者に関しては憶測の域をでないが、在地の富裕農民層の墓と考えておきたい。

Photo. 20　18号墓のわたし

註1　福岡県教育委員会　1984
『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－3－』

Ⅵ　総括

ここでは本書に収録した3遺跡を通して時代ごとに成果をまとめておこう。

まず旧石器時代ではその末期のマイクロブレイド・スクレイパー等が出土しているが遺構はない。この時代の主要な遺跡はもっと山手の方に立地しているのだろう。

縄文時代は早期・押型文土器が、中道で破片のみながらかなりの量が出土した。塔ノ上・上の原遺跡等でも検出されているので、金川台地上にて早期人たちが広く活動していたことが伺われる。中道ではごく僅かながら晩期の遺物もあり、これは高原遺跡の存在を考えればこの近辺に該期の住居群等が埋もれている可能性もあろう。中道と石成久保に見られた落し穴状遺構は時期を特定できないが、おそらく縄文期の所産であろう。

弥生時代では、中道で中期末の集落が検出された。26軒の竪穴住居のうち確実なもので10軒が火災に遭っており、きわめて特異である。丹塗りを含めた多量の土器とともに当該期の集落分析に貴重な資料となりうるであろう。東南方約1kmにある上の原遺跡は中期中頃まで、西方2kmほどの高原遺跡は古くみて中期末からの集落であり、この地域での弥生集落の展開がたどれそうである。福田台地上の遺跡群との比較対照も検討課題である。

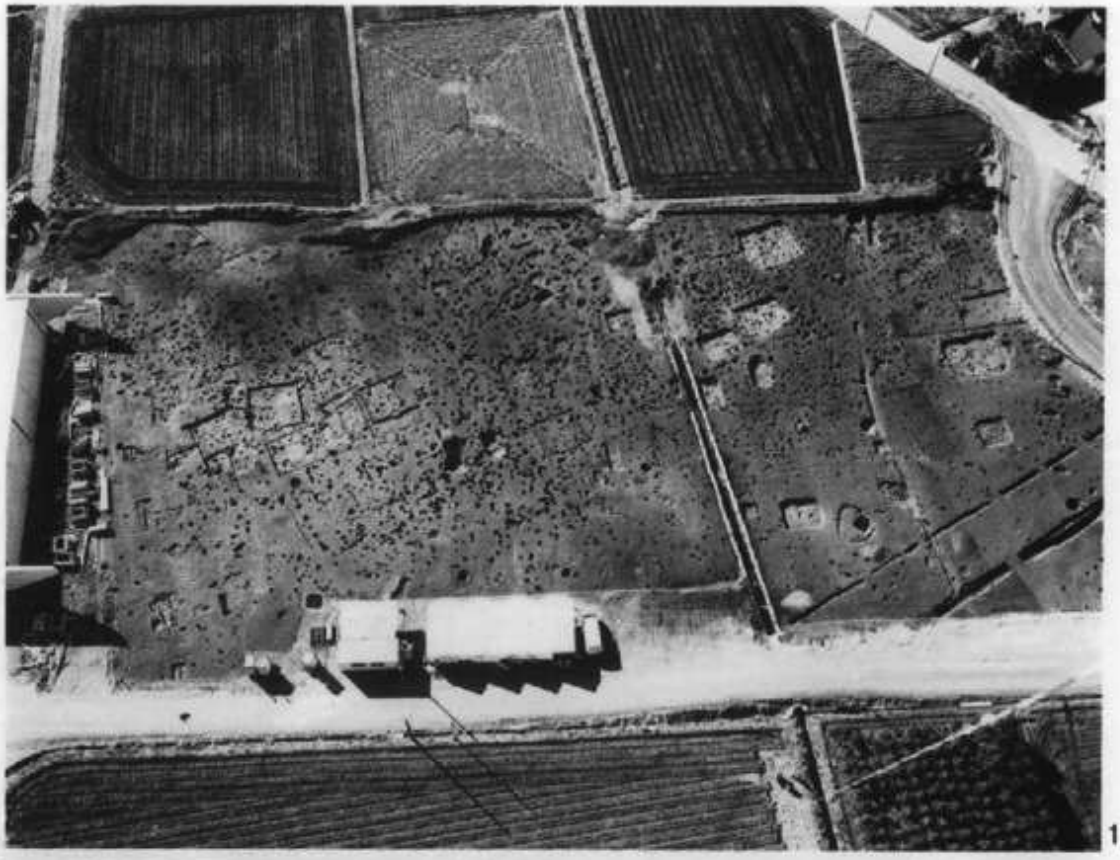
古墳時代後期には中道・石成久保・大還端ともに6世紀後半以降の竪穴住居・掘立柱建物があった。しかし特に後二者は分布もまばらであり、集落の周縁部での遺構を検出しているのだろう。本体はより川に近い南方にあるのではないかと思われる。

奈良時代には中道の集落と大還端の墓地群がある。中道と大還端までが約600m、大還端とその西方にある同時期の塔ノ上遺跡までが約300mを測り、中道からその東方にある同時期の西法寺遺跡までは約200mほどしか離れていない。つまりこの時期には最短200mくらいで集落が形成されていることになり、塔ノ上集落の住人たちが大還端に墓地を営んだとするにはやや距離がありすぎるように思える。しかしいくつかの集落で共同墓地を築いたということも考えうるので、今後のさらなる検討が必要であろう。中道で短期間に多くの住居が重複している様相は同時期の塔ノ上その他の集落でも見られるところであり、それは律令期における農民層の居住地選択への強い規制を示しているのではないかと思われる。中道で竪穴住居と重複することなく、むしろそれらを囲繞するが如くに掘立柱建物が配置されているという状況の背後に階層性を見ることも可能であろう。

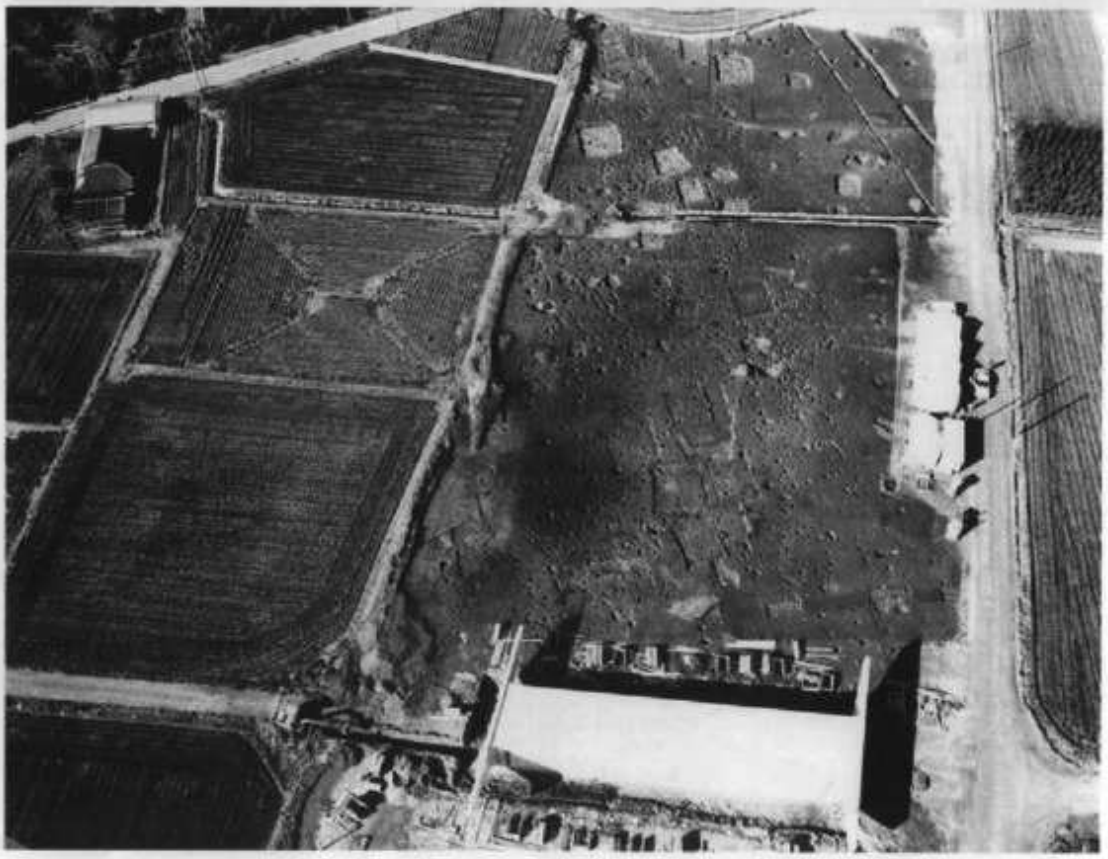
中世に至り、中道で道路の側溝らしき溝が平行に検出された。近隣の他の遺跡で延長上に同様の遺構が確認されれば道路と確定できよう。

図　　版

1　中道遺跡航空写真（南から）　　2　同　気球写真（西から）



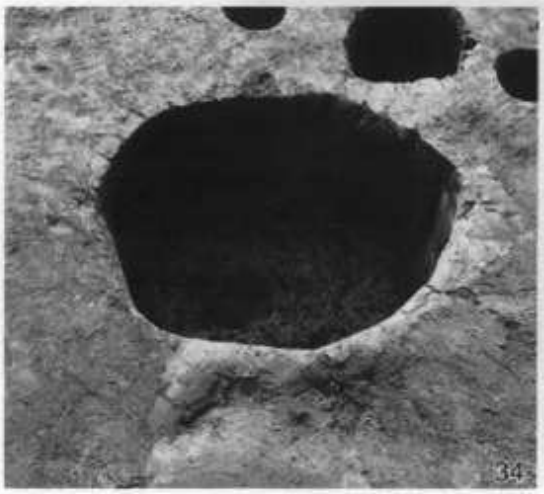
1

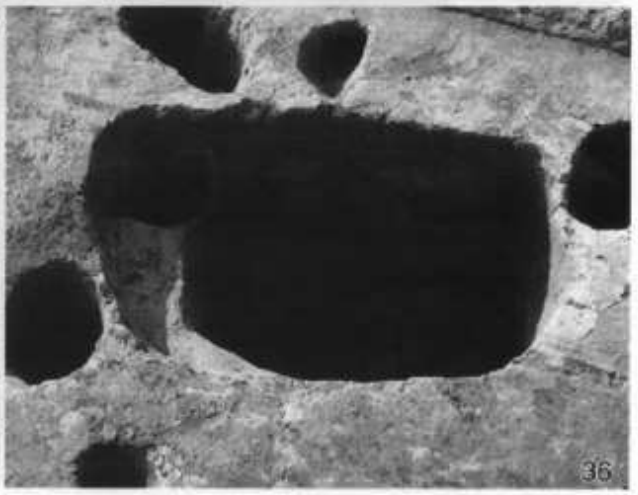


2

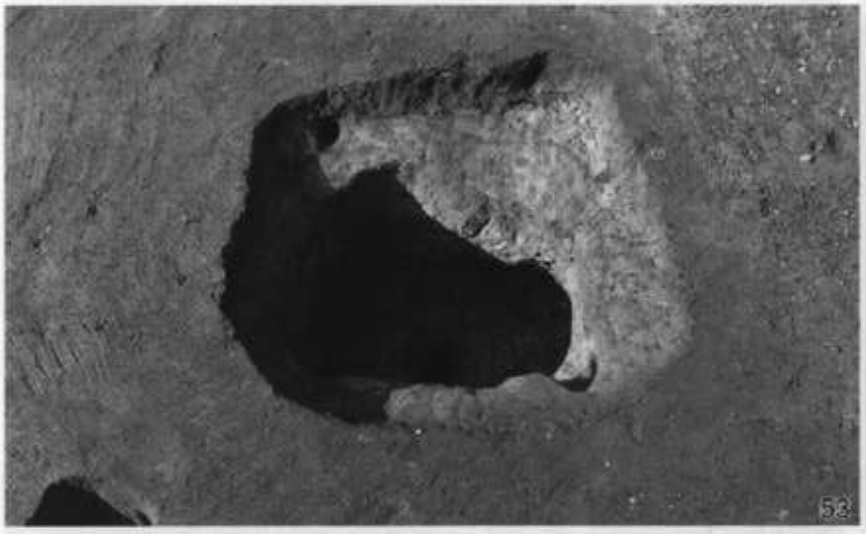
1　中道遺跡中央部気球写真　　2　同上　（東から）

1　中道遺跡中央部気球写真　　2　同　東半部発掘前（東から）



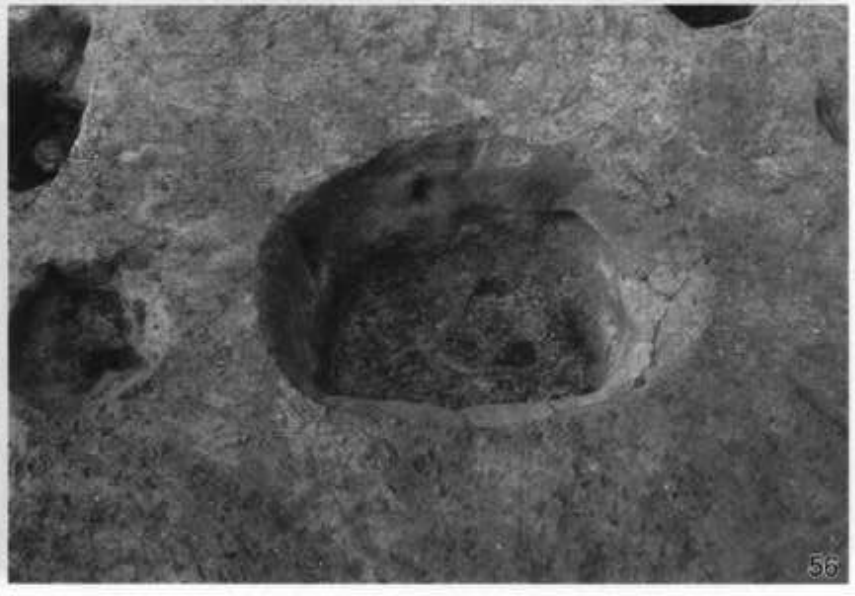


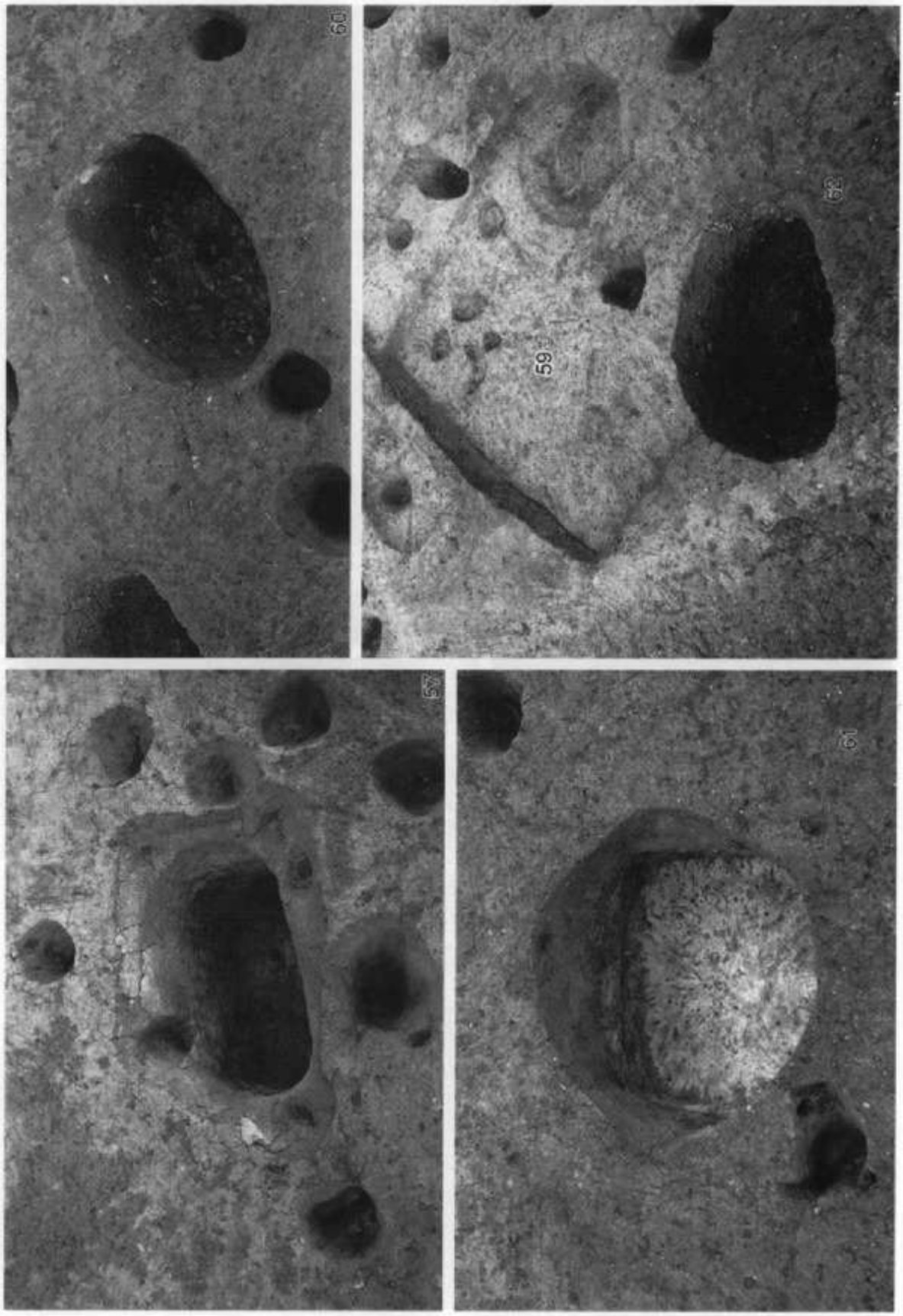
トレンチ（G4）：33・34・36号土坑


53

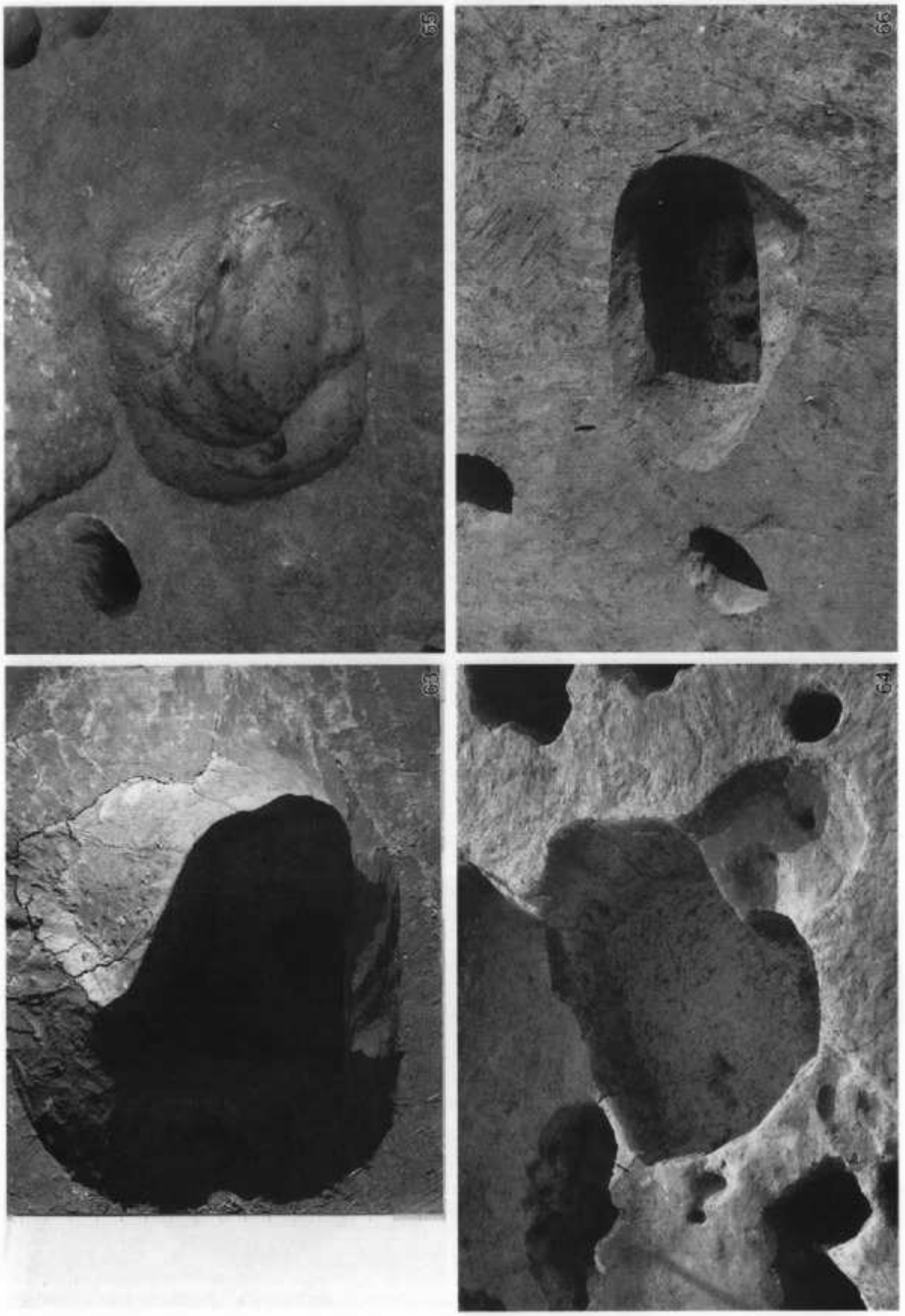
55

54


56

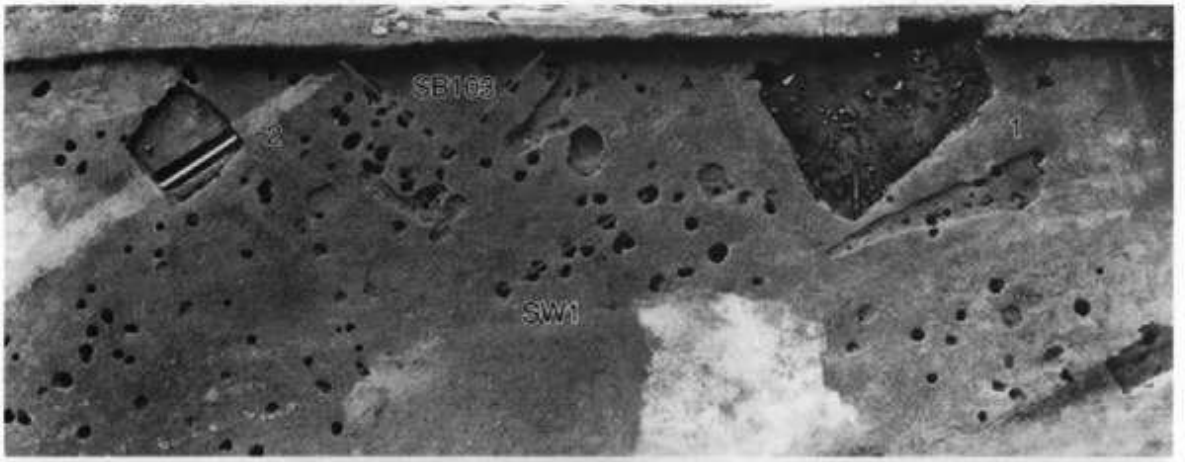


57・59～62号土坑



63－66号土坑

67・69・72号土坑



1　中道1・2号住居跡
SB103・SW1
（気球写真）

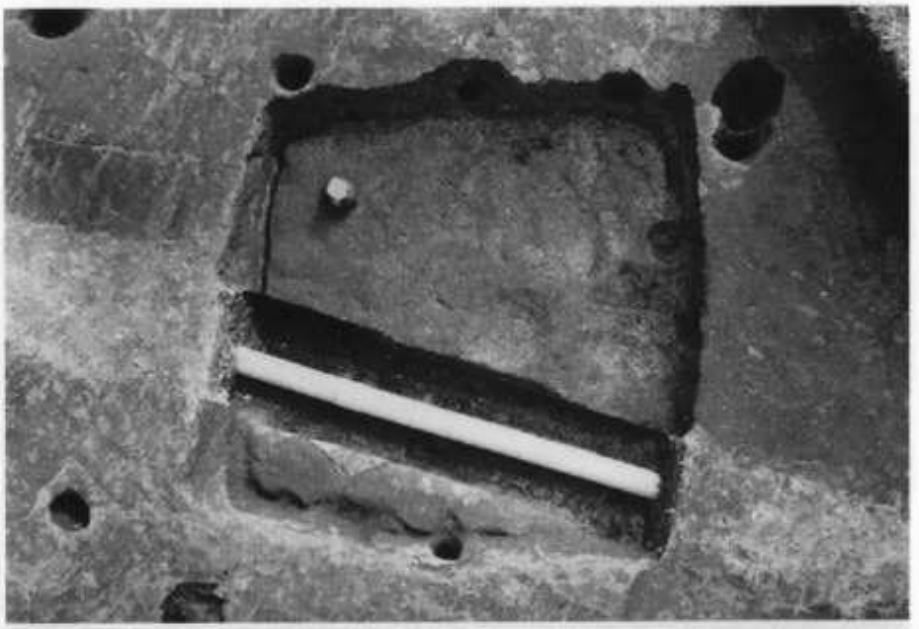
2　1号住居跡
（北西から）

3　同　下層

1　1号住居跡
遺物出土状態

2　同　東南隅土坑
（北から）

3　同　炭化材



1　2号住居跡
（真上から）

2　3号住居跡
（北から）

3　同　西南隅付近

図版 12

1　4号住居跡
（北から）

2　同　下層

3　同　炭化材

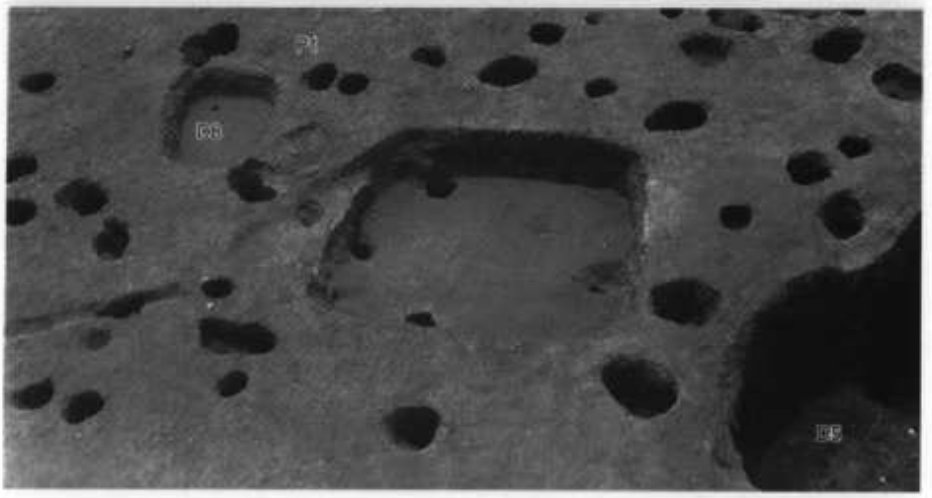
1　5号住居跡
（東から）

2　同　下層

3　同　木器出土状態

1　6号住居跡
（東北から）

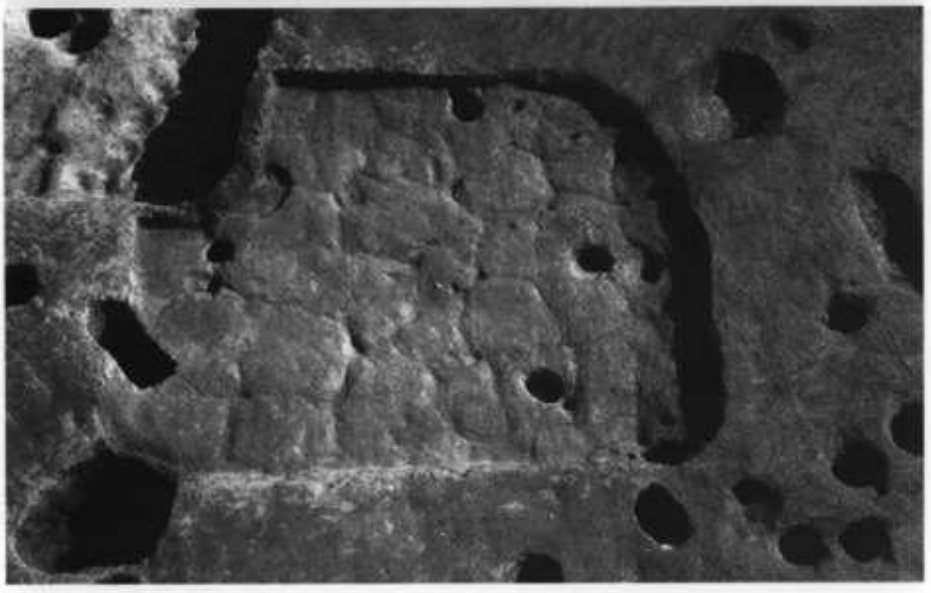
2　7号住居跡
（北から）



3　8号住居跡
（北から）

1　9・10号住居跡
（南から）

2　同　下層



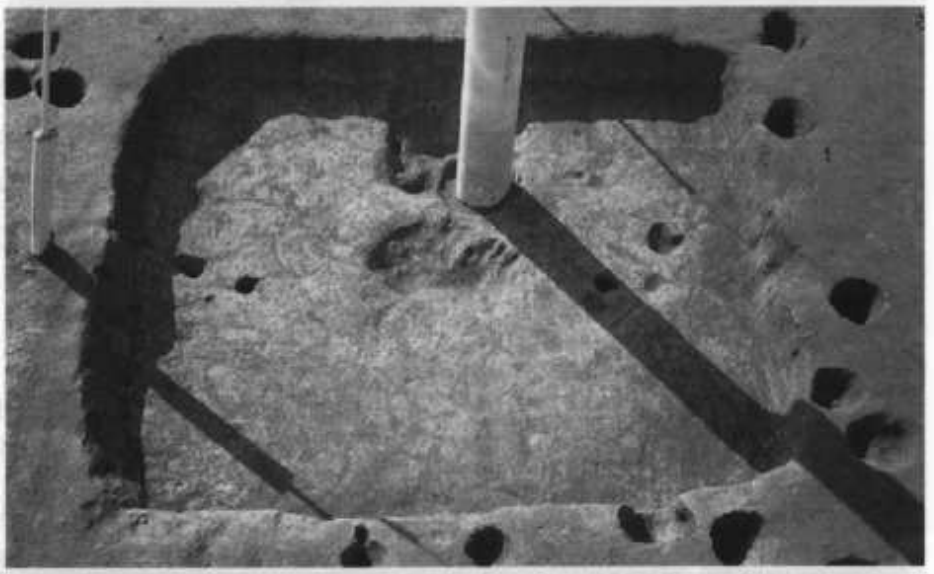
3　9号住居跡
（北から）

1　10号住居跡
（南から）

2　同　遺物出土状態

3　同上

1　11号住居跡
（北から）



2　同　下層

3　同　遺物出土状態

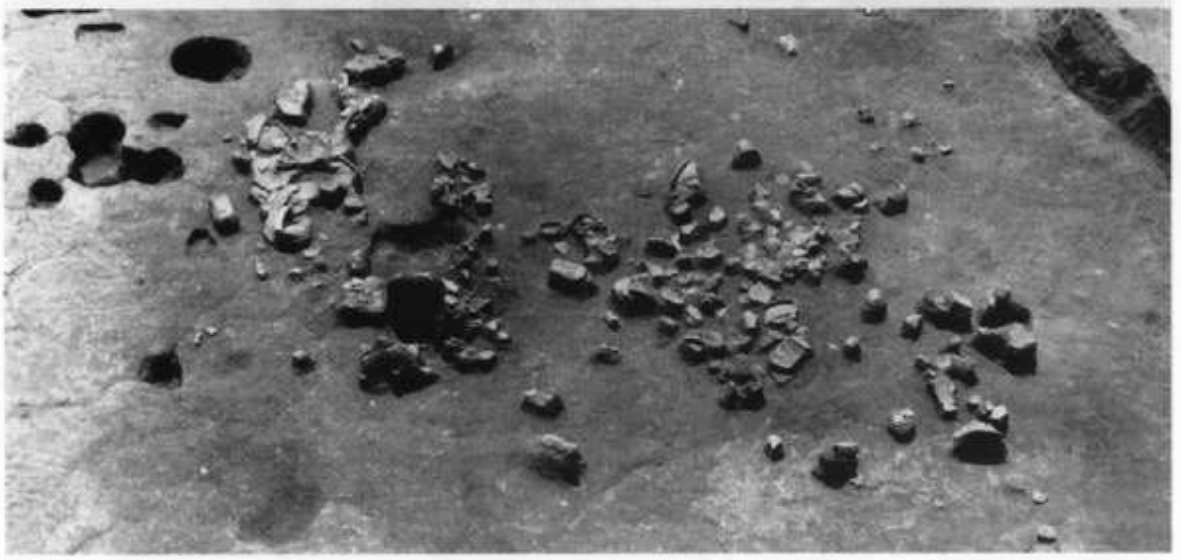
1　12号住居跡
（北から）

2　同　下層

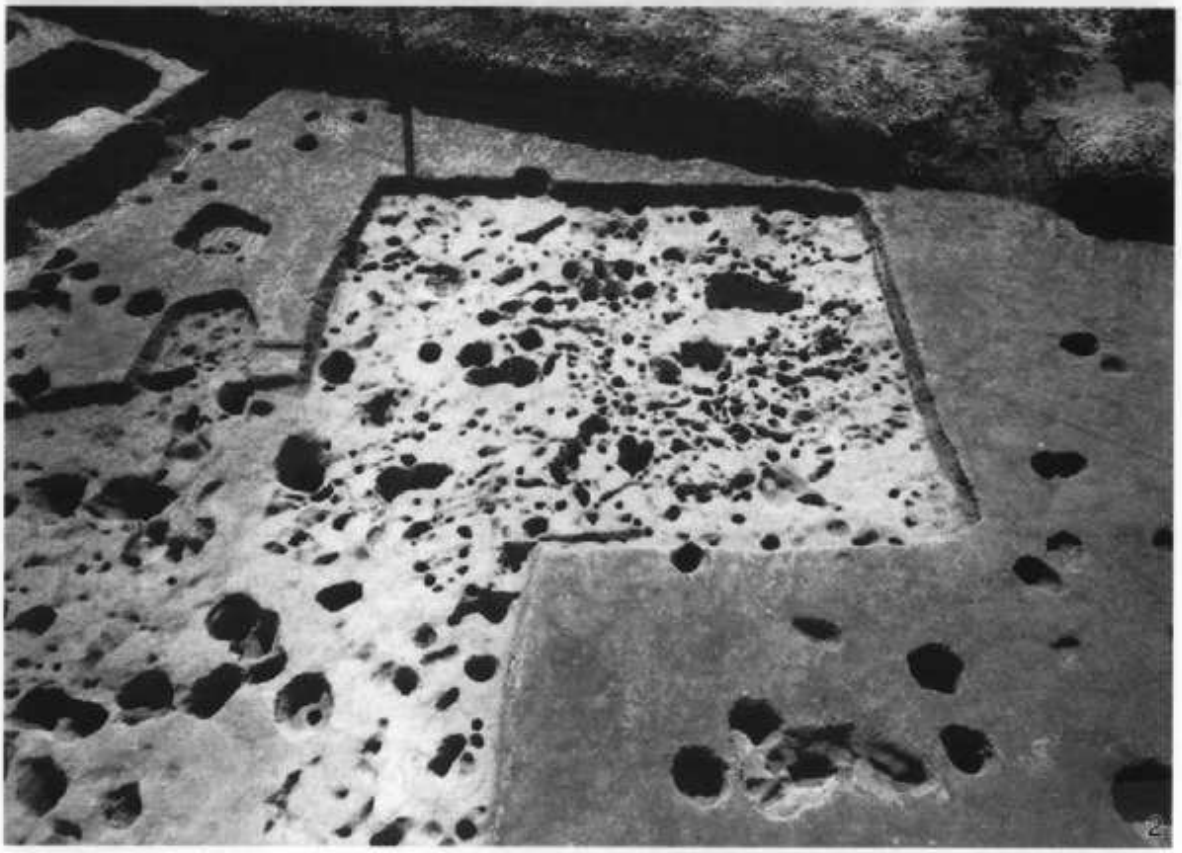
3　11～13号住居跡（東上空から）

1　13号住居跡
（北から）

2　同　下層



3　同　遺物出土状態

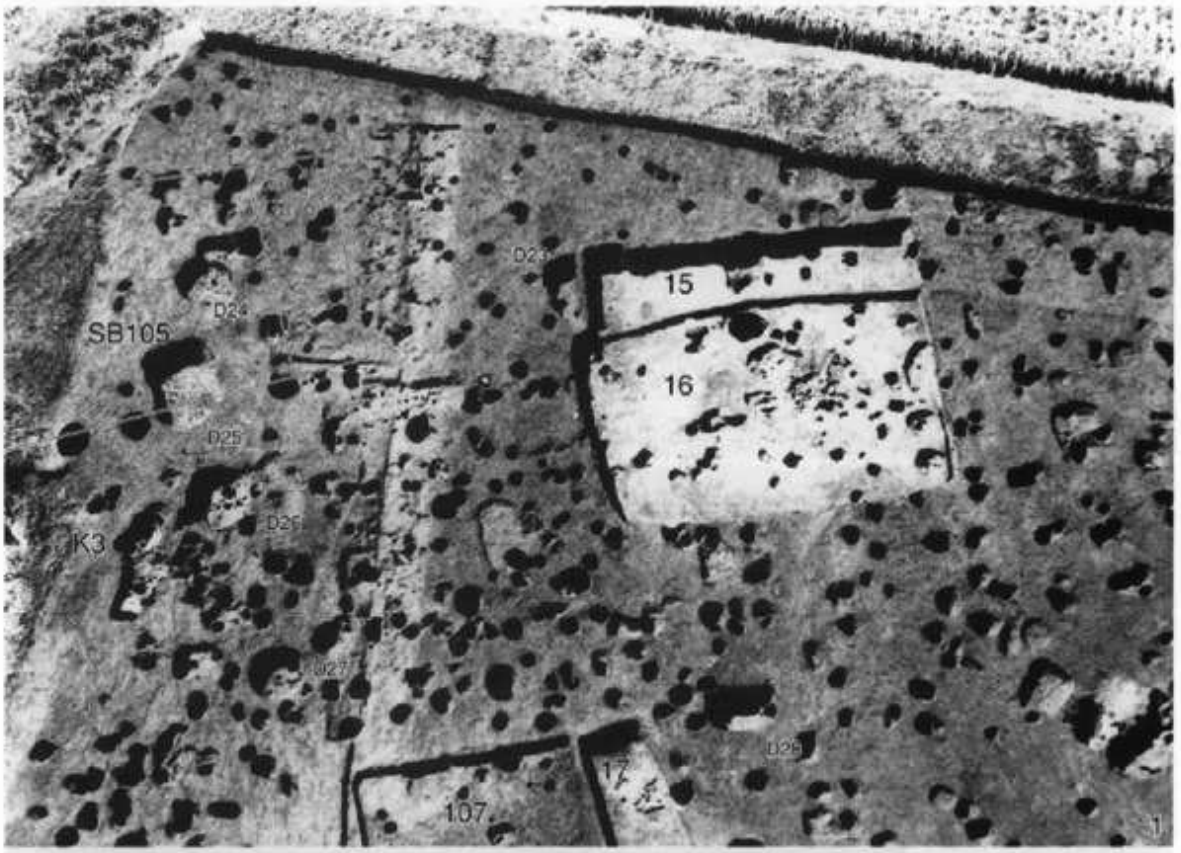


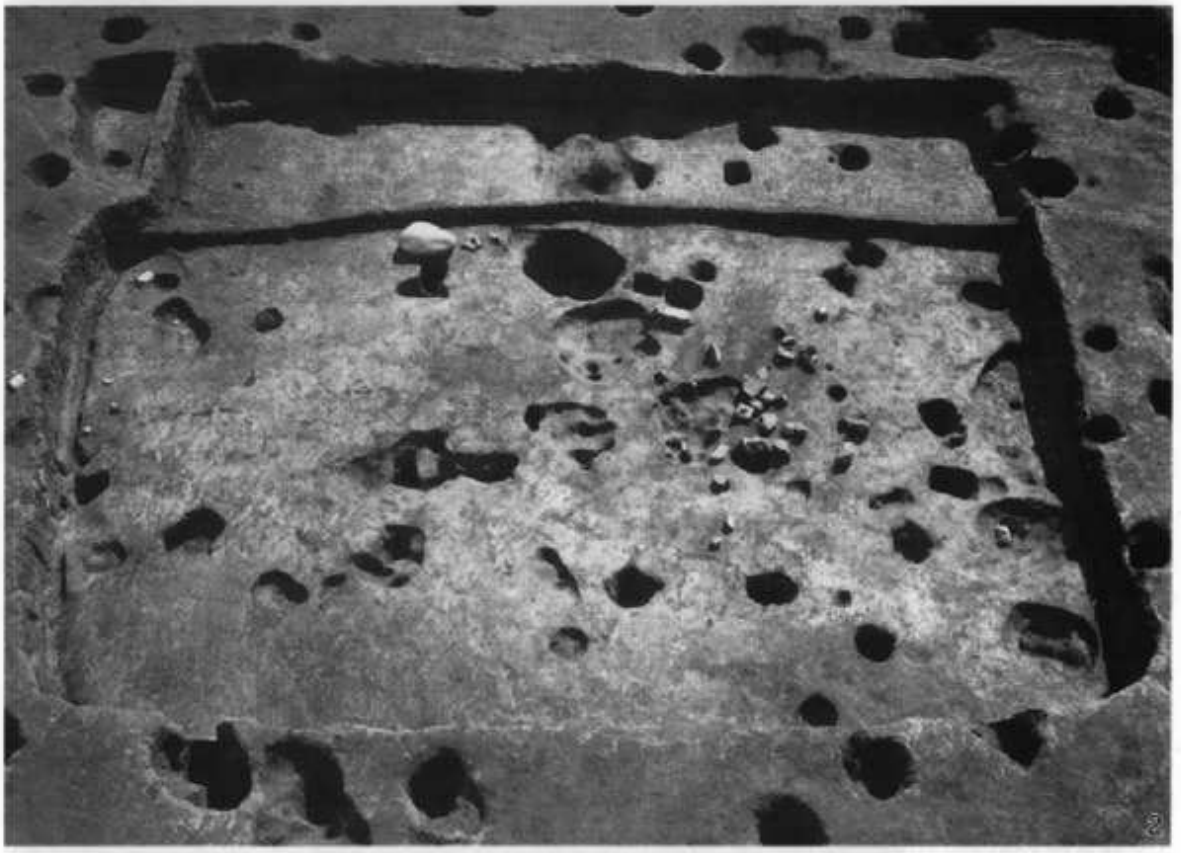
1　14号住居跡（北から）　　2　同　下層

1　14号住居跡
遺物出土状態

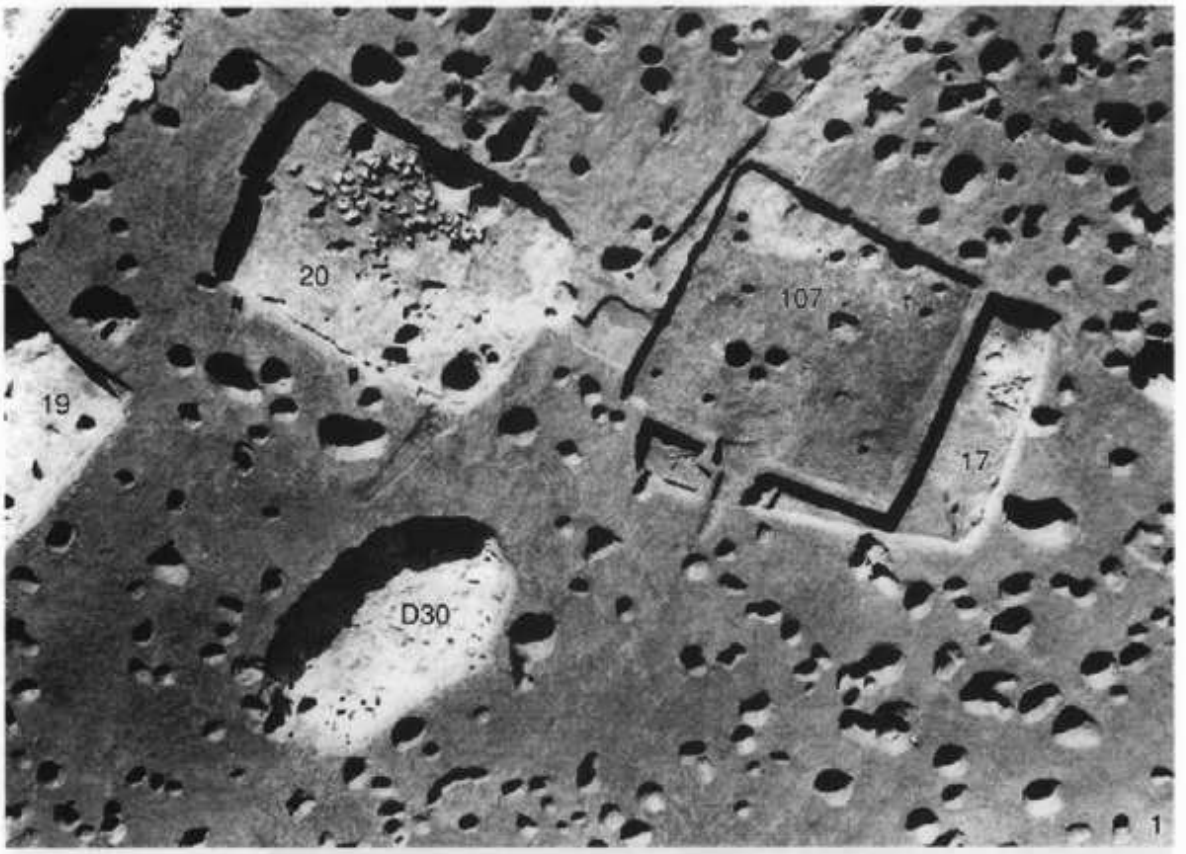
2　14A号住居跡
屋内土坑

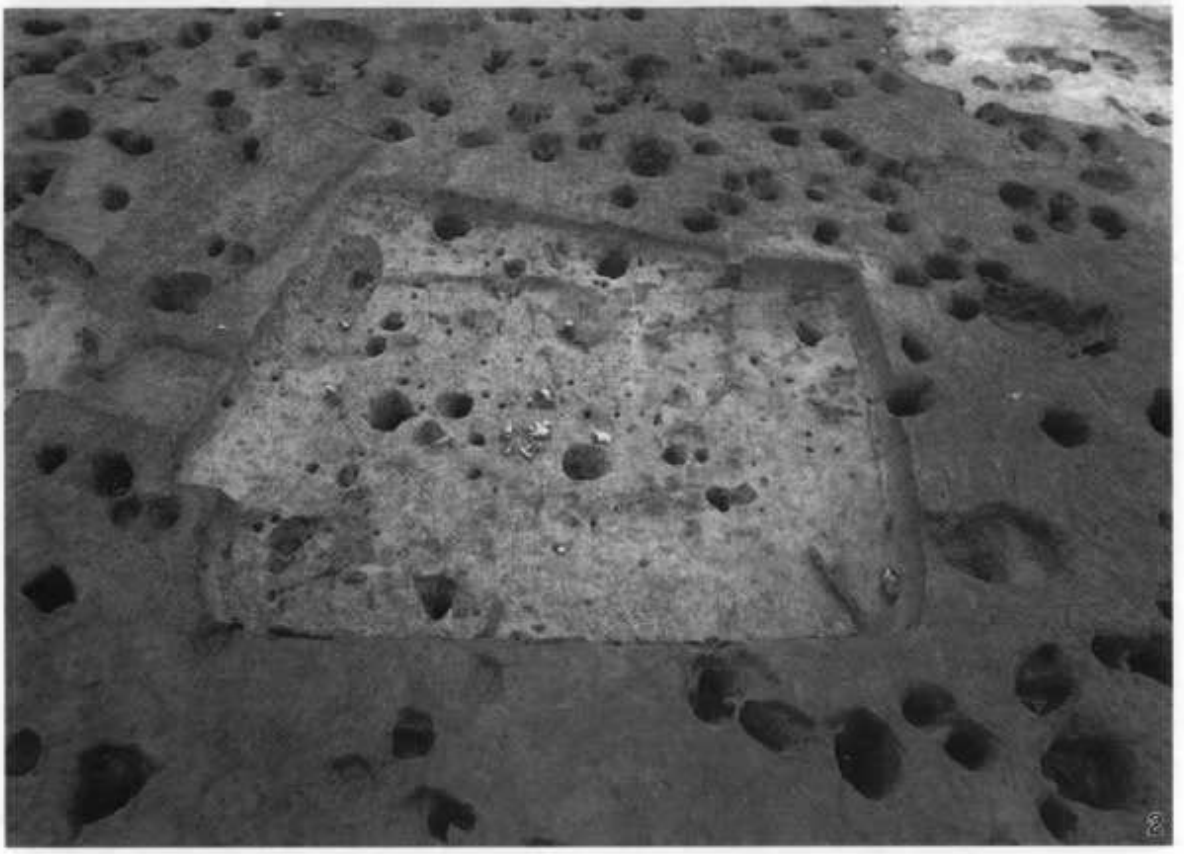
3　14A号住居跡
投弾出土状態





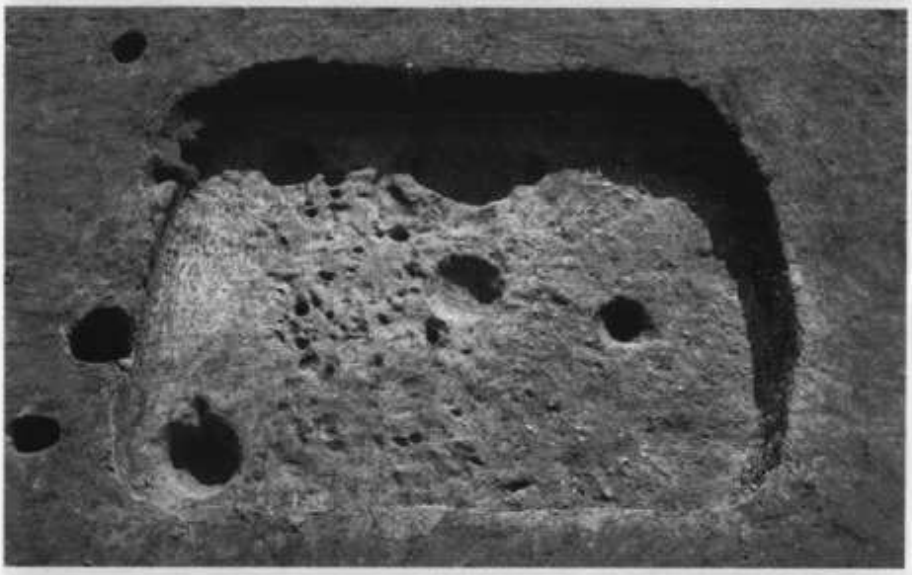
1　15・16号住居跡（気球写真）　　2　同　（北から）





1　17・20・107号住居跡、30号土坑（気球写真）　　2　17・107号住居跡下層（北から）

1　18号住居跡
（北から）

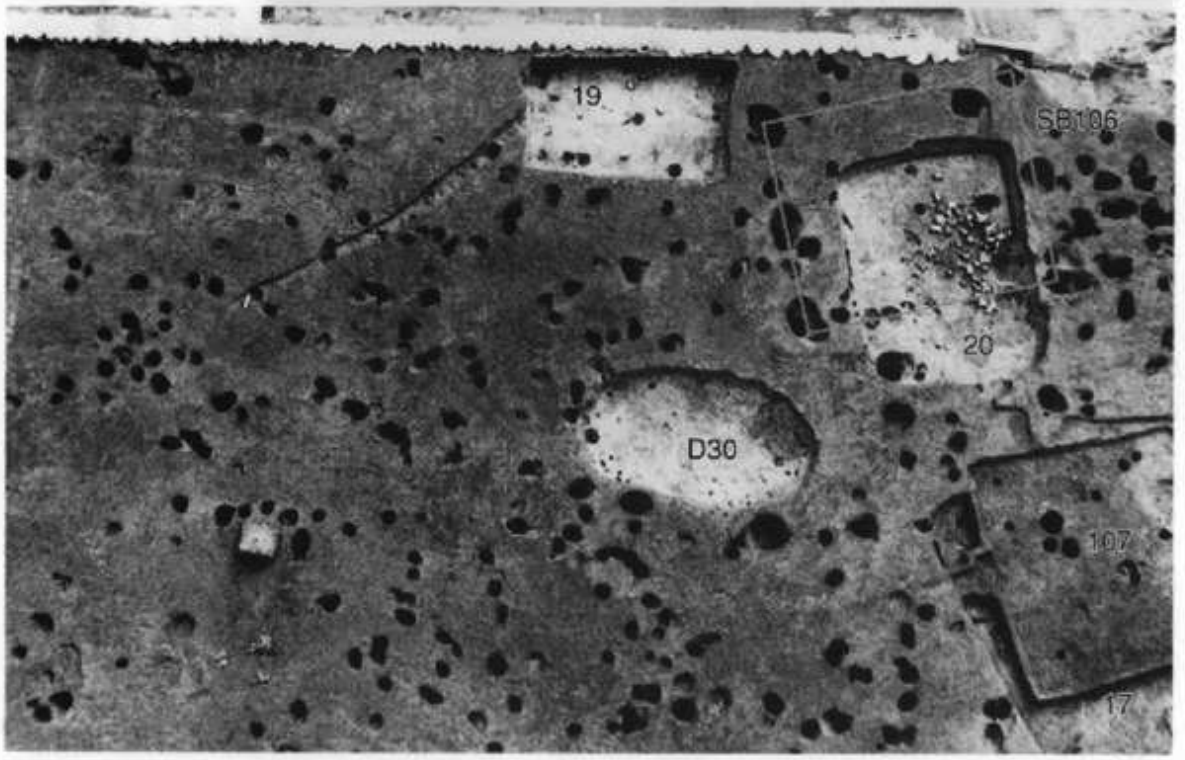


2　同　下層

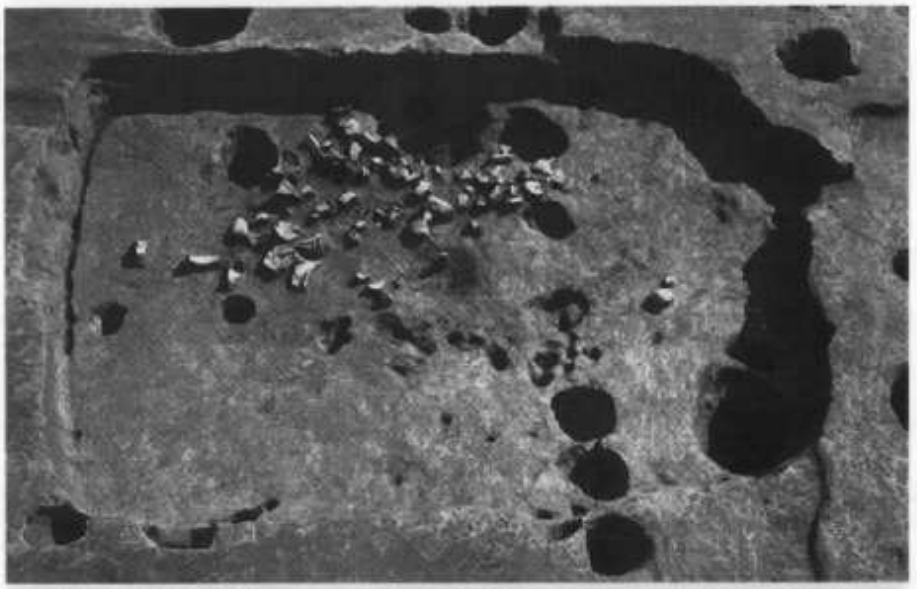
3　同　カヤ？出土状態

1　18号住居跡
遺物出土状態

2　同上



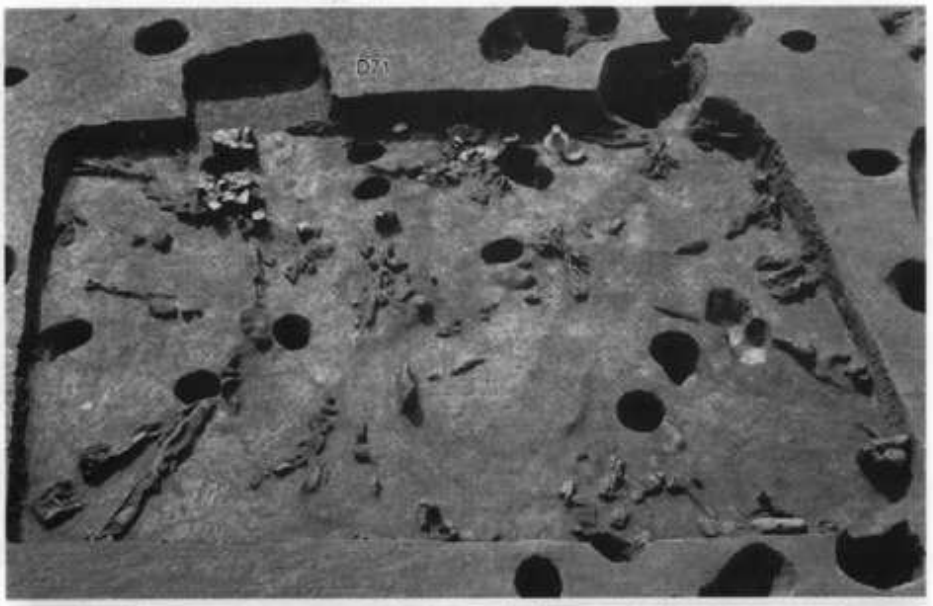
3　19・20号住居跡、30号土坑（気球写真）



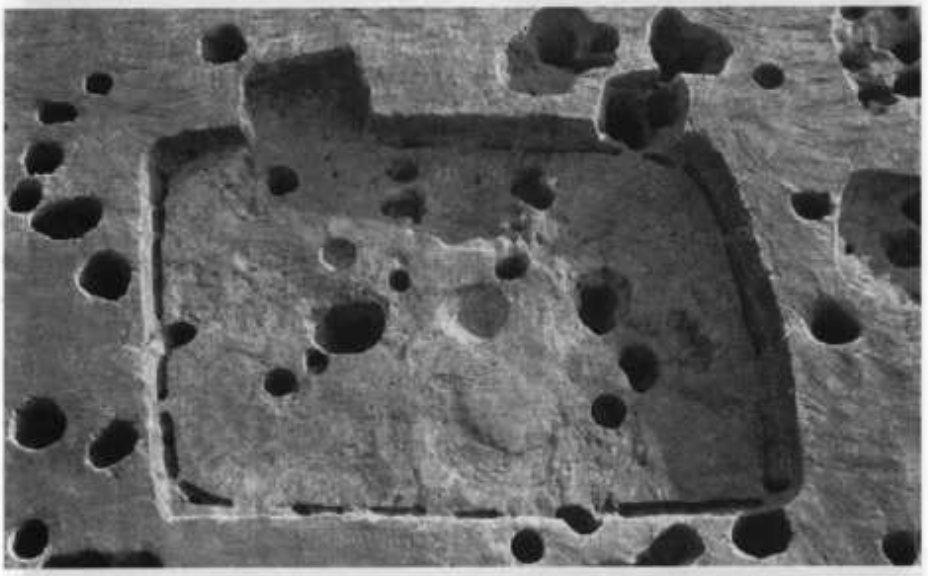
1　20号住居跡
（北から）

2　同　下層

3　同　遺物出土状態



1　21号住居跡
（北から）



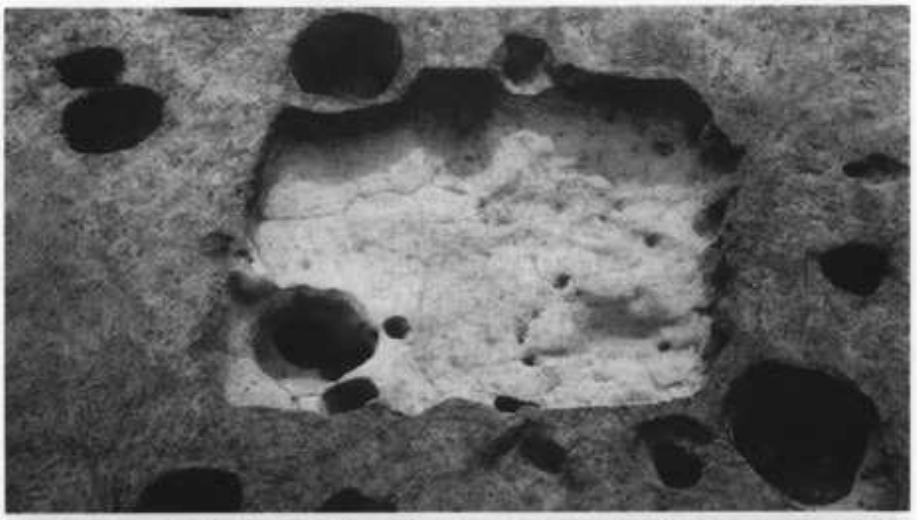
2　同上

3　同　下層

1　21号住居跡
遺物出土状態

2　同上

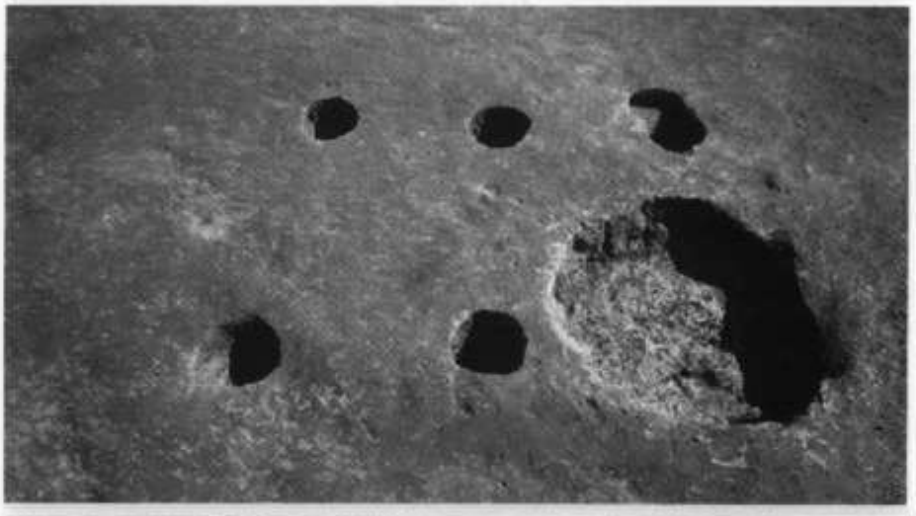
3　同　炭化材



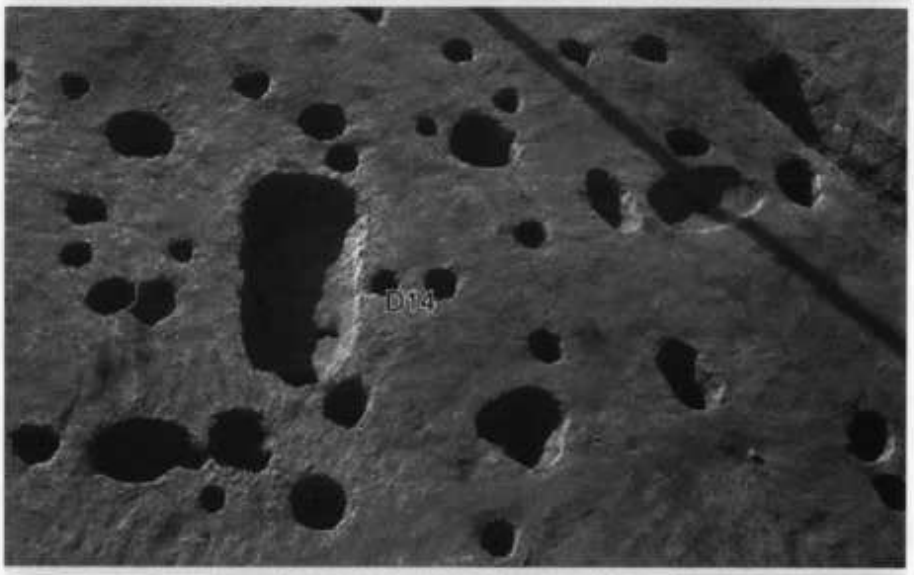
1　23号住居跡
（北から）

2　24号住居跡
（北から）

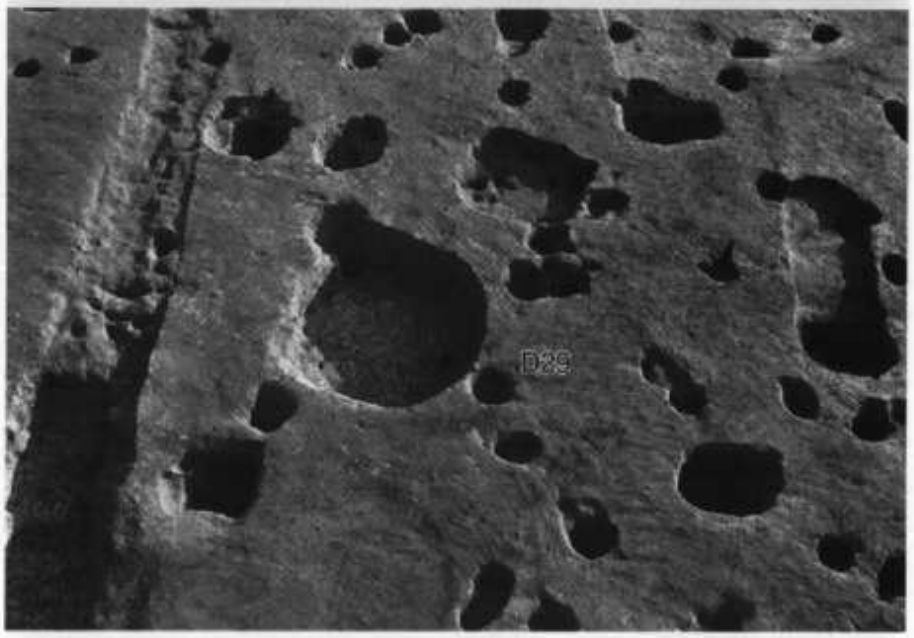
3　25号住居跡
（南から）



1　SB1
（北から）



2　SB2・14号土坑
（東から）



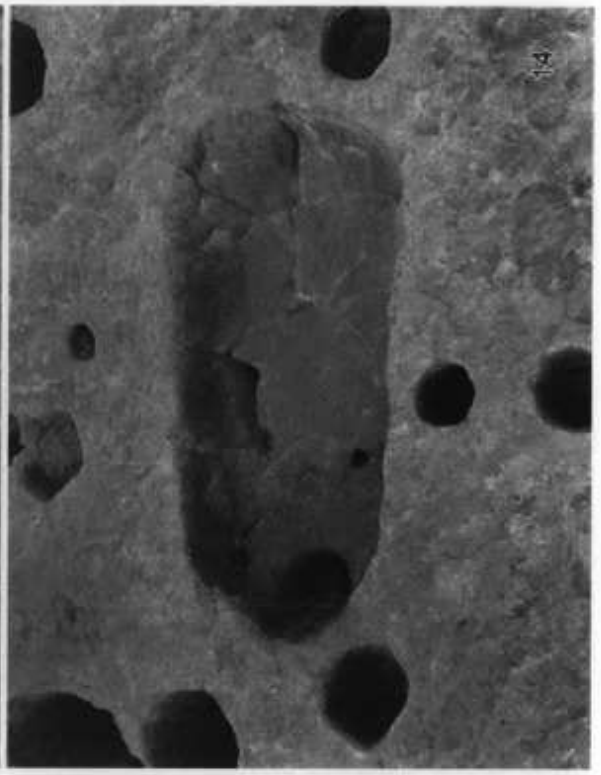
3　SB3・29号土坑
（北から）

1　1号土坑（東から）　　2　7号土坑（北から）

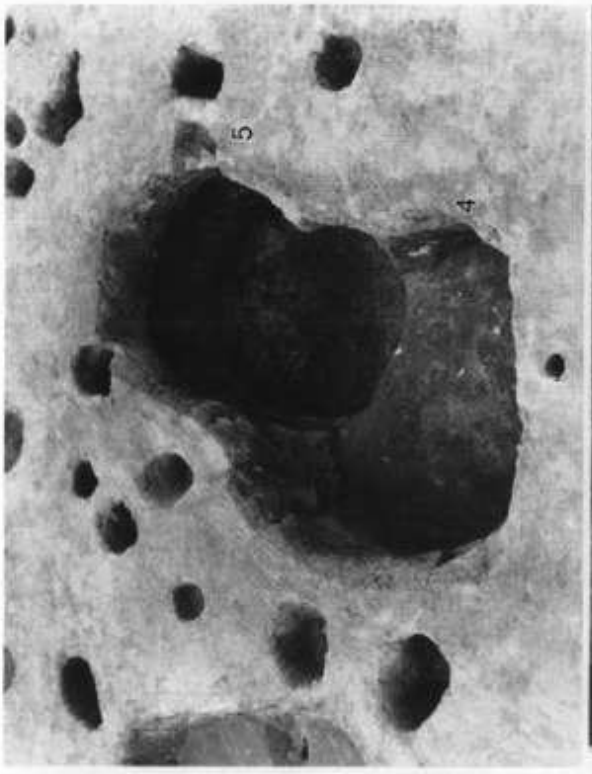
1　11号土坑（東から）　　2　12号土坑（南から）

1　13号土坑（北から）　　2　16号土坑（北から）

10号土坑（東から）



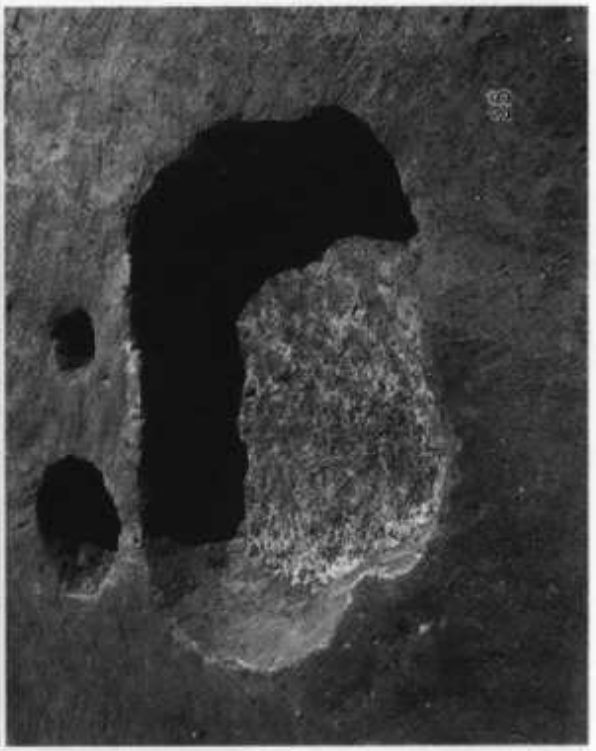
14号土坑（北から）



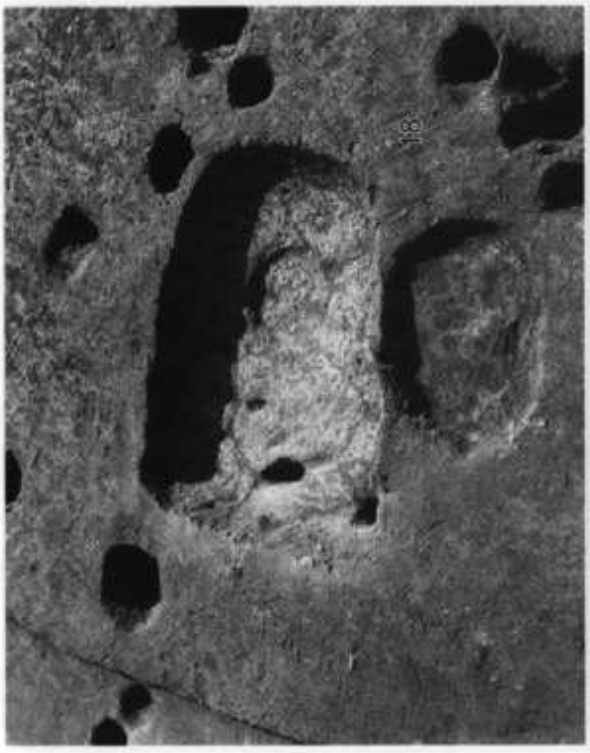
4・5号土坑（南から）

9号土坑（北から）

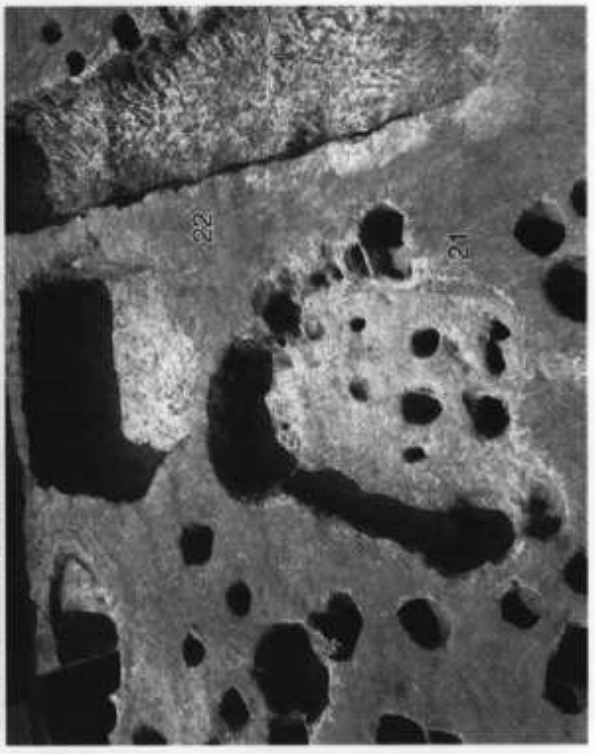
24号土坑（西から）



25号土坑（西から）



18号土坑（西から）

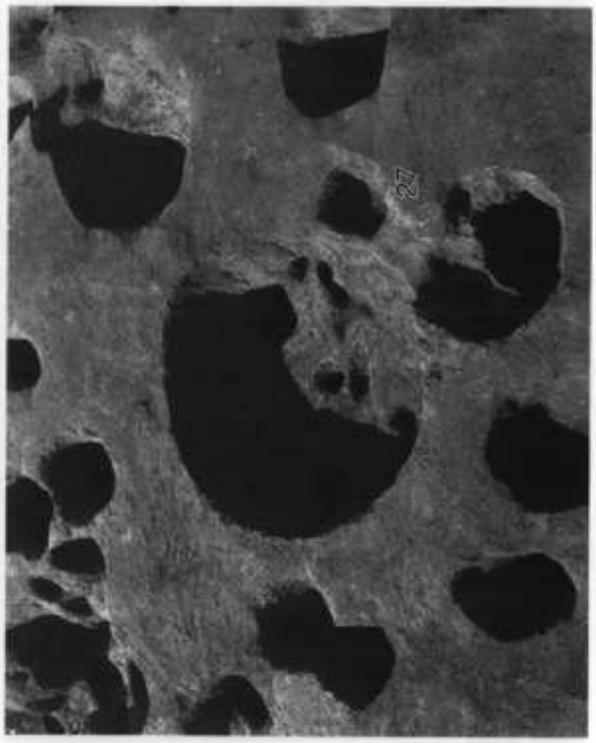


21・22号土坑（北から）

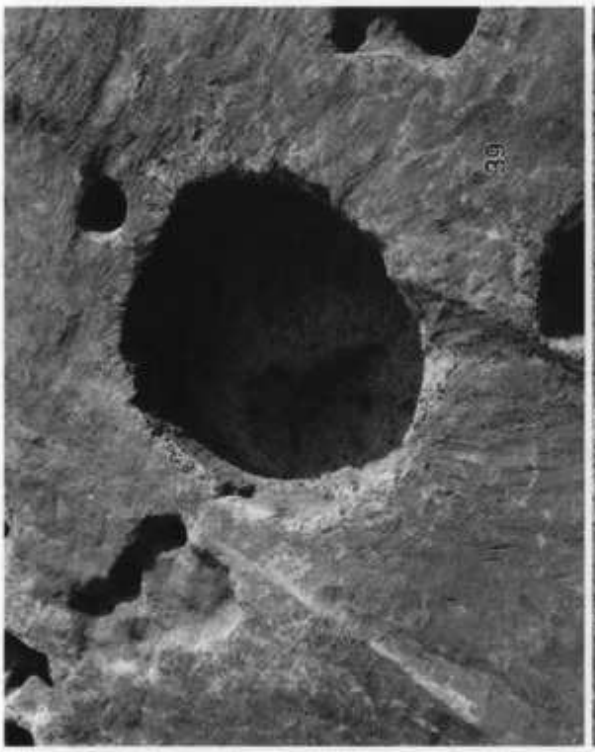
28号土坑（北から）

31号土坑（北から）

26号土坑（東から）

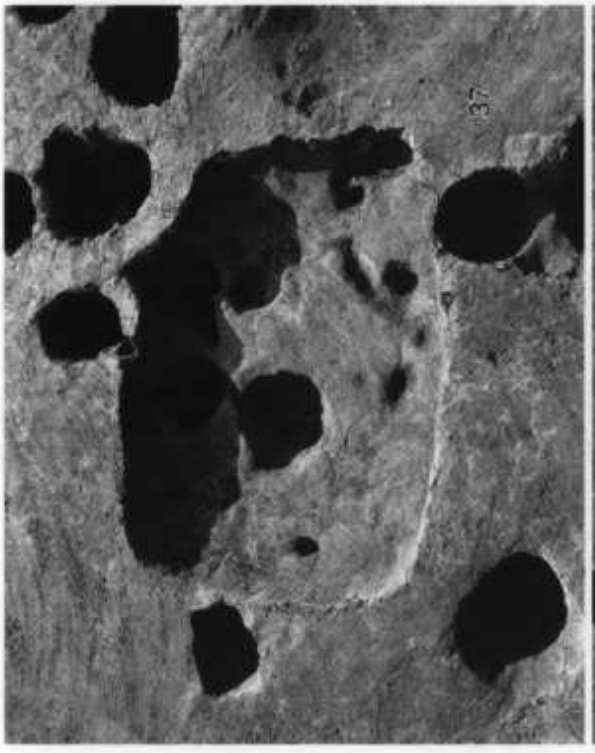


27号土坑（北から）

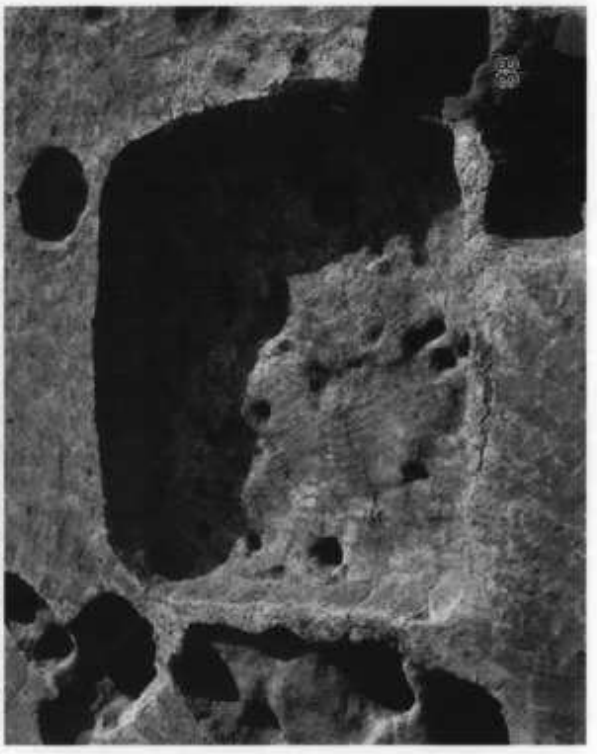


39号土坑（西から）

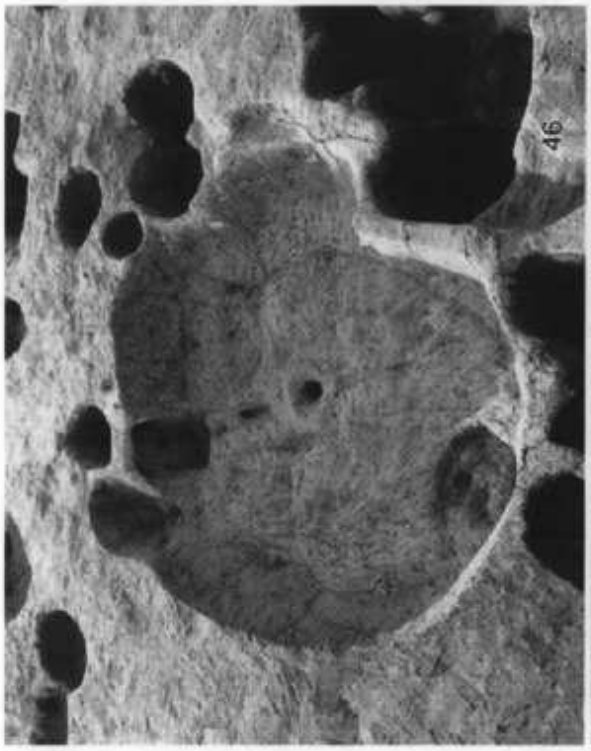
40号土坑（東から）



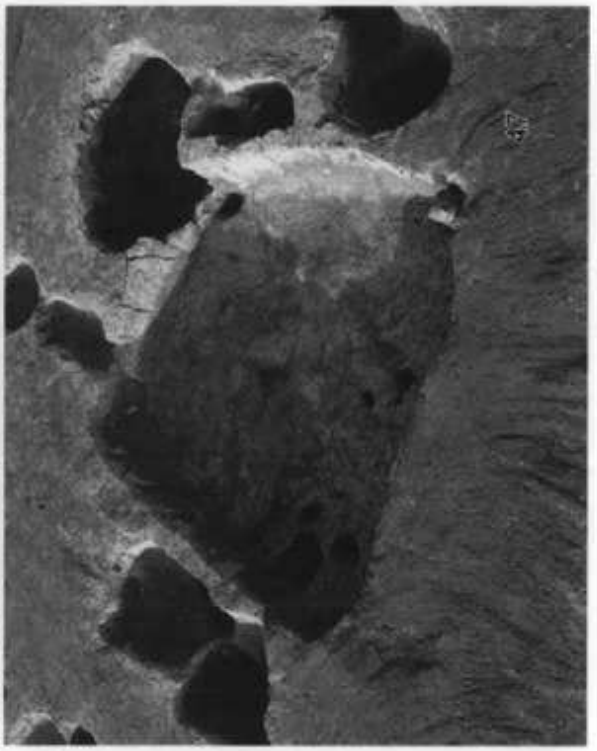
37号土坑（北から）



38号土坑（北から）

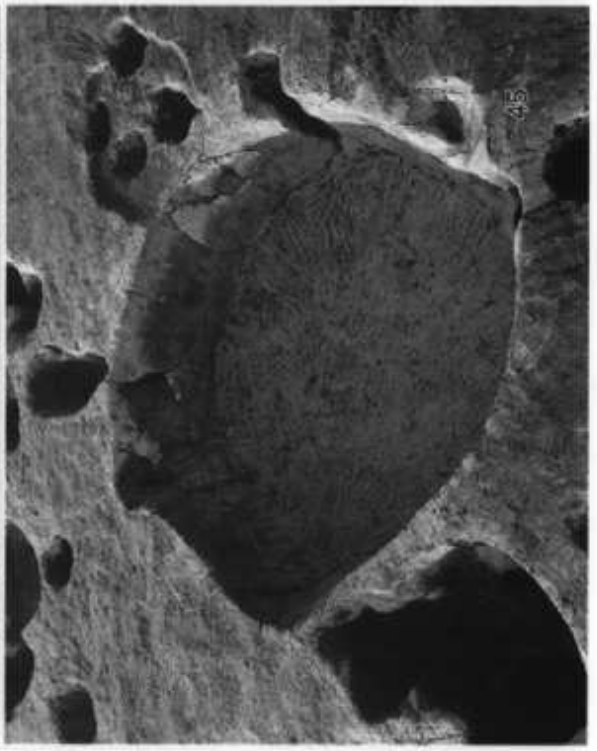


46号土坑（東から）



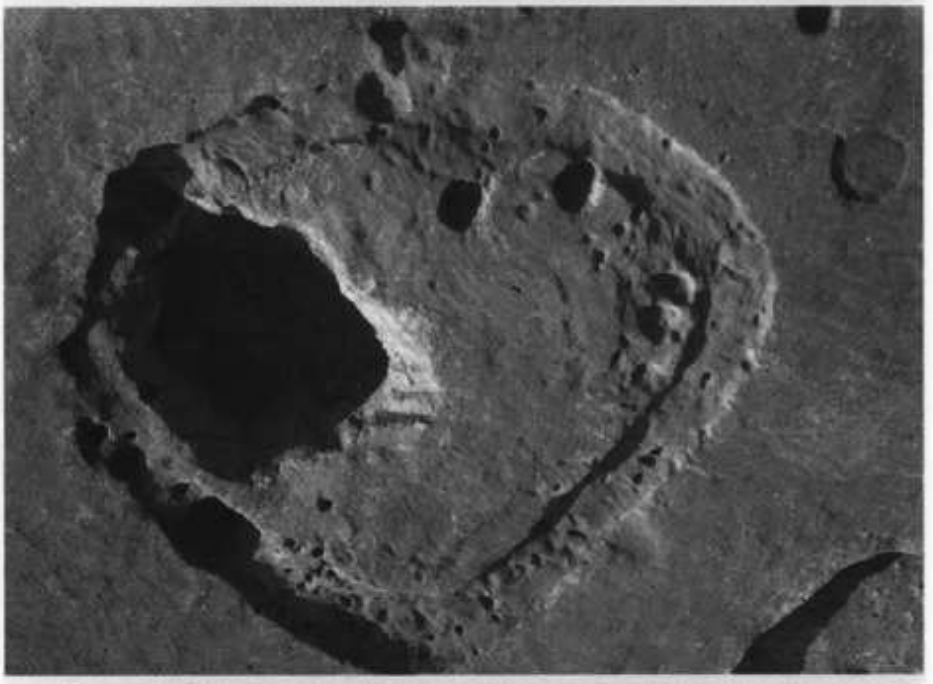
47号土坑（南から）

41・42号土坑（東から）

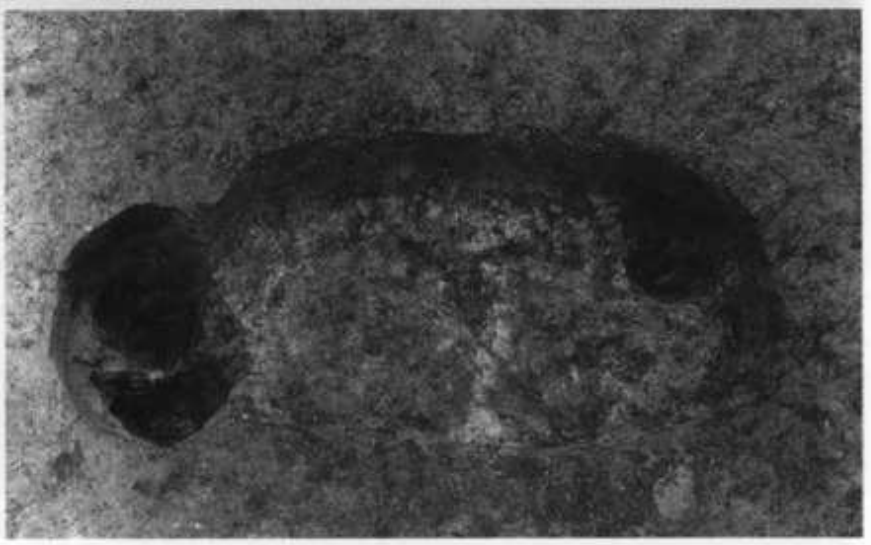


45号土坑（東から）

1　48号土坑
（北から）



2　1号円形周溝
遺溝
（真上から）

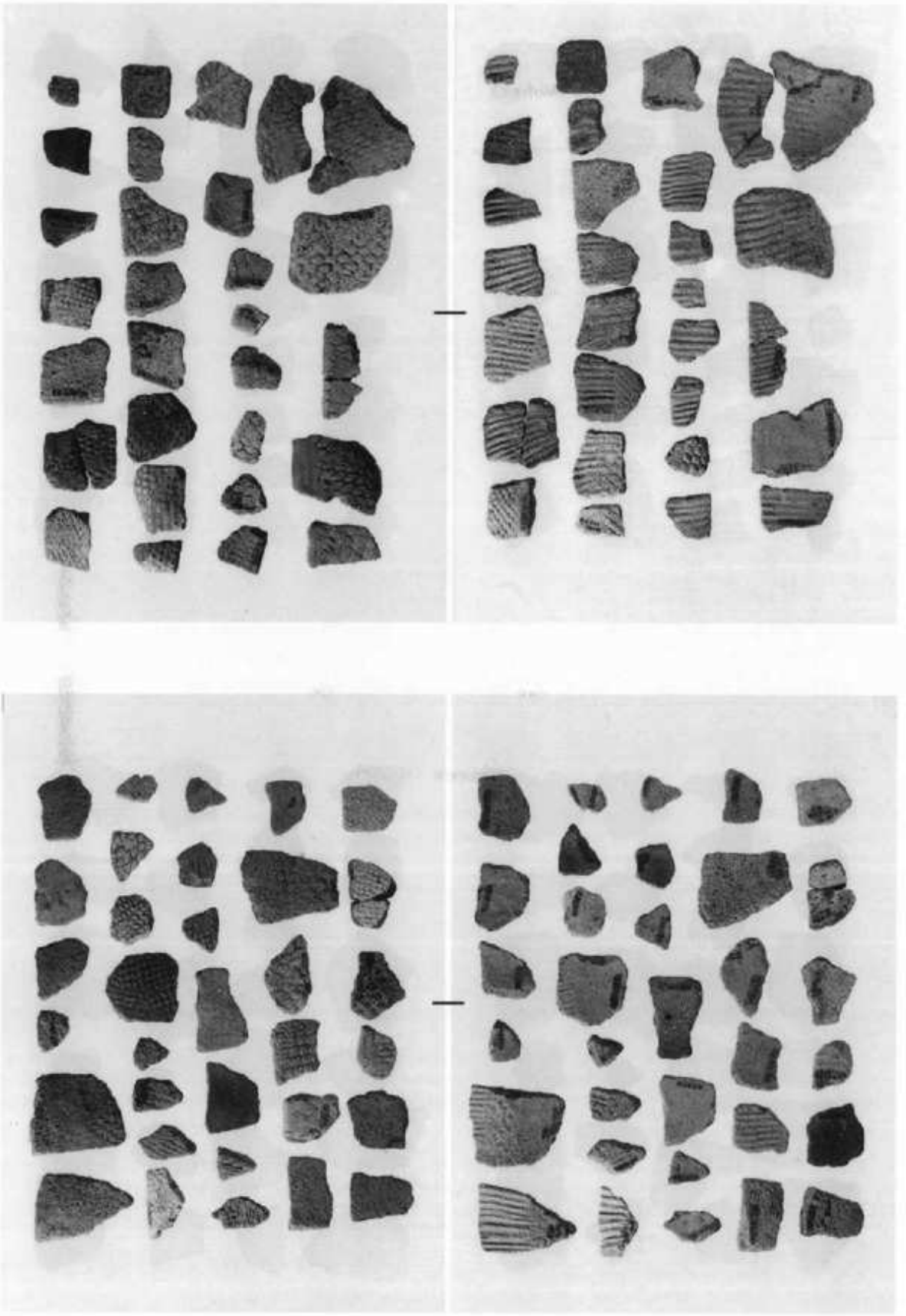


3　15号土壙
（南から）

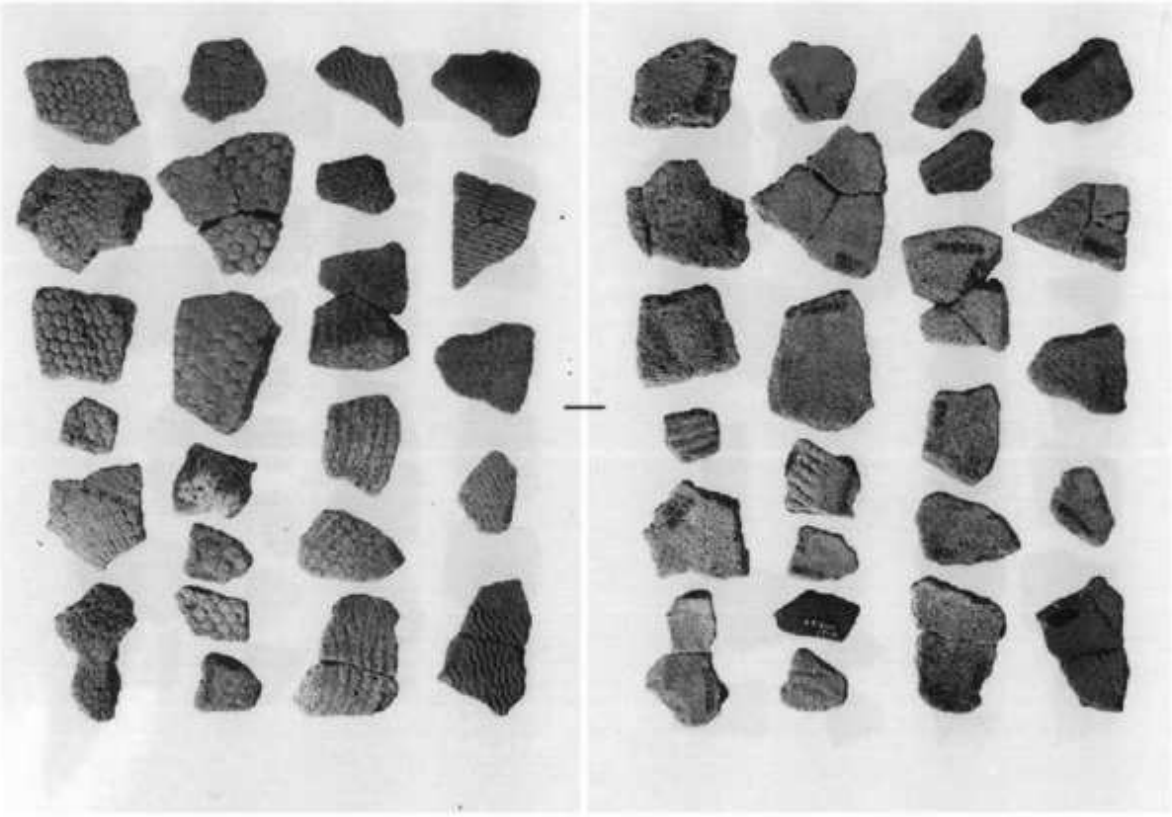
1　1号甕棺墓
（西南から）

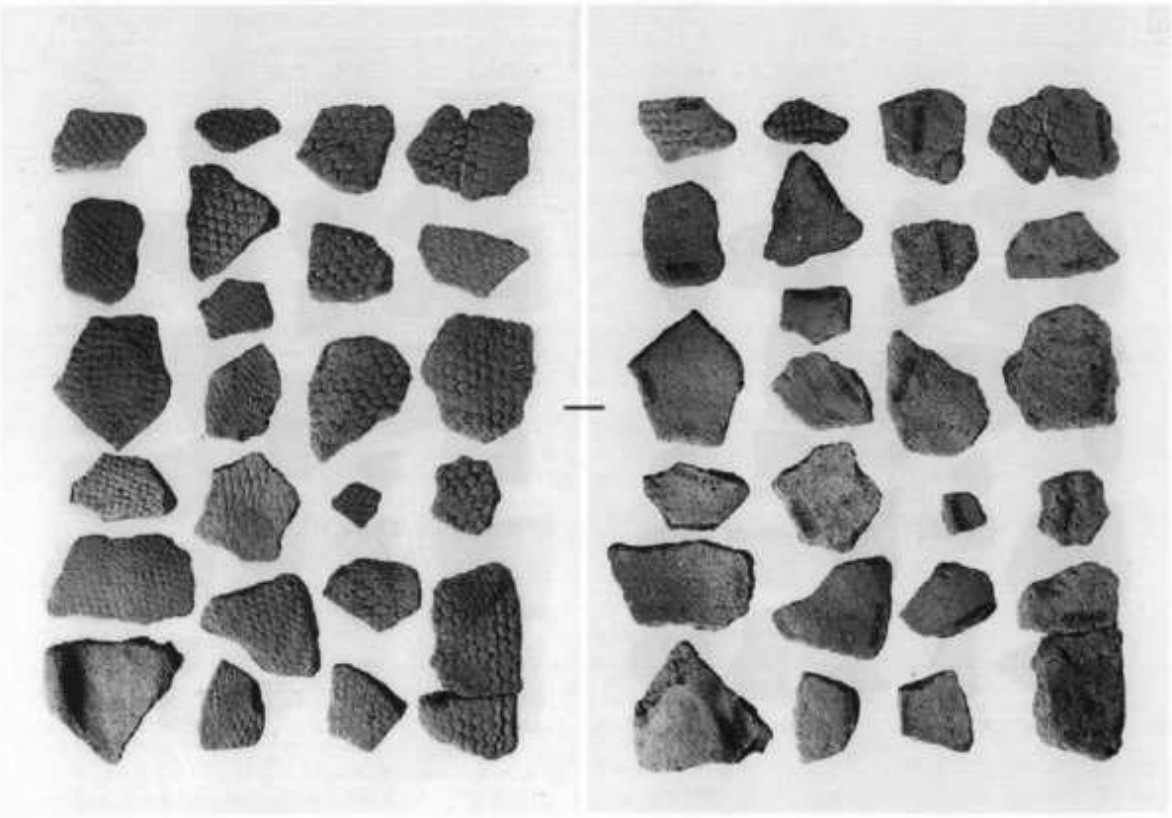
2　2号甕棺墓
（南から）

3　3号甕棺墓
（東から）

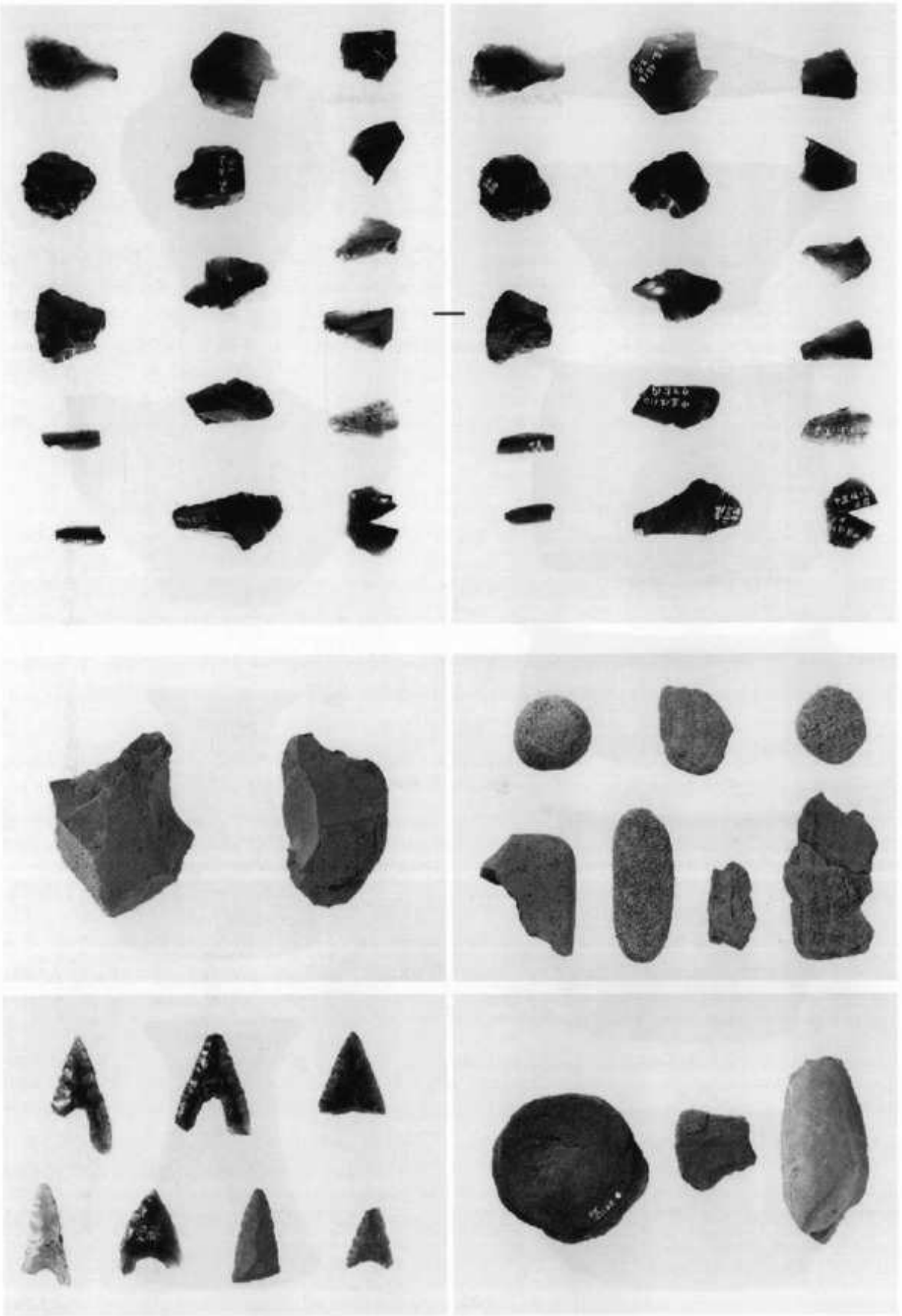


中道遺跡出土押型文土器 1





中道遺跡出土押型文土器 2

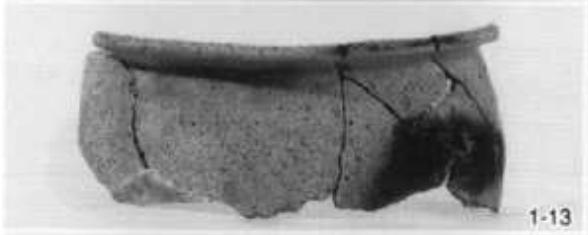


中道遺跡出土旧石器、縄文土器・石器

1-1

1-4

1-10


1-13

1-19

1-20

1-21

1-31

1-23

1-24

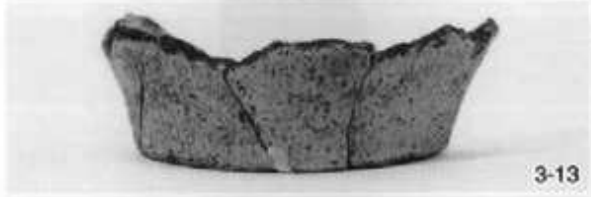
中道遺跡出土弥生土器 1

2-1

3-1

3-4

3-11


3-13

3-19

4-8

6-2

6-6

6-7

6-8

6-15

中道遺跡出土弥生土器 2

10-20

10-22

10-25

10-26

10-27

11-2

11-18

11-19

11-21

12-8

中道遺跡出土弥生土器 3

13-2

13-4

13-5

13-15

13-22

13-28

13-33

13-34

13-44

13-45

13-56

14-2

14-17

14-22

15-2

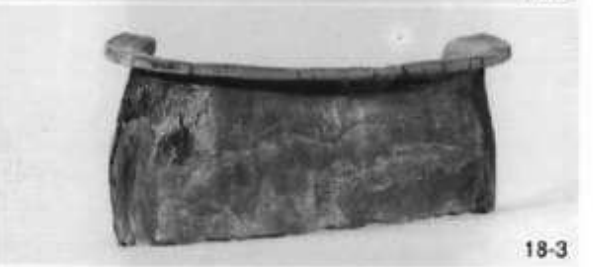
16-5

16-8

16-14

16-17

17-12


18-3

18-4

18-12

19-11

20-12

20-18

20-22

20-28

20-30

20-31

20-15

21-1

21-4

21-5

21-6

D7-1

23-8

D7-5

D1-3

D7-7

D2-7

D11-9

D4-1

D11-11

D5-6

D12-1

D12-7

D12-2

D12-9

D12-4

D12-10

D12-6

D12-11

D12-13

D12-19

中道遺跡出土弥生土器 8

D12-12

D12-23

D12-24

D12-25

D12-27

D12-30

D12-32

D12-34

D12-35

D13-3

D13-5

D13-7

D13-9

D13-11

D16-10

D22-11

D38-5

D38-6

D41-12

D46-14

D47-4

P333

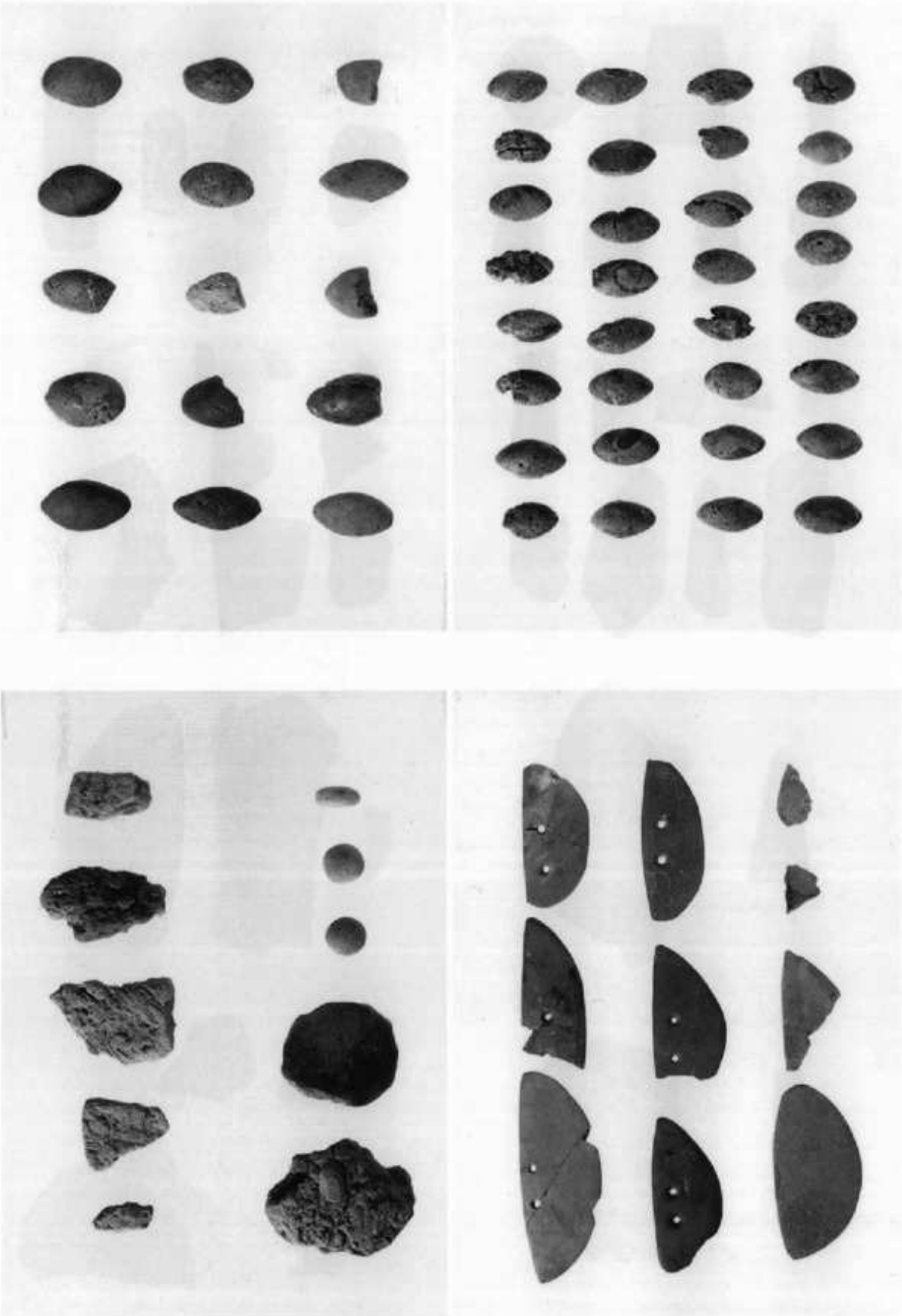
P333

K1上

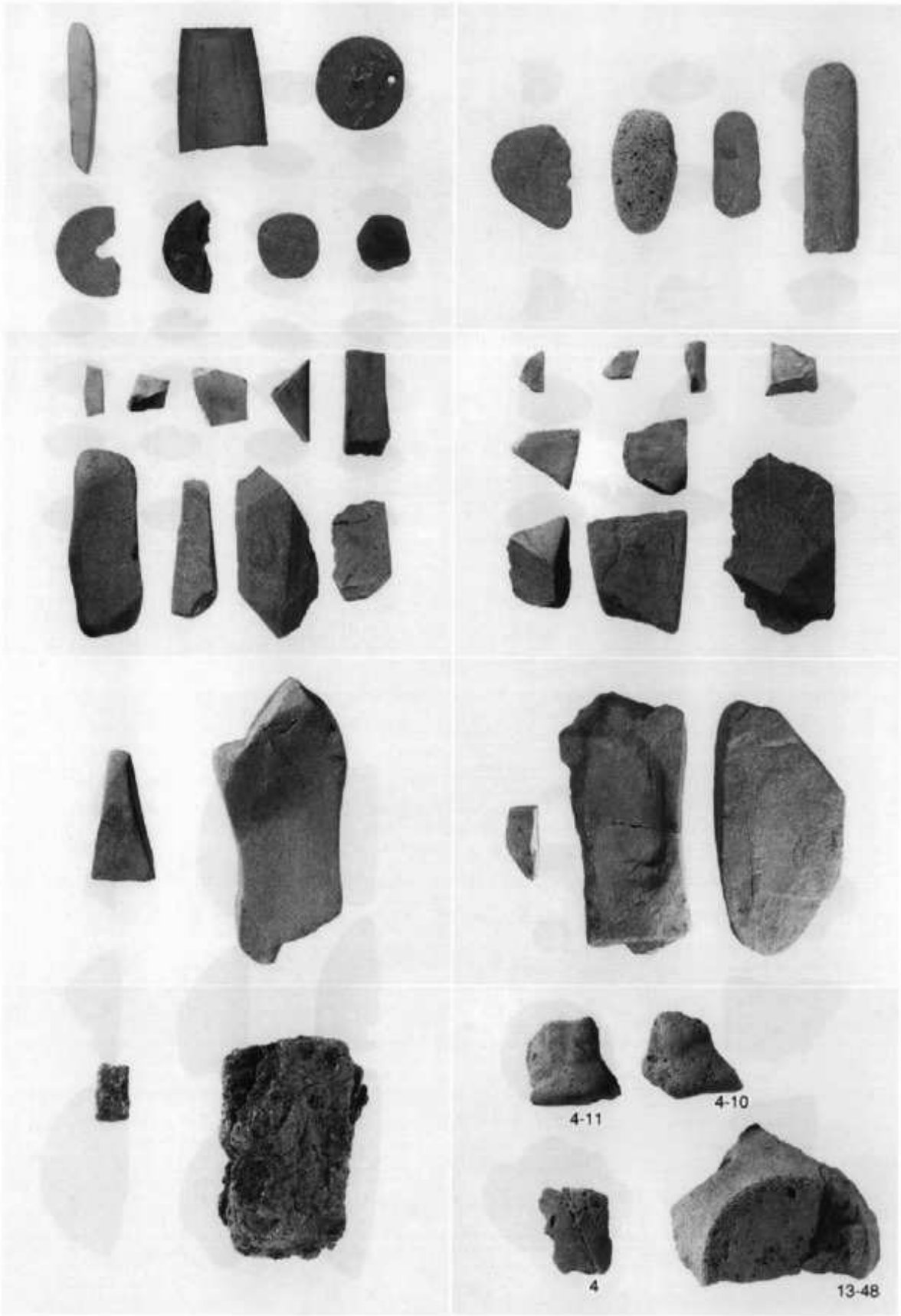
K1下

K2上

K2下



中道遺跡出土弥生土製品・石器

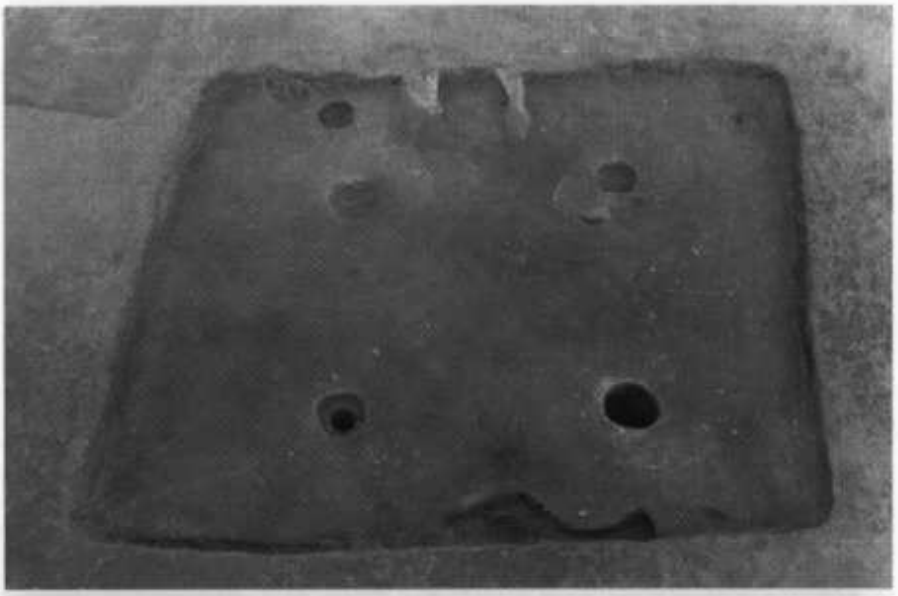


中道遺跡出土石器・鉄器・粉瓶土器

1　101・102号住居跡
（南から）

2　101号住居跡カマド
（南から）

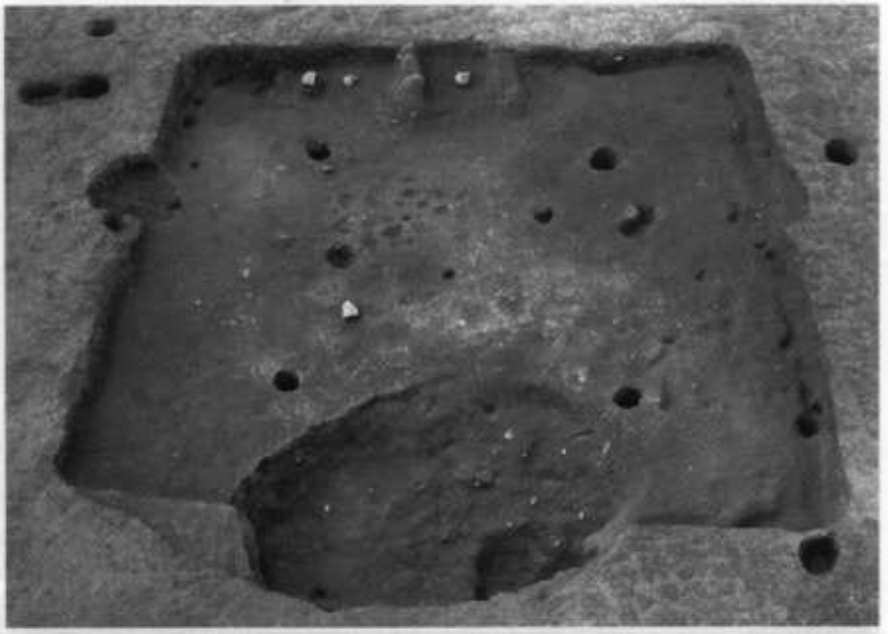
3　103号住居跡
（南から）



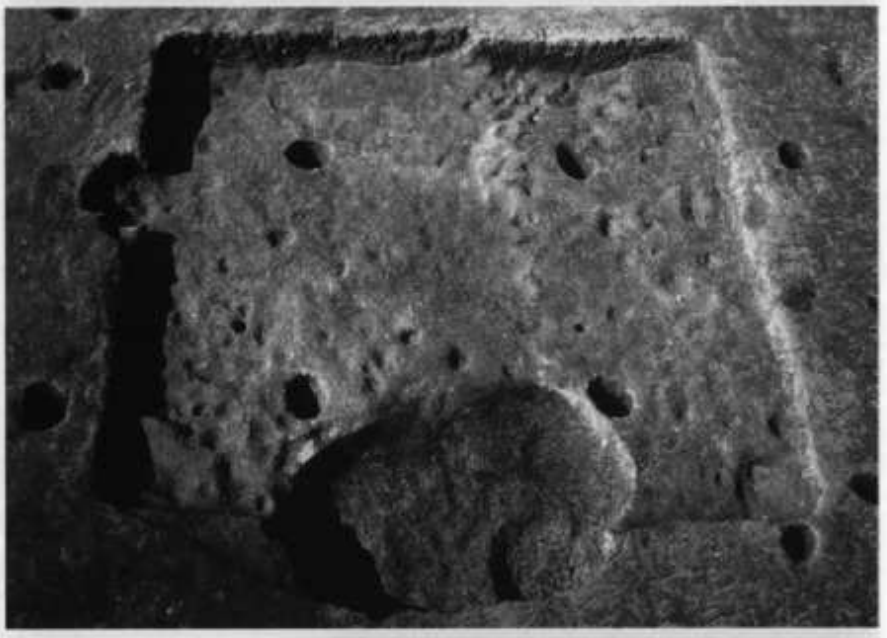
1　104号住居跡
（南から）

1　同上　下層
（南から）

1　同上　カマド



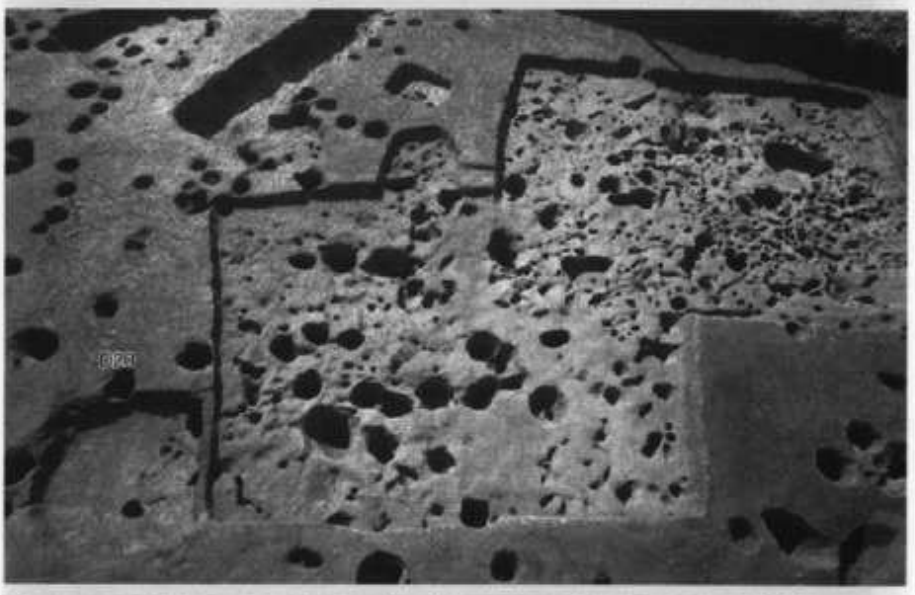
1　105号住居跡
（南から）



2　同上　下層
（南から）

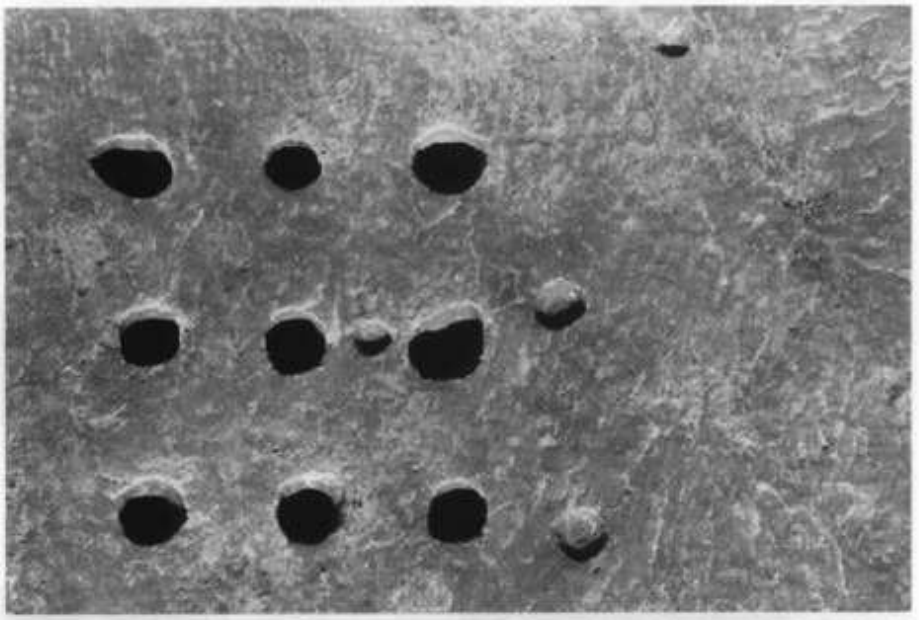
3　同上　カマド及び
土器出土状態
（南から）

1　106号住居跡
（北から）

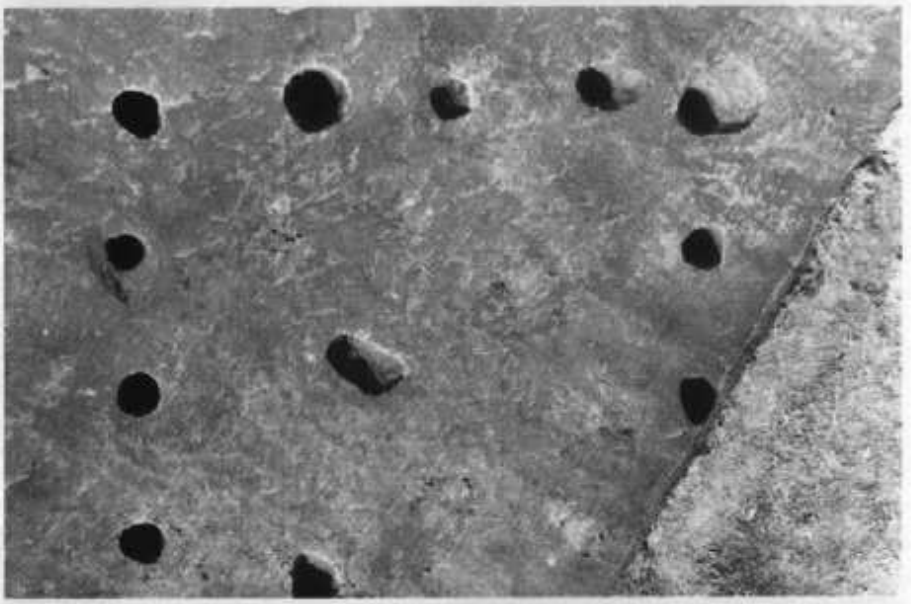


2　同上　下層
（北から）

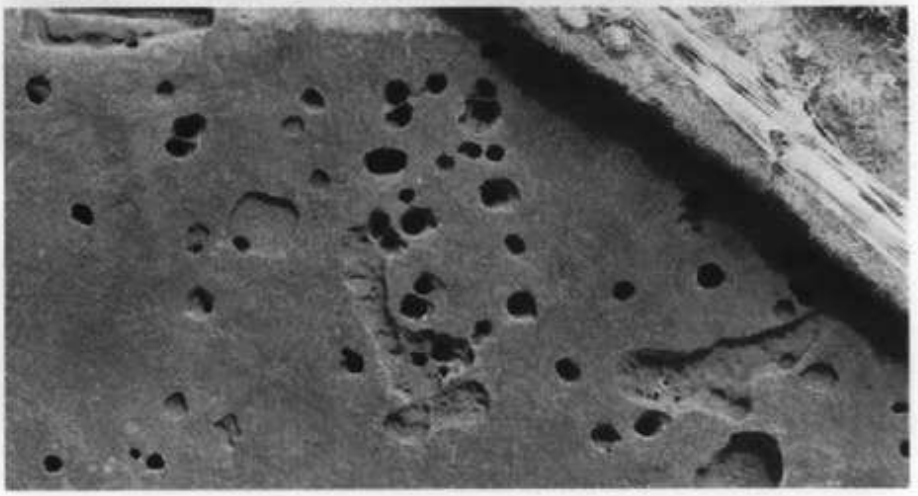
3　同上　カマド
（南から）



1 101号建物跡
（南から）



2 102号建物跡
（南から）



3 103号建物跡
（西から）

101-1

101-2

101-3

101-4

101-5

102-9

104-1

105-9

105-8

105-13

105-16

105-17

105-24

105-29

105-30

106-4

106-6

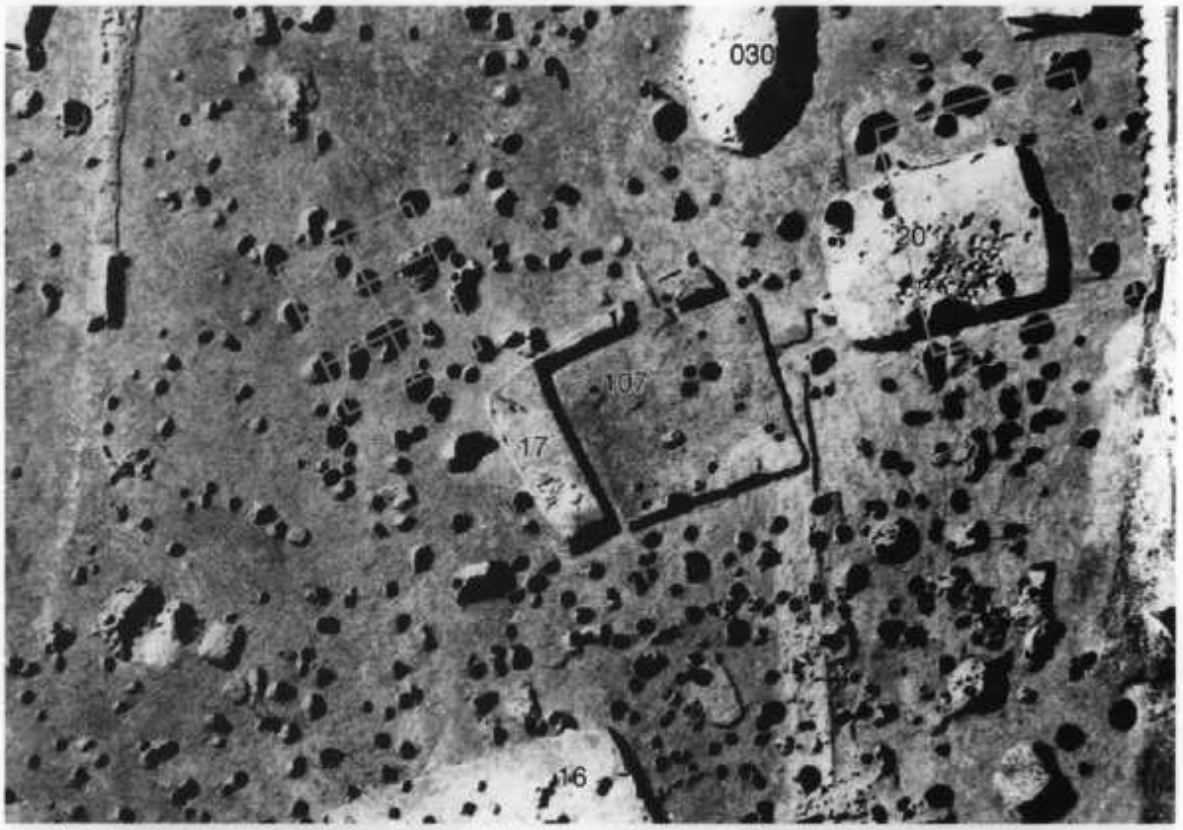
106-7

106-8

106-9

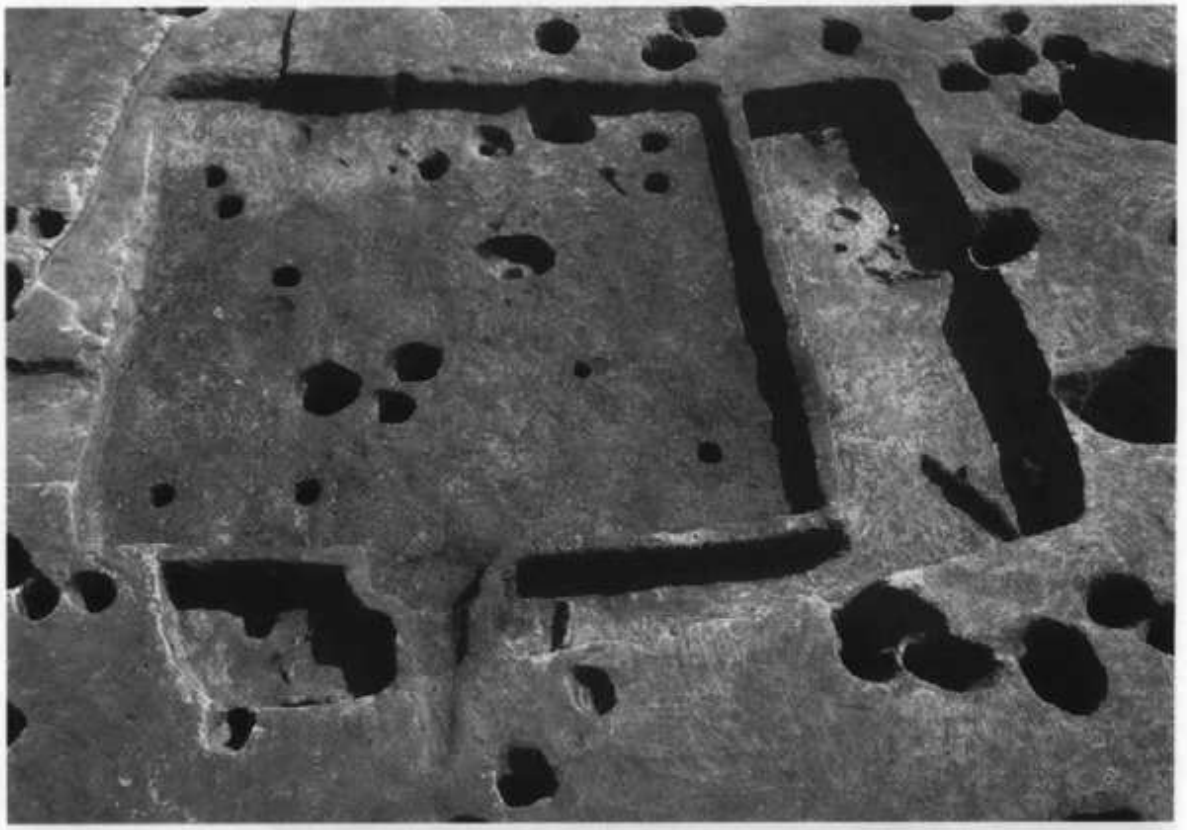
106-17

中道遺跡古墳時代住居跡出土土器 2

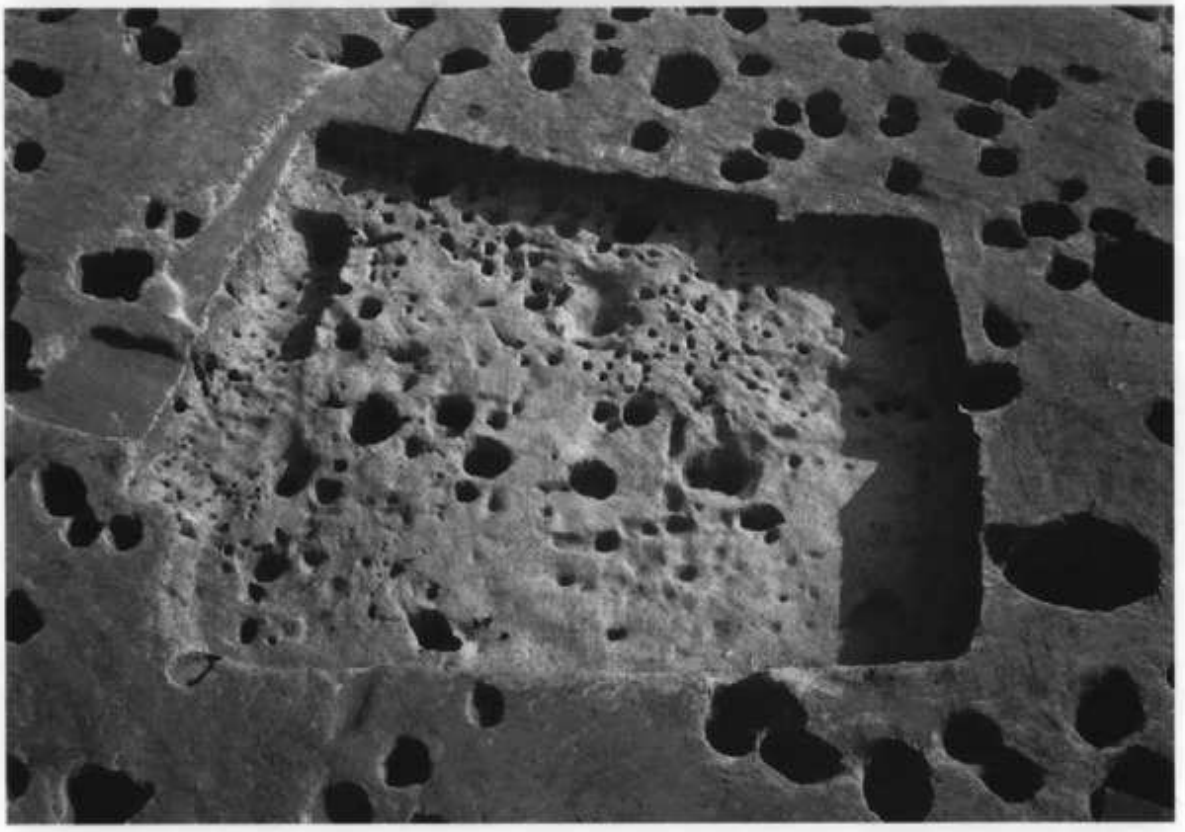


1　107号住居跡周辺（気球写真）

2　107号住居跡周辺（北から）



1　107号住居跡（北から）

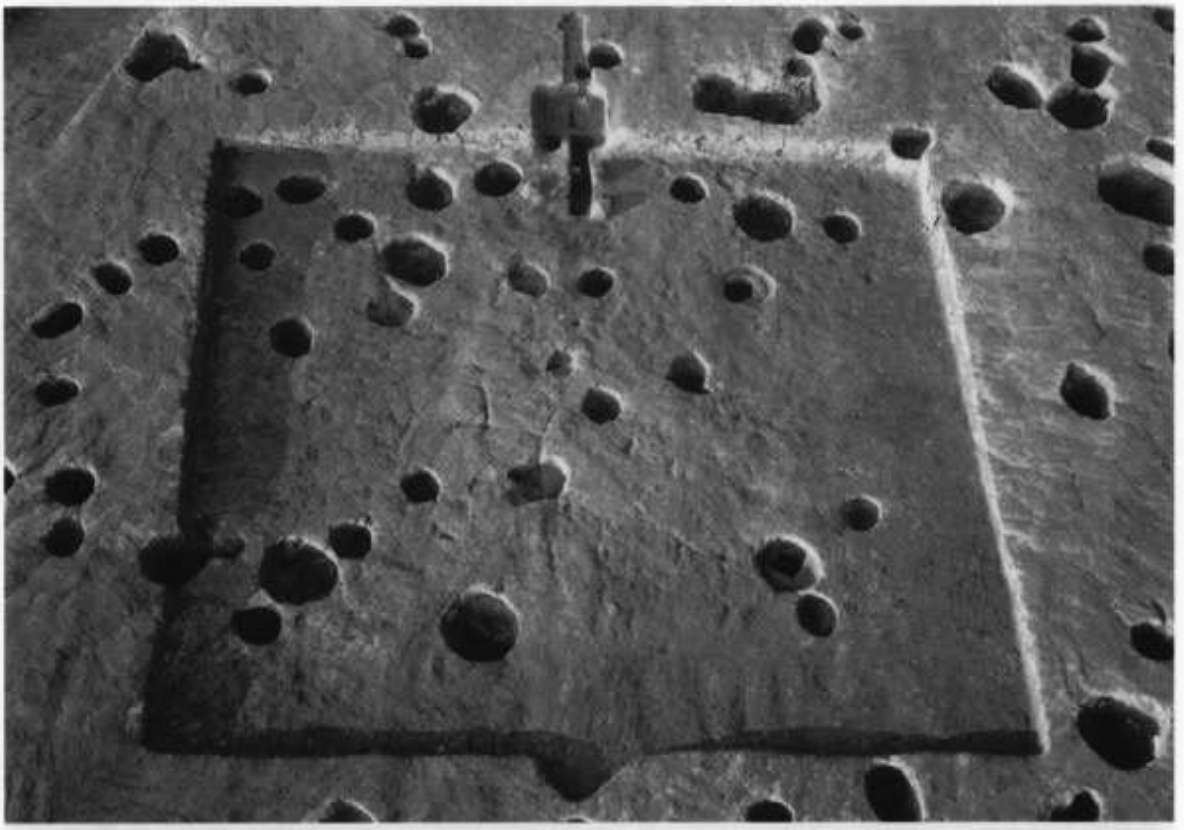


2　同上　下層（北から）

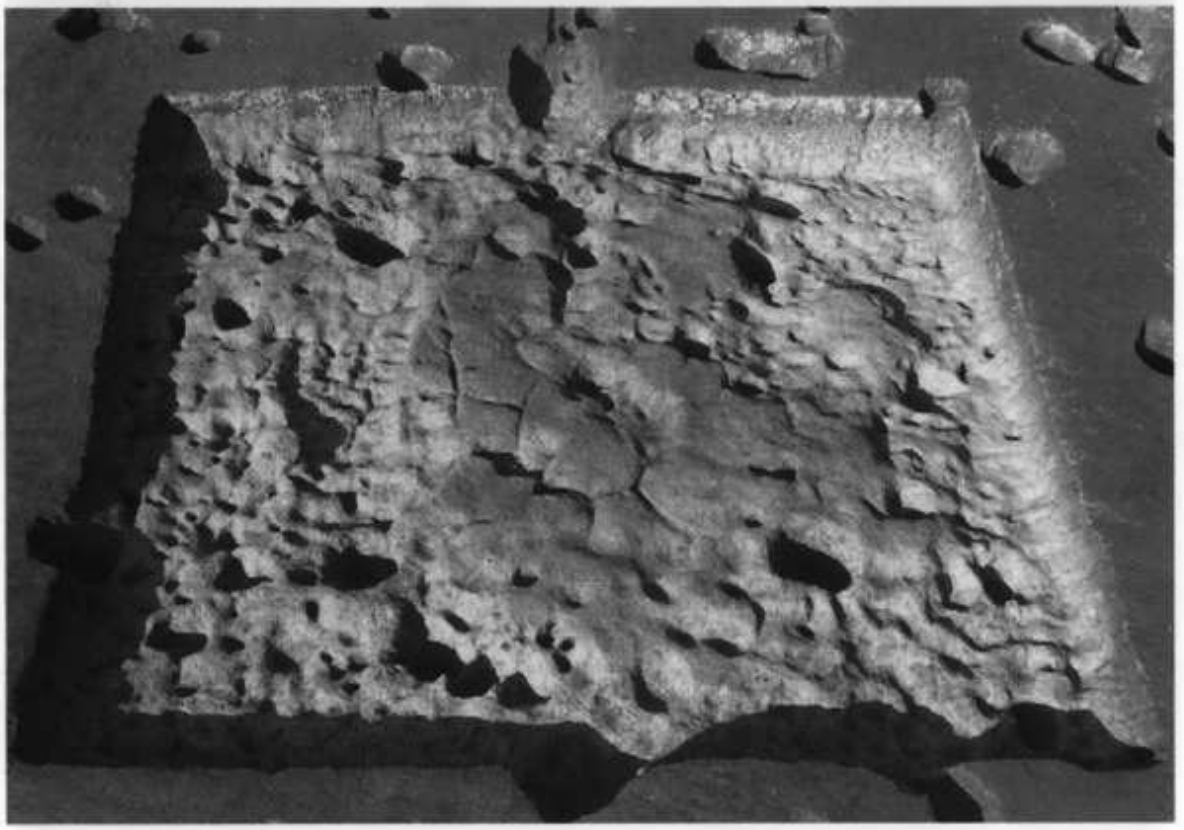
1　108号住居跡下層
（南から）

2　同上　カマド
（南から）

3　109号住居跡下層
（北から）



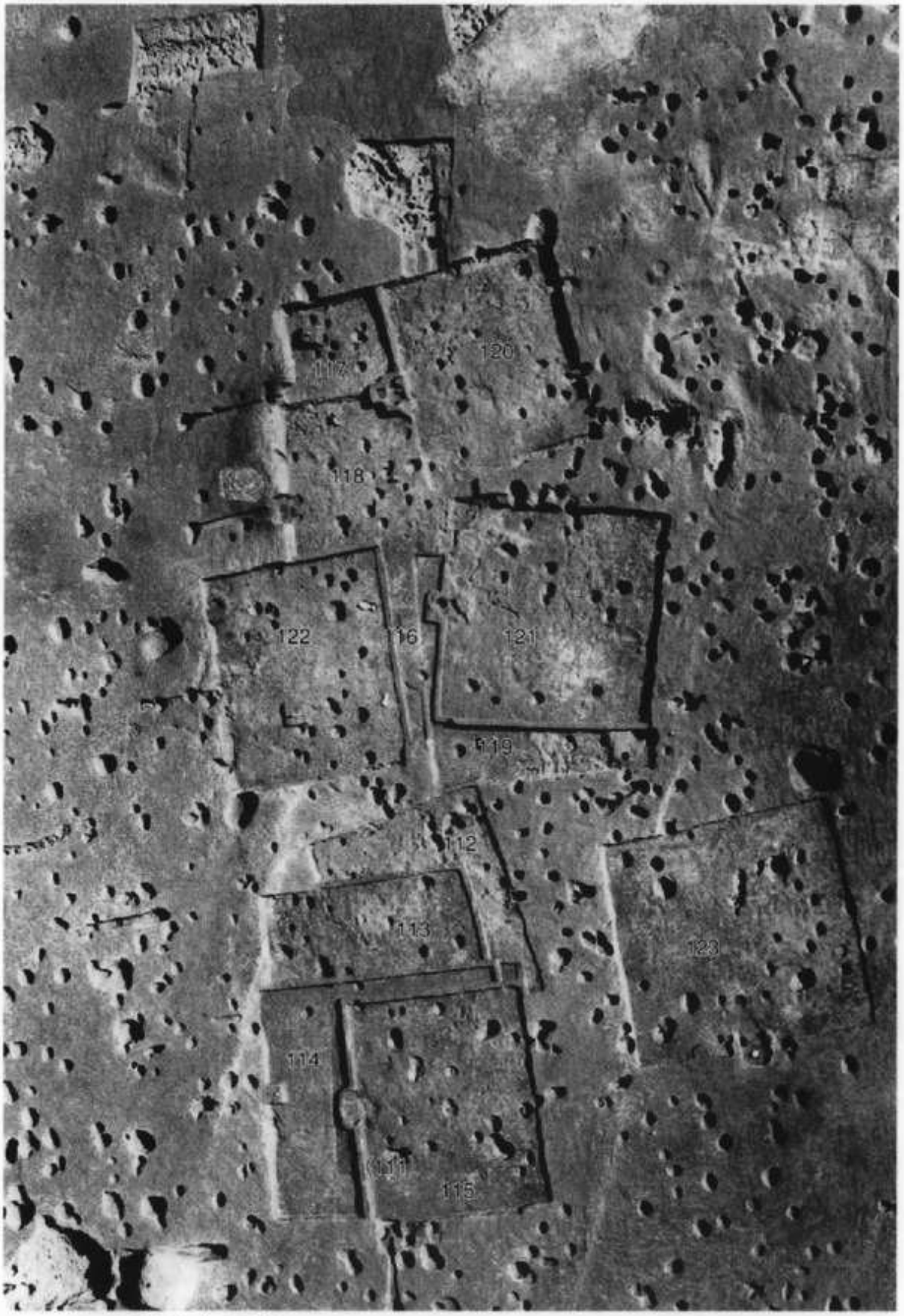
1　110号住居跡（南から）



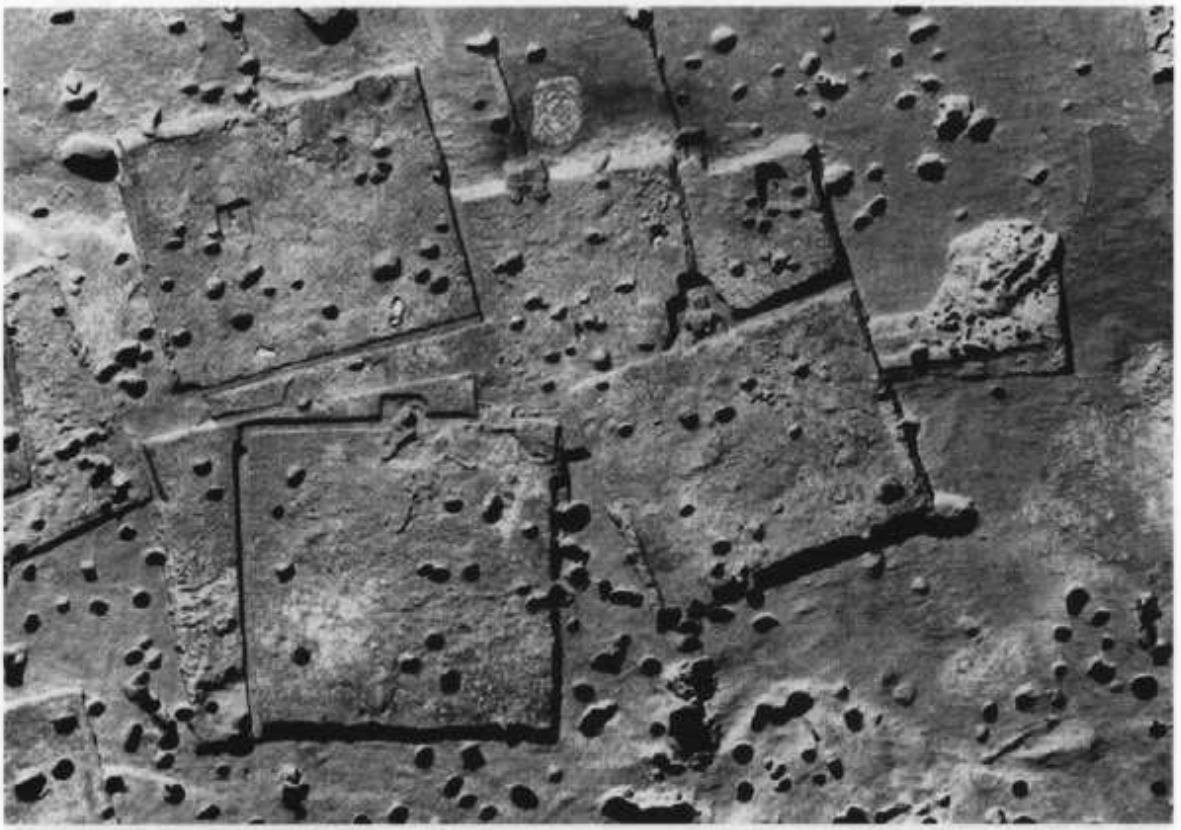
2　同上　下層（南から）

1　110号住居跡カマド
（南から）

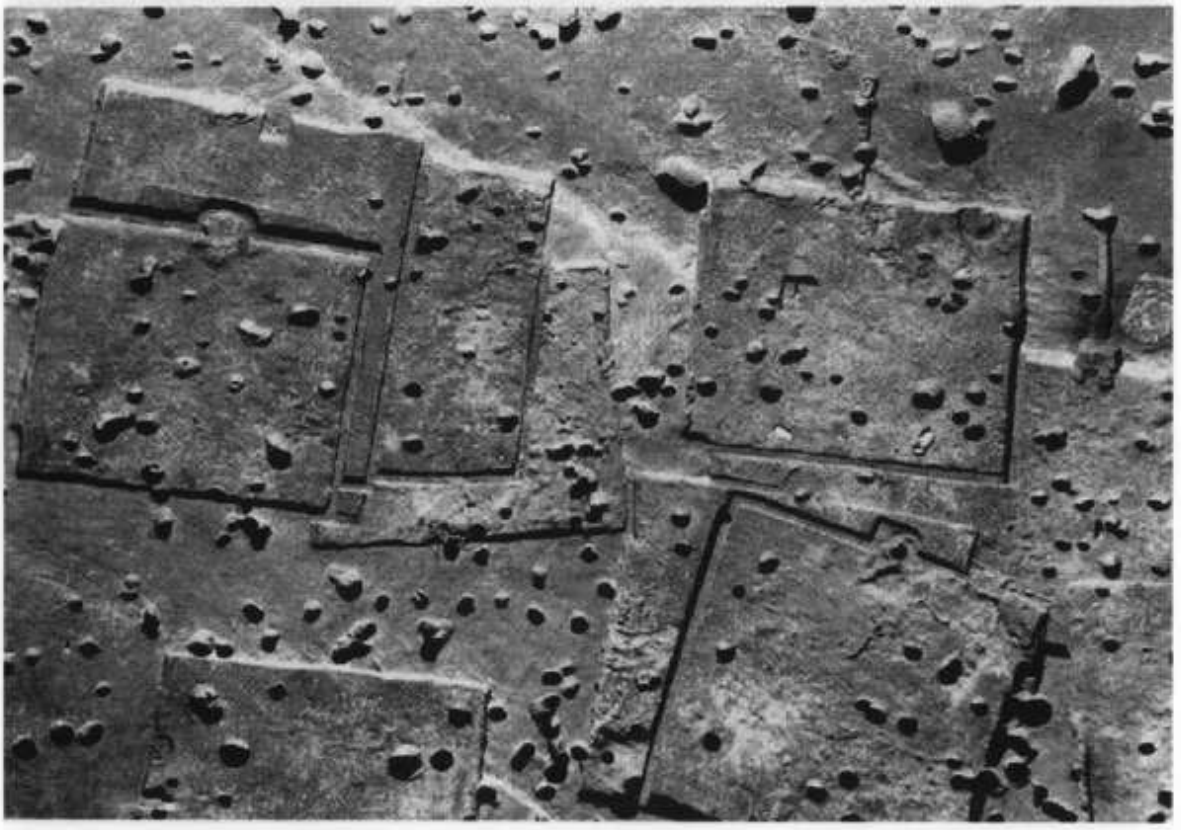
2　111～123号住居跡（北から）



1　111～123号住居跡（気球写真）

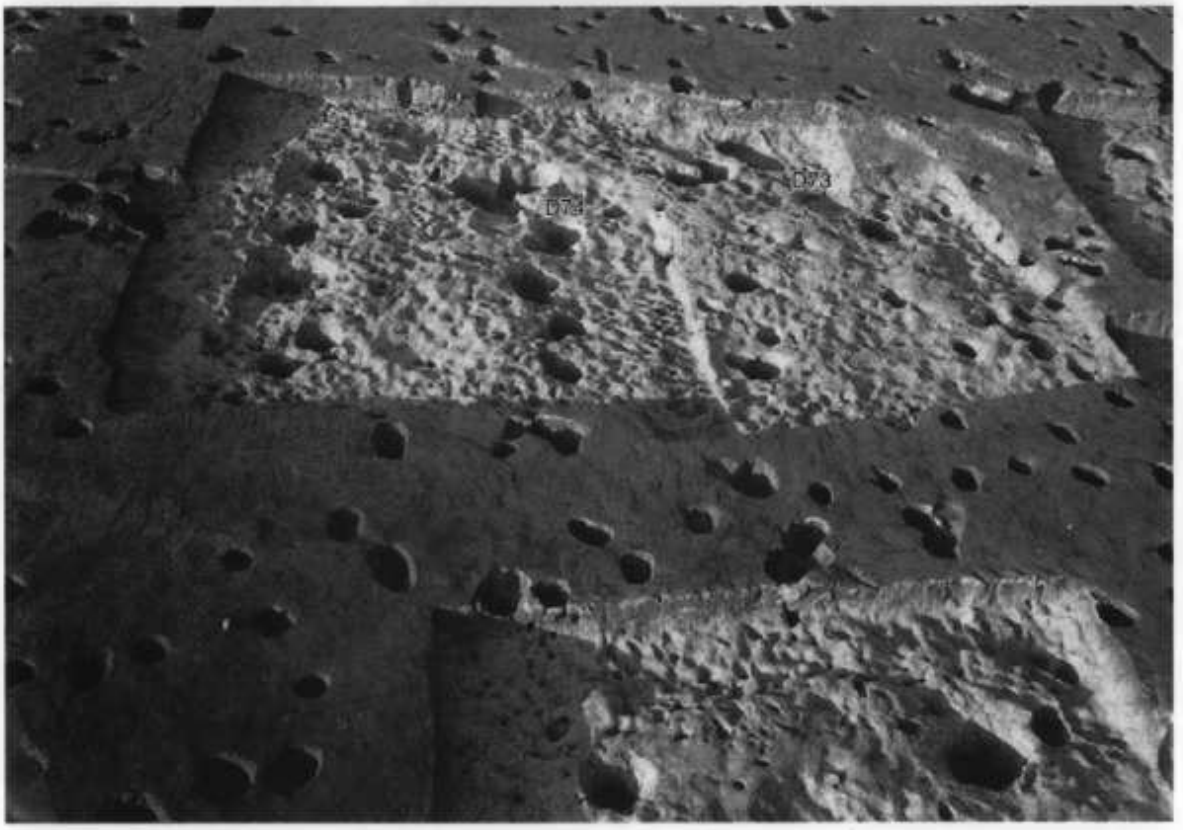


1　116～121号住居跡（気球写真）



2　111～122号住居跡（気球写真）

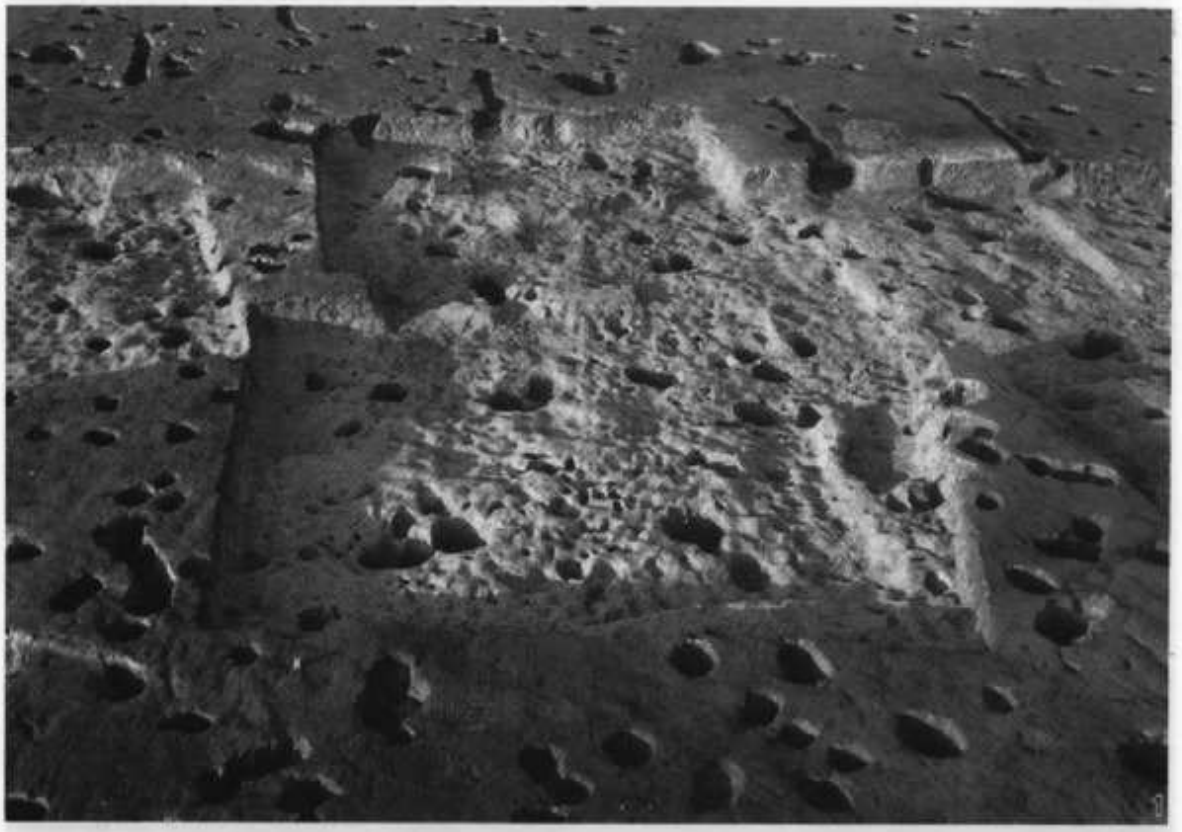
1　111～115号住居跡（南から）



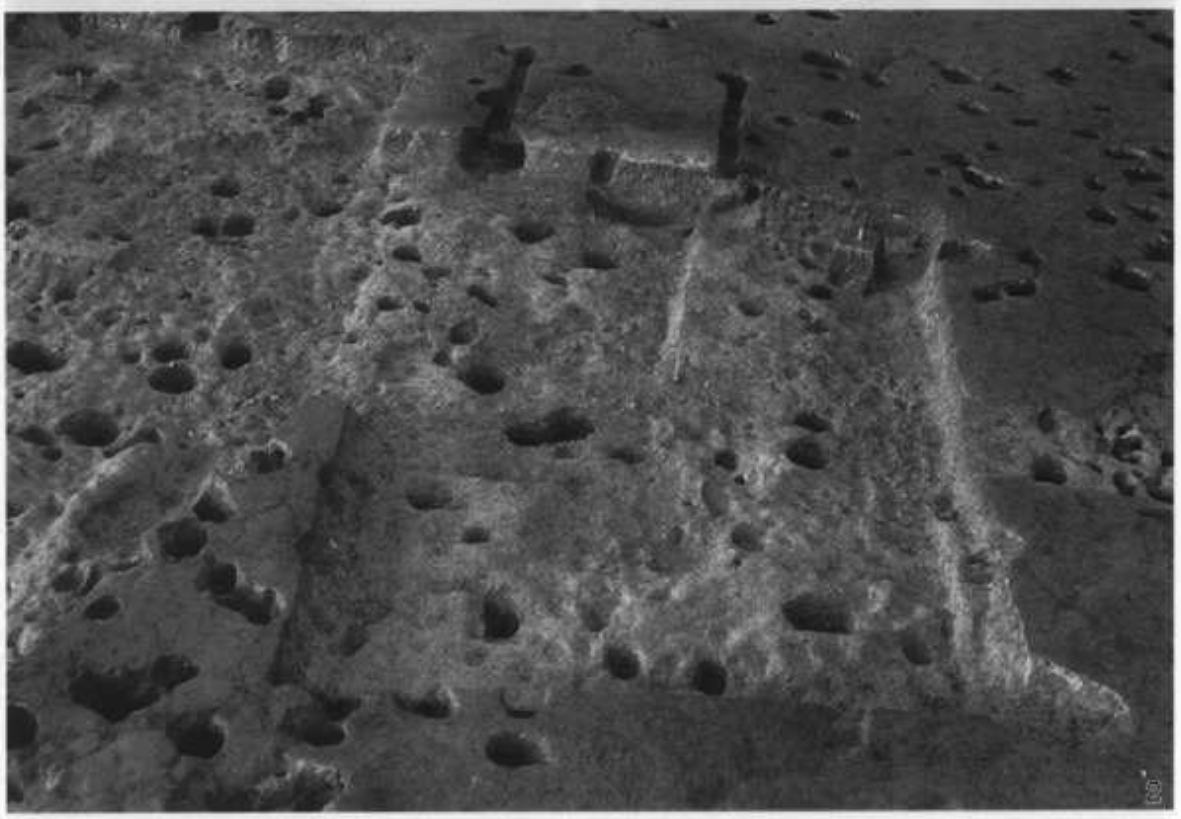
2　同上　下層（南から）

1　114号住居跡カマド
（東から）

2　115号住居跡
カマド
（南から）

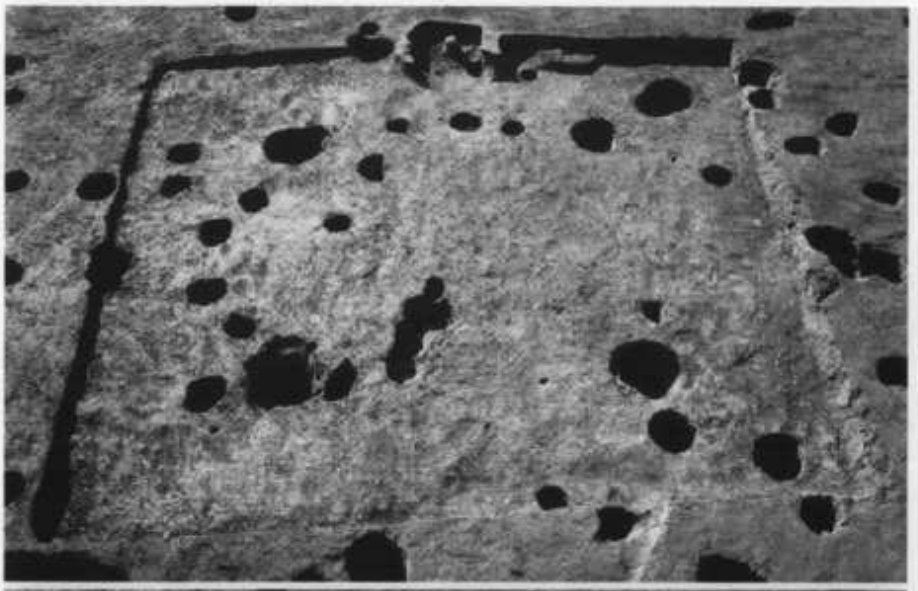


1　116～122号住居跡下層（南から）　2　117号住居跡カマド（南から）　3　118号住居跡カマド（南から）

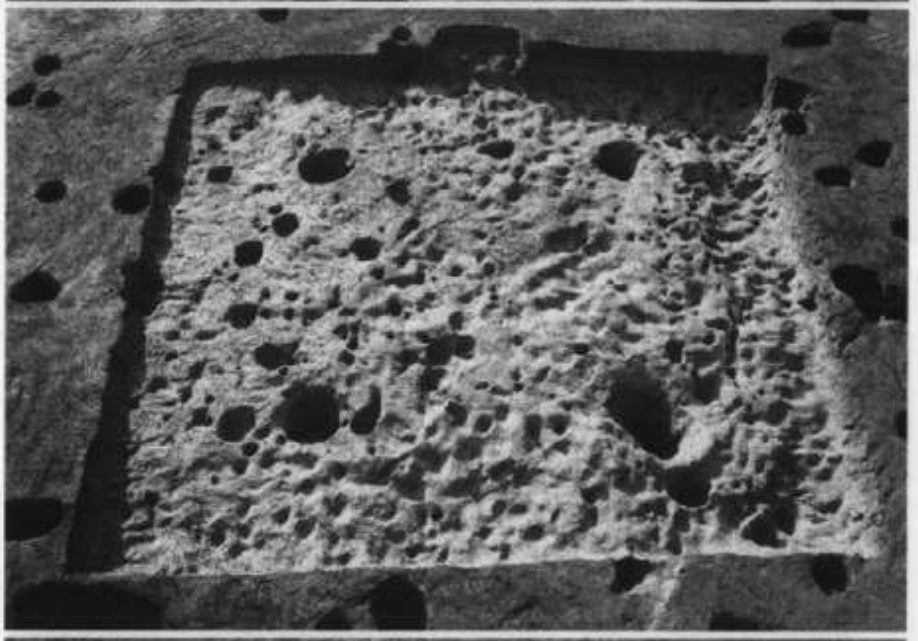


1　117・118・120号住居跡（南から）　　2　同上　下層（南から）

1　122号住居跡（南から）
2　120号住居跡カマド（南から）
3　122号住居跡カマド（南から）

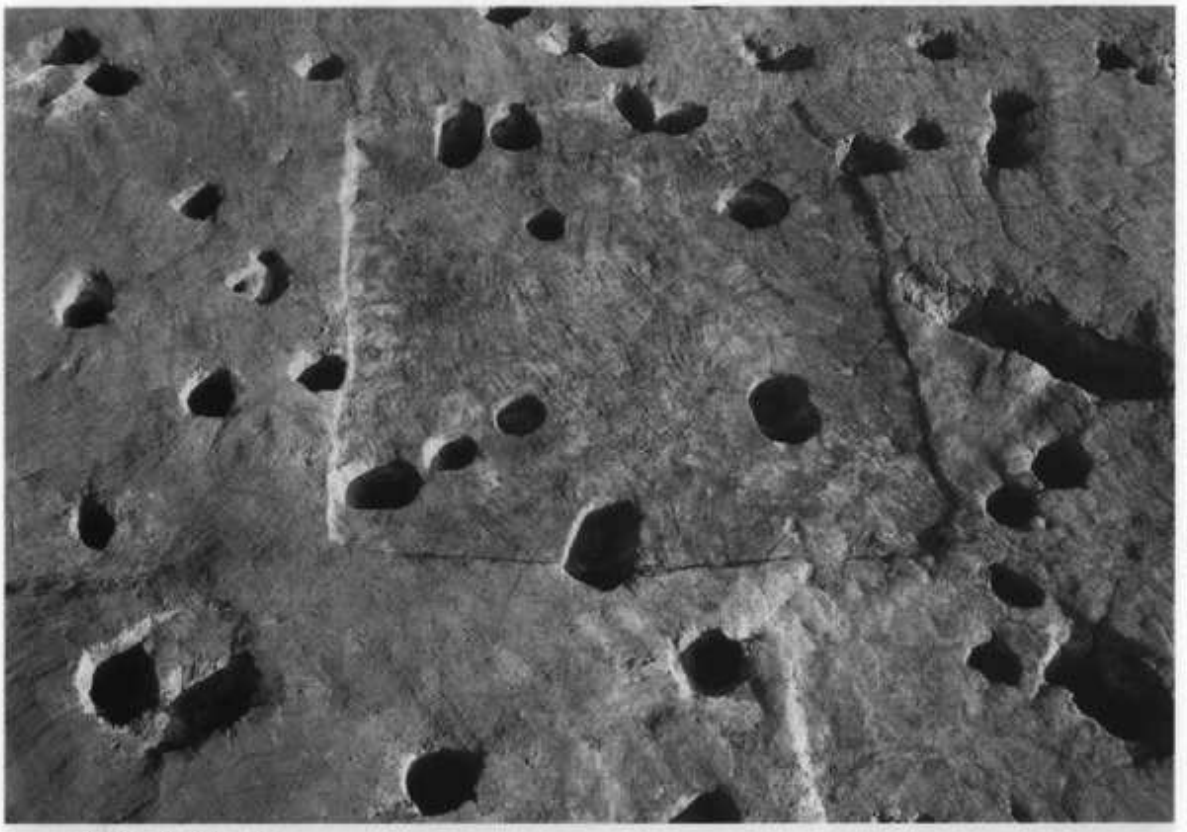


1　123号住居跡
（東から）

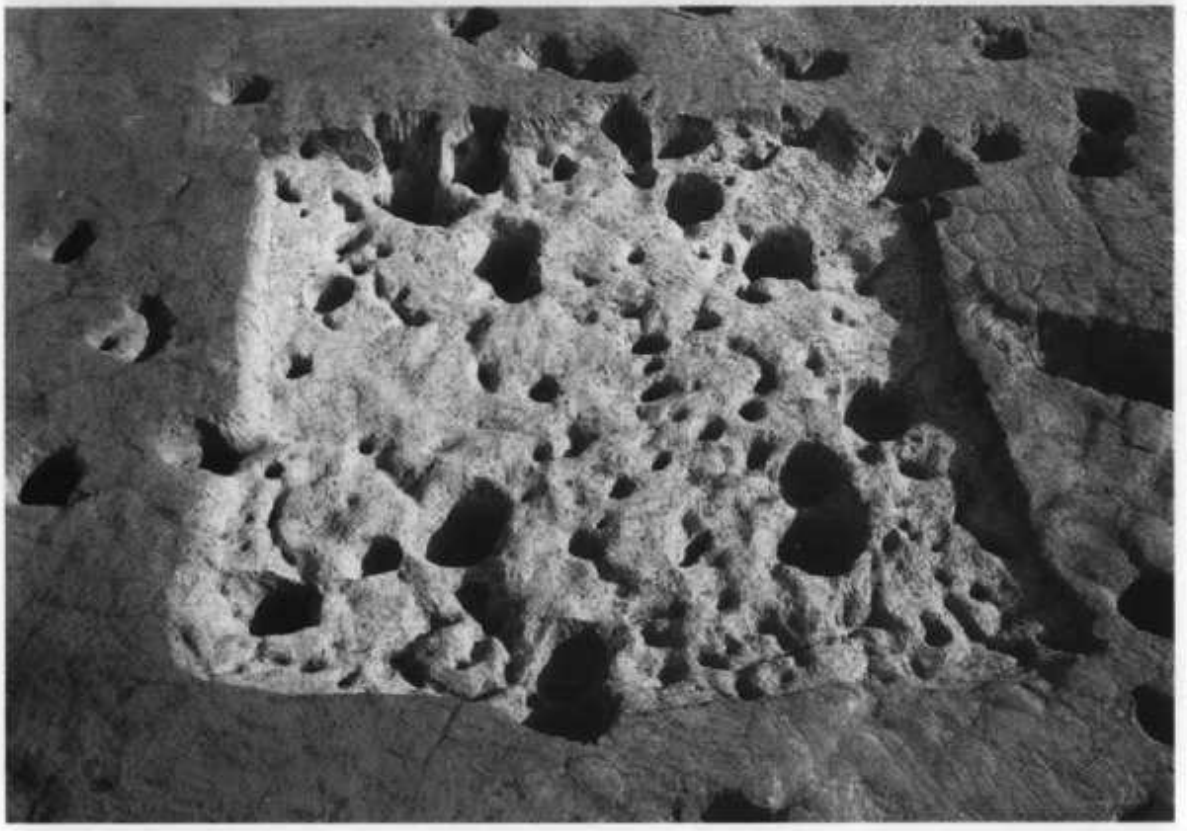


2　同上　下層
（東から）

3　同上　カマド
（東から）



1　124号住居跡（南から）



2　同上　下層（南から）

1　125～127号住居跡遠景　　2　125・126号住居跡（南から）

1　126号住居跡（南から）

2　127号住居跡（南から）

1　調査区東半遠景（西から）

2　128～134号住居跡遠景（北から）

1 128～132号住居跡
（南から）

2 128～130号住居跡
（南から）

3 131号住居跡カマド
（南から）

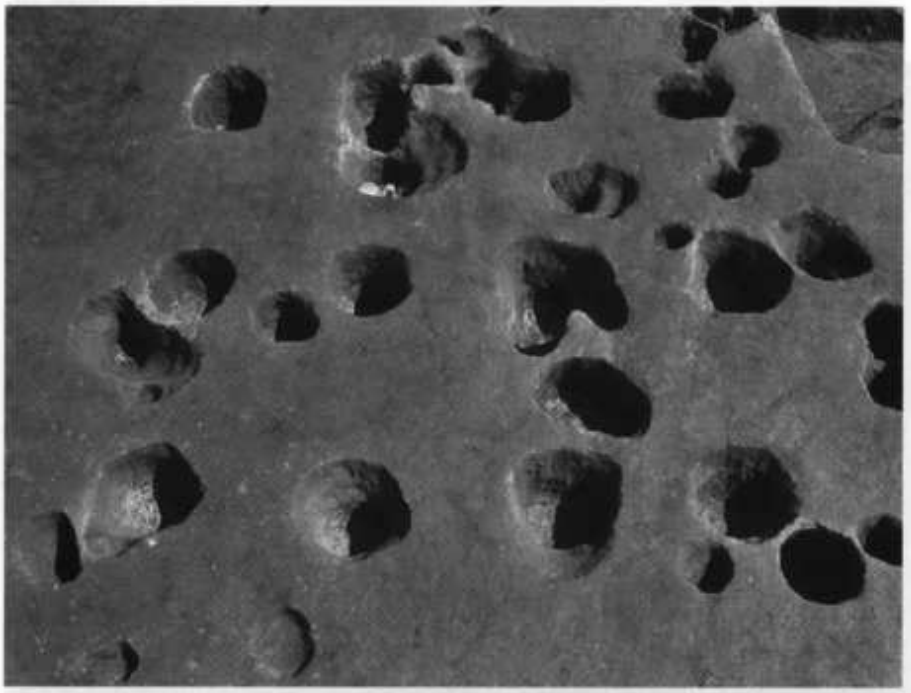
1　132号住居跡（南から）

2　同上カマド（南から）

3　同上カマド（南から）

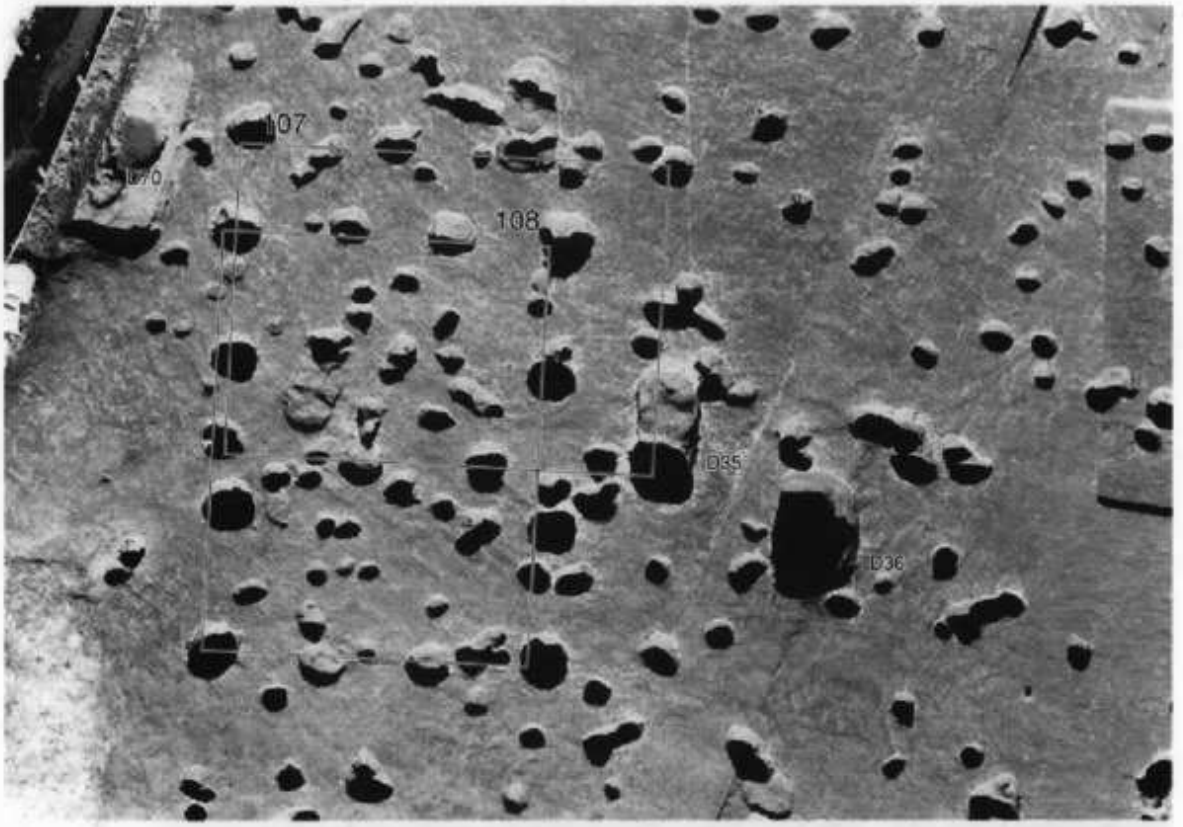
1　133.134号住居跡（南から）

2　134号住居跡カマド（南から）

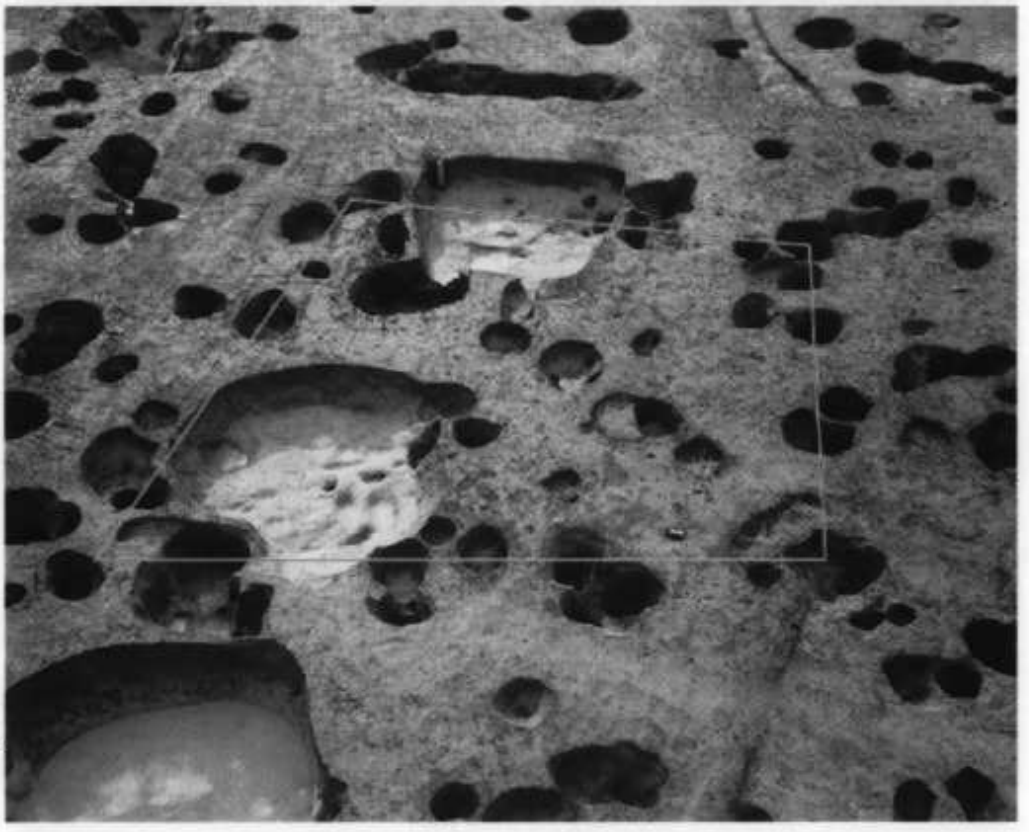


1　104号建物跡（北から）

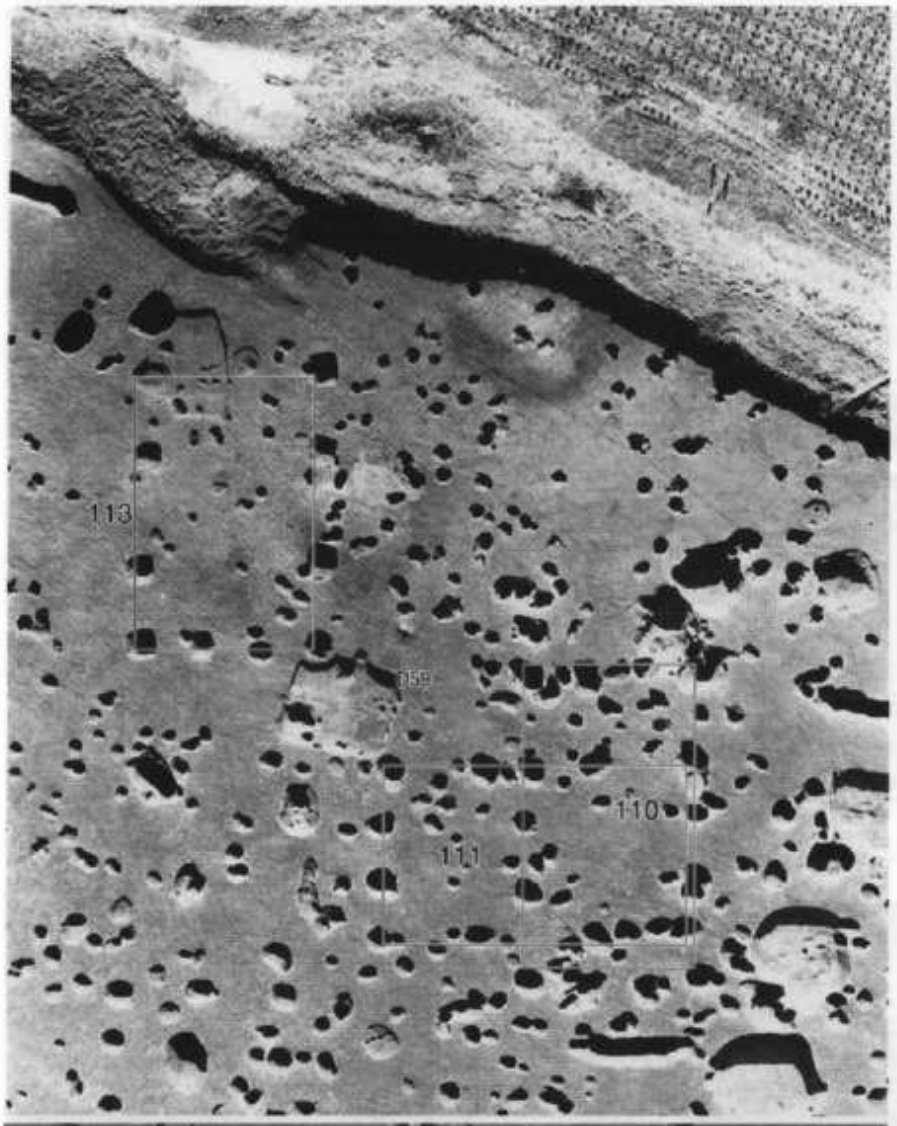
2　105号建物跡（北から）　3　106号建物跡（西から）



1　107・108号建物跡（気球写真）



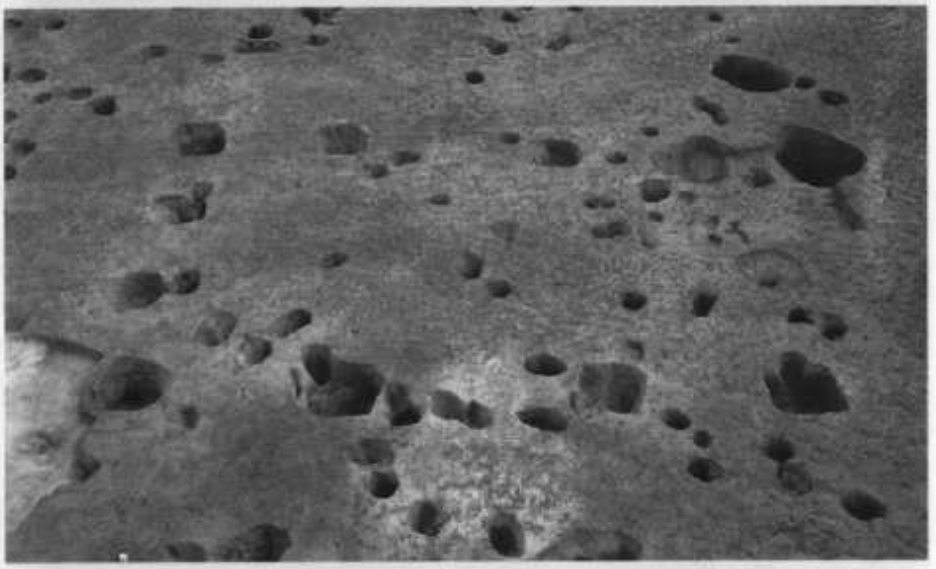
2　109号建物跡（北から）



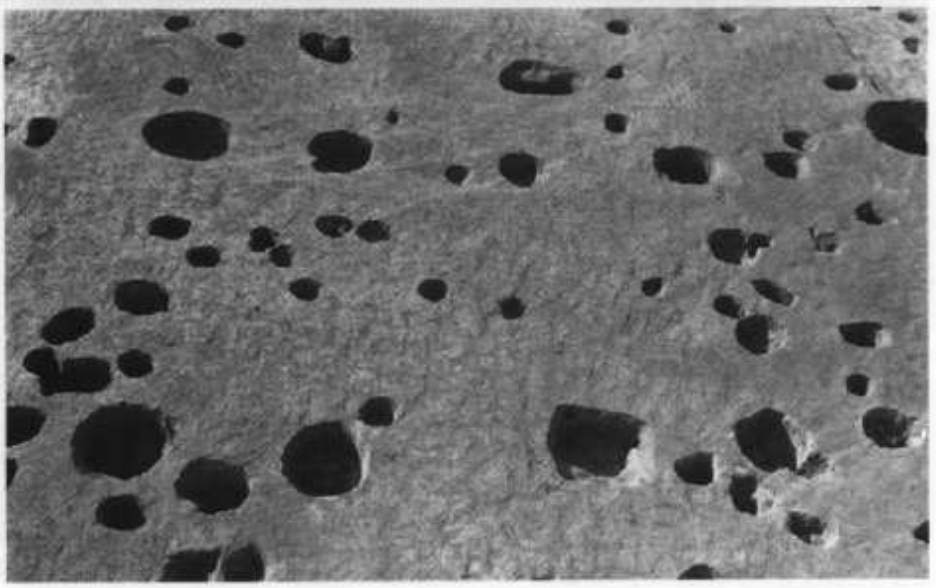
1　110～113号建物跡
（気球写真）

2　110・111号建物跡
（西から）

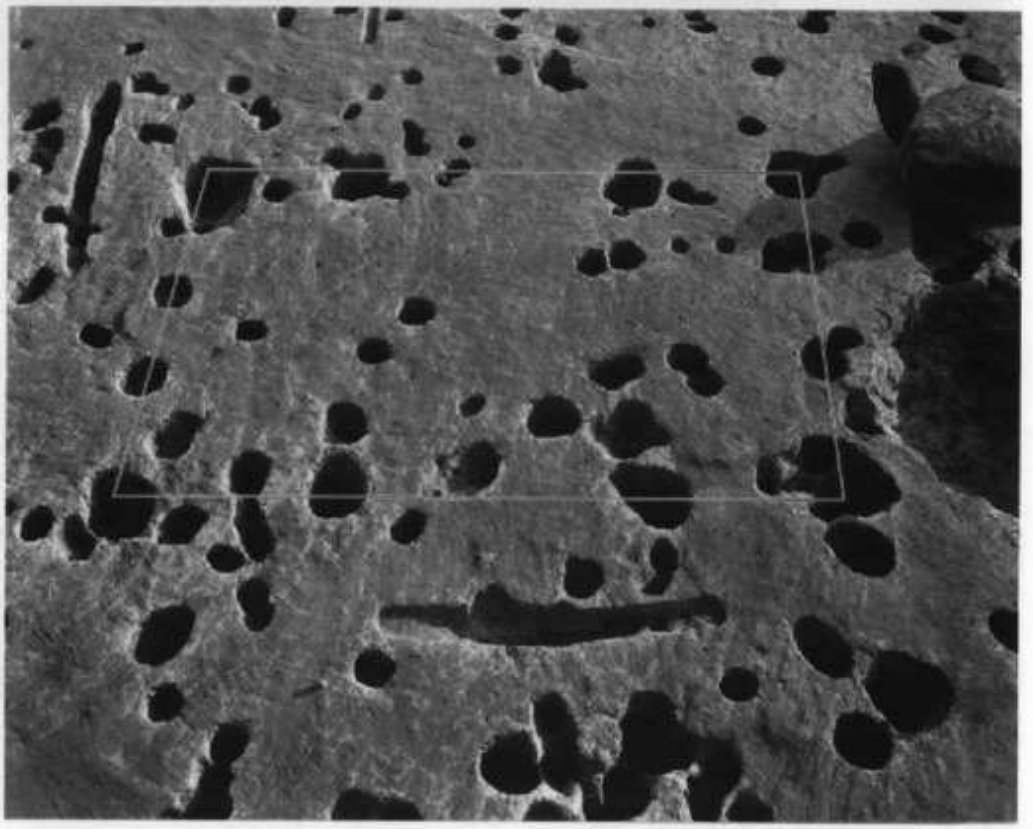
1　112号建物跡
（西から）



2　113号建物跡
（西から）

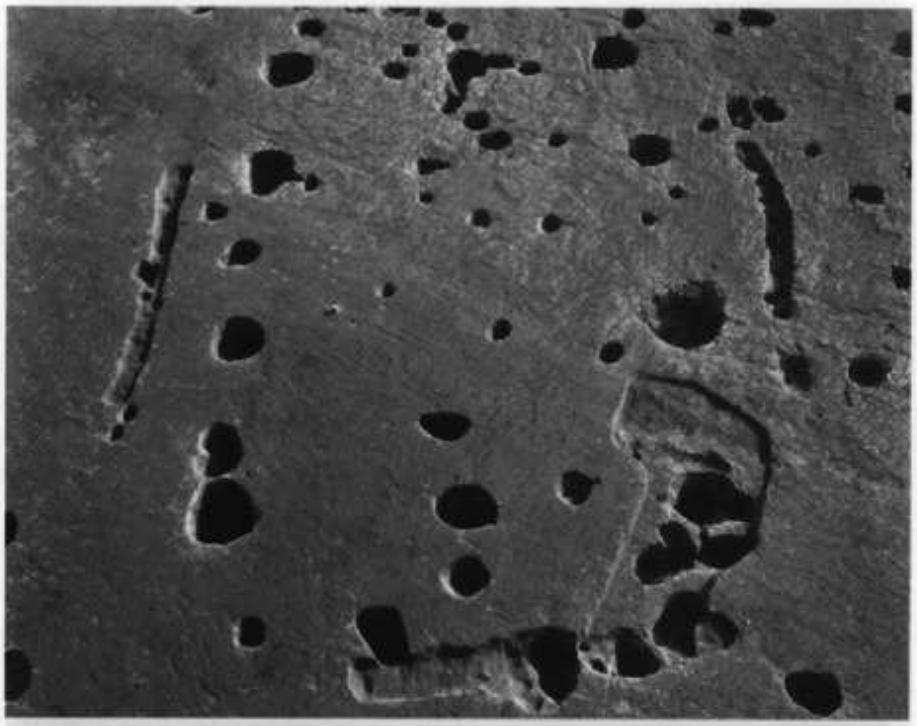


3　114号建物跡
（西から）

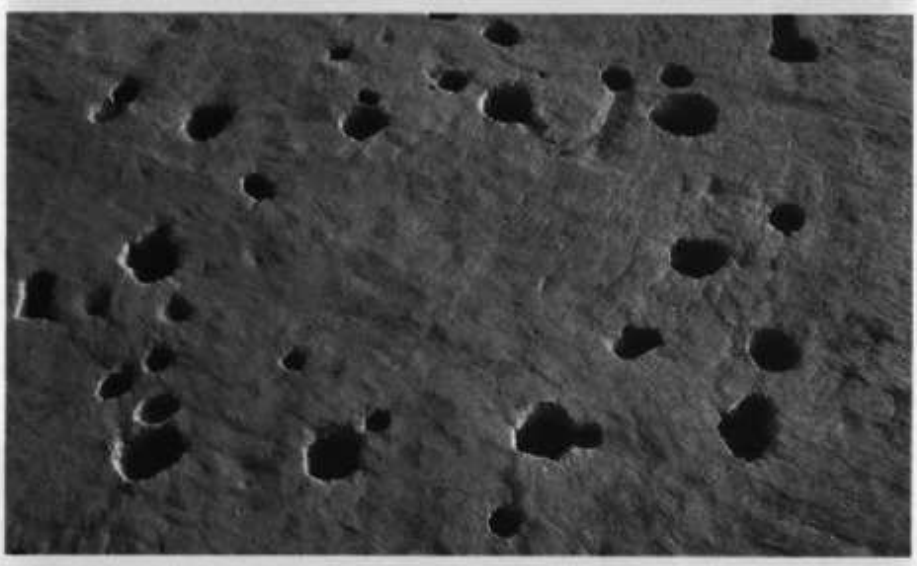


1　115・116号建物跡（東から）

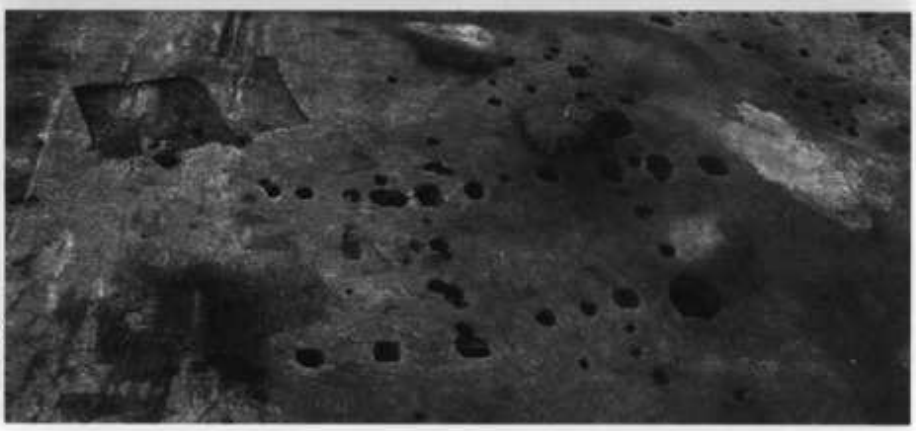
2　115号建物跡（北から）



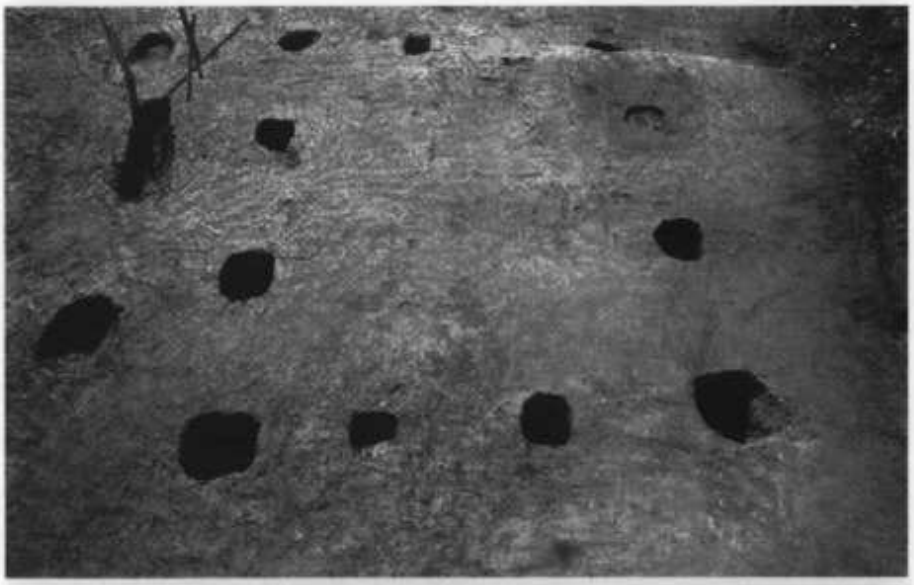
1　116号建物跡
（北から）



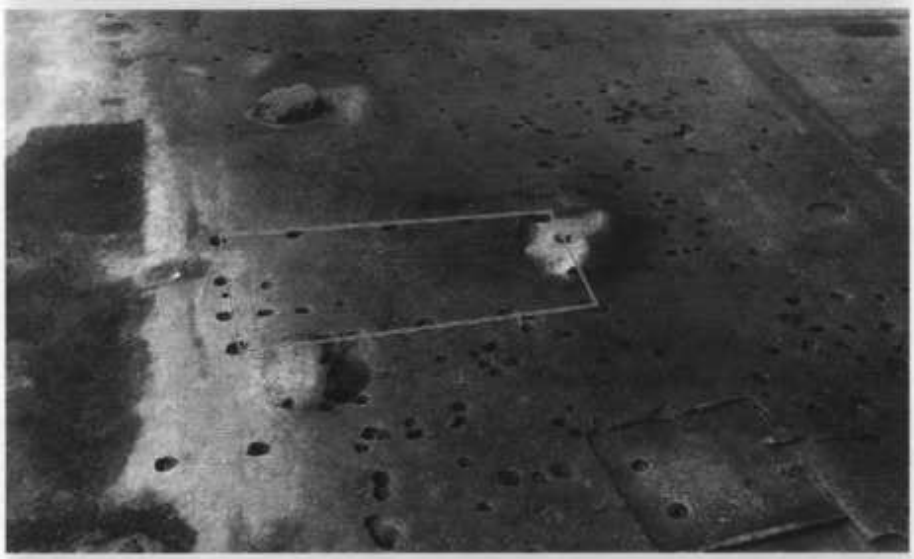
2　117号建物跡
（北から）



3　118・119号建物跡
（北から）

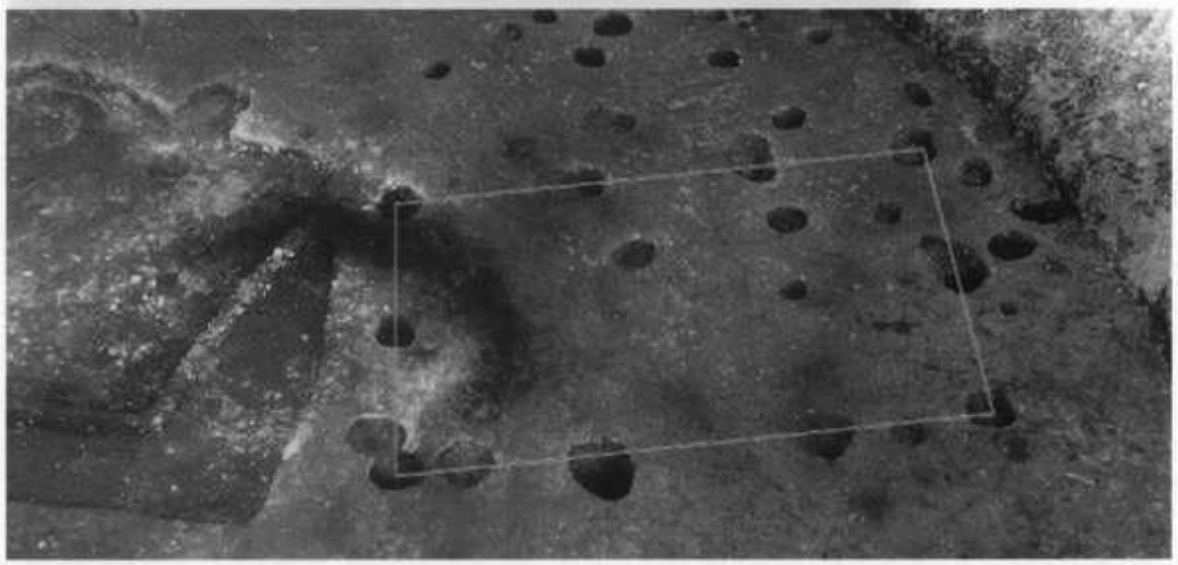


1　120号建物跡
（西から）



2　121号建物跡
（東から）

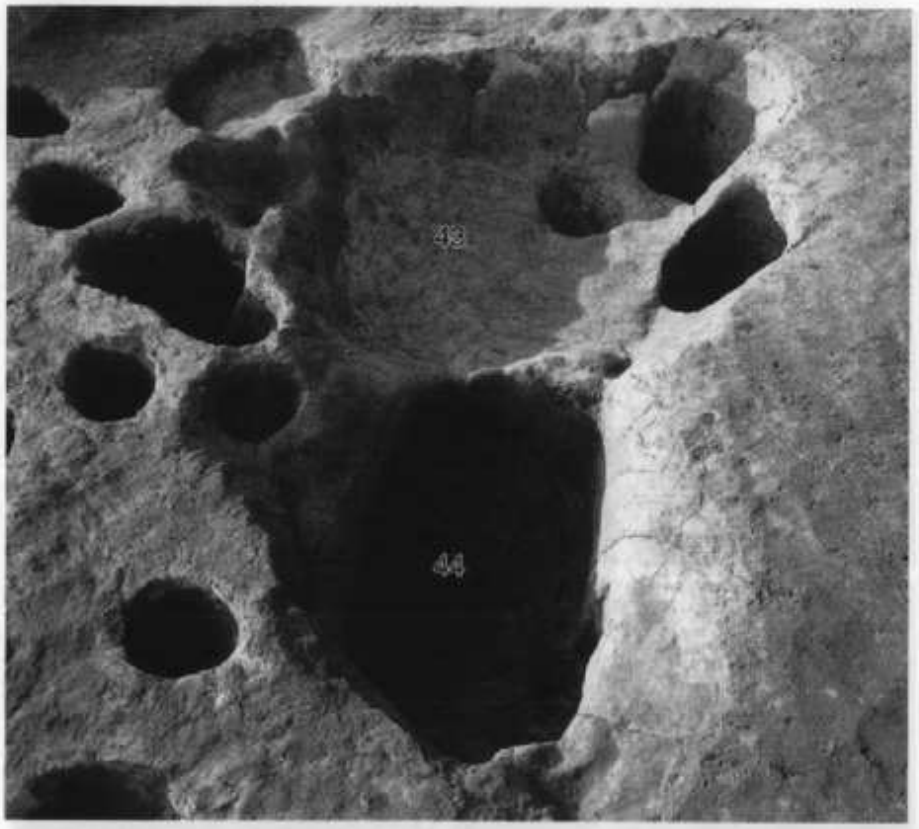
3　122号建物跡
（南から）



1　30号土坑（西から）

2　32号土坑（東から）

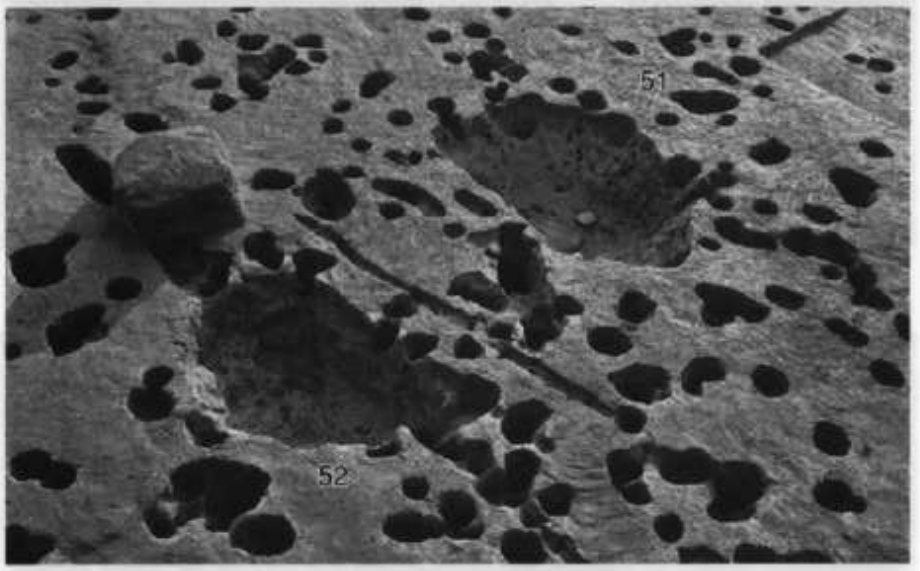
3　35号土坑（東から）



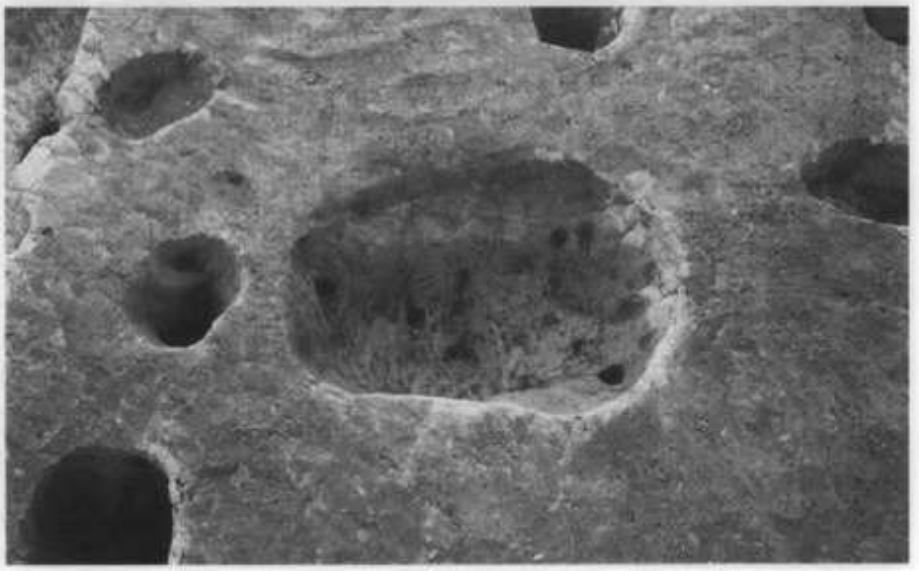
1　43・44号土坑
（東南から）

2　43・44号土坑土層（西南から）

1　49・50号土坑
（東から）



2　51・52号土坑
（北東から）



3　58号土坑
（東から）

1　71号土坑（北から）

2　75号土坑（南から）

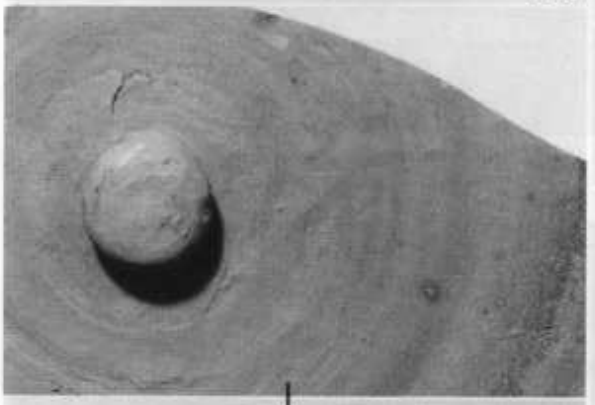
1　1号溝土層断面2

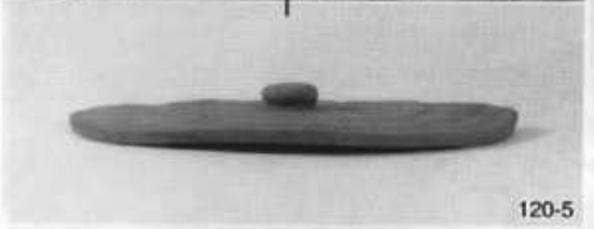
2　1号溝瓦器出土状態

110-1

112-2

114-4




120-5

121-12

112-4

112-5

115-6

123-1

123-2

123-3

123-8

123-9

127-13

129-2

D30-5

D30-8

D30-9

132-1

132-2

132-22

D30-10

D30-13

D30-16

D32-10

D32-5

D51-7

D51-3

D54-5

D51-8

D75-1

D75-7

D75-6

D75-8

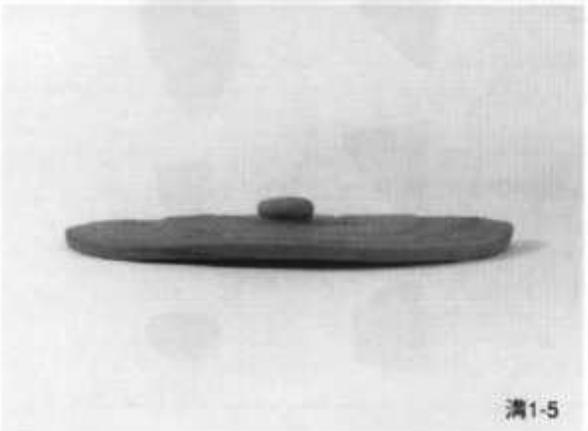
D75-10

D75-13

D75-19

溝1-1

溝1-3


溝1-5

D75-20

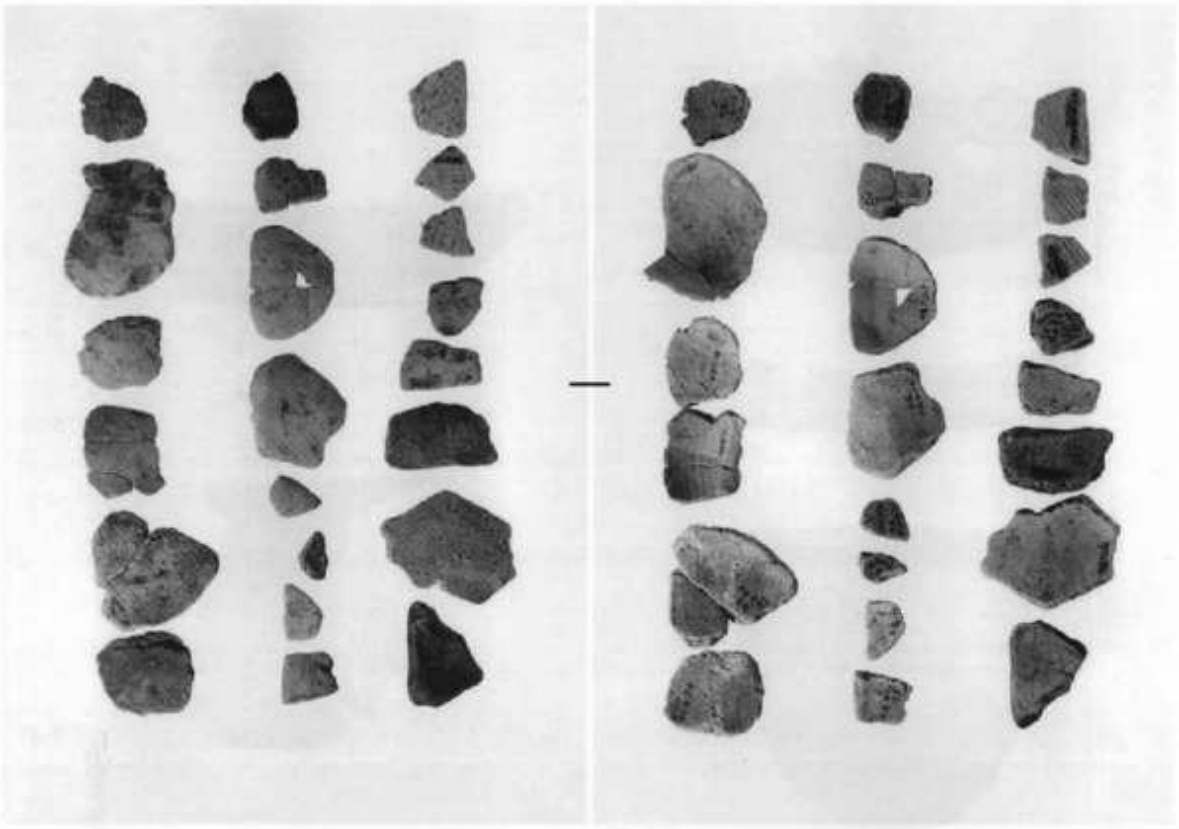
D75-21

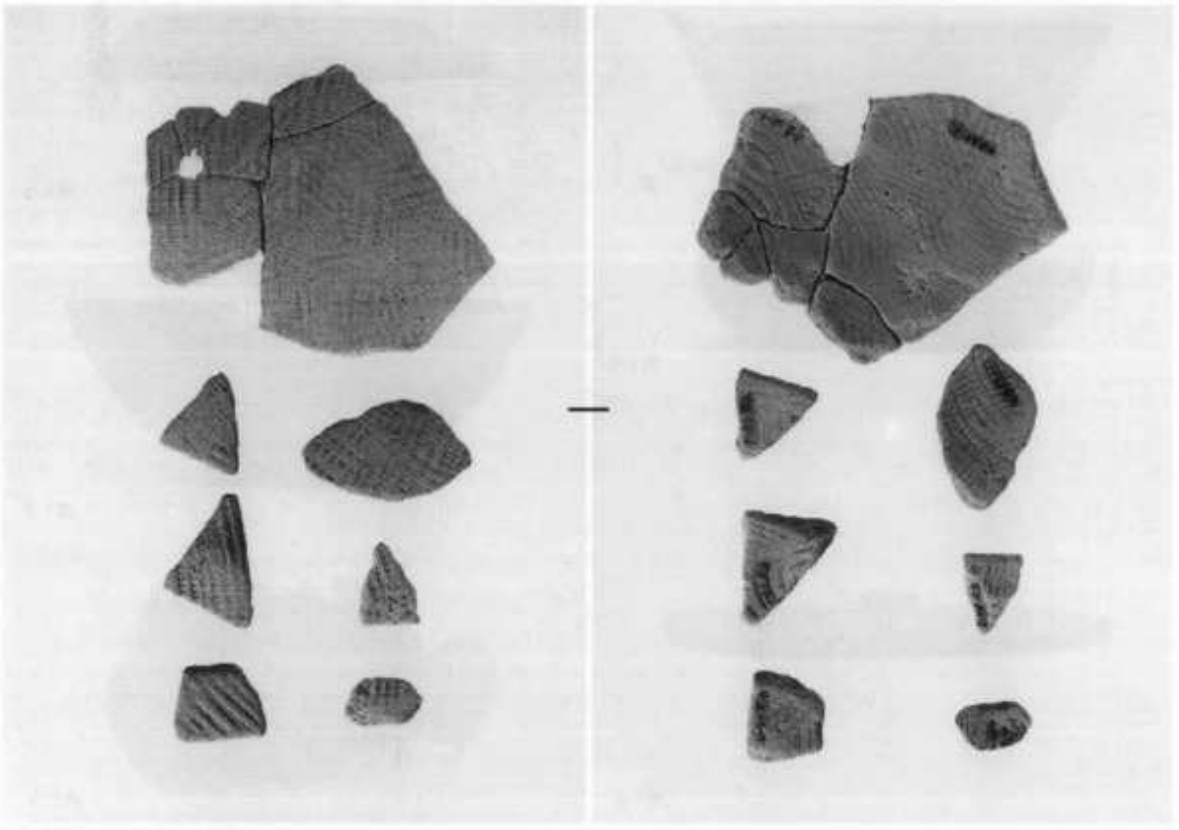
溝1-6

溝1-7

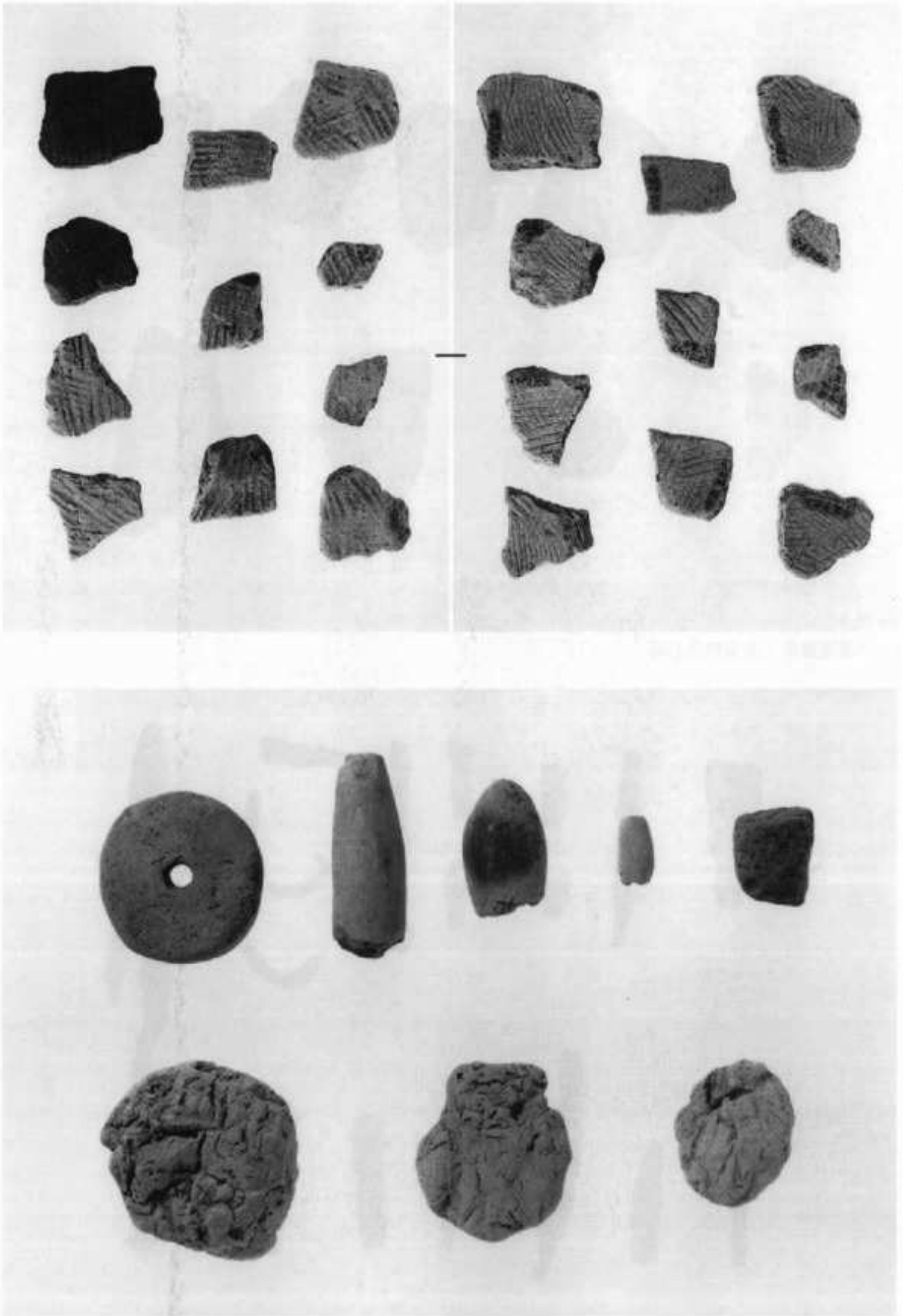
溝2-9

中道遺跡出土奈良時代・中世土器

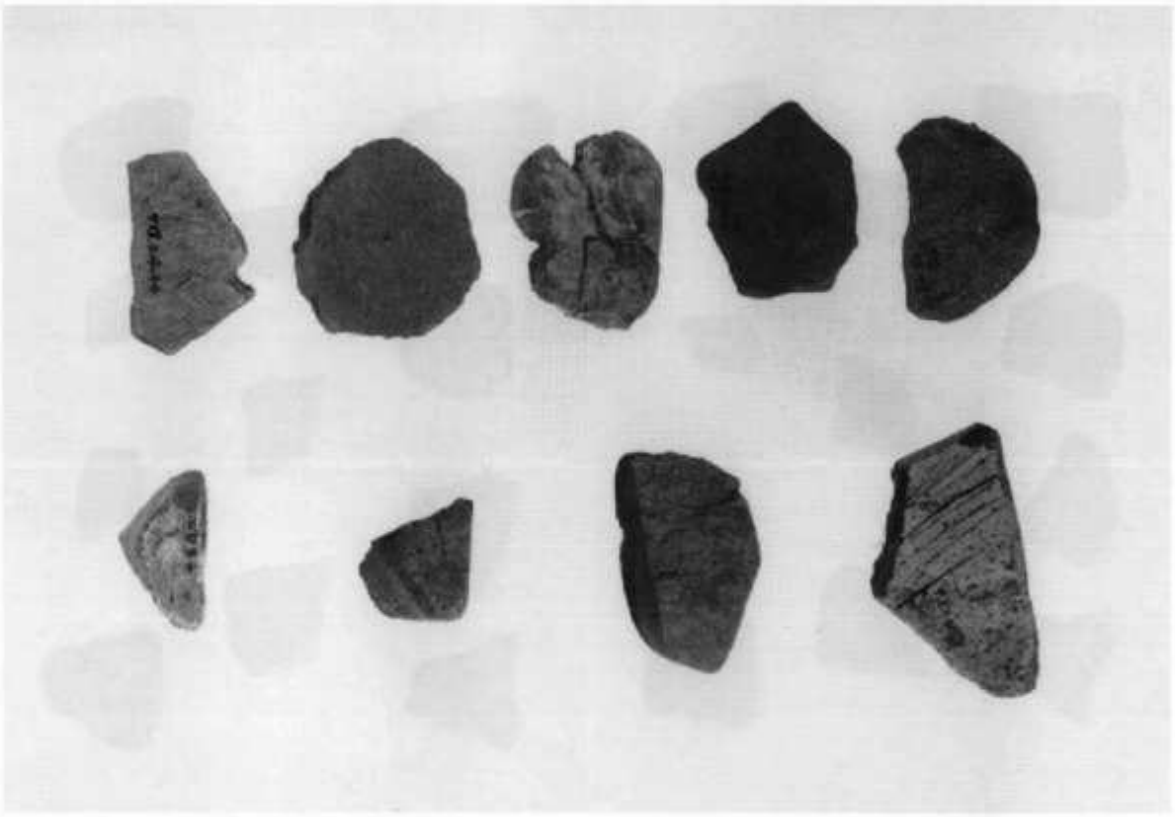




中道遺跡出土製塩土器



中道遺跡出土製塩土器・奈良時代土製品



1　中道遺跡出土奈良時代石器

2　中道遺跡出土奈良時代鉄器

1　石成久保遺跡Ⅰ区
全景（東から）

2　同上（東から）

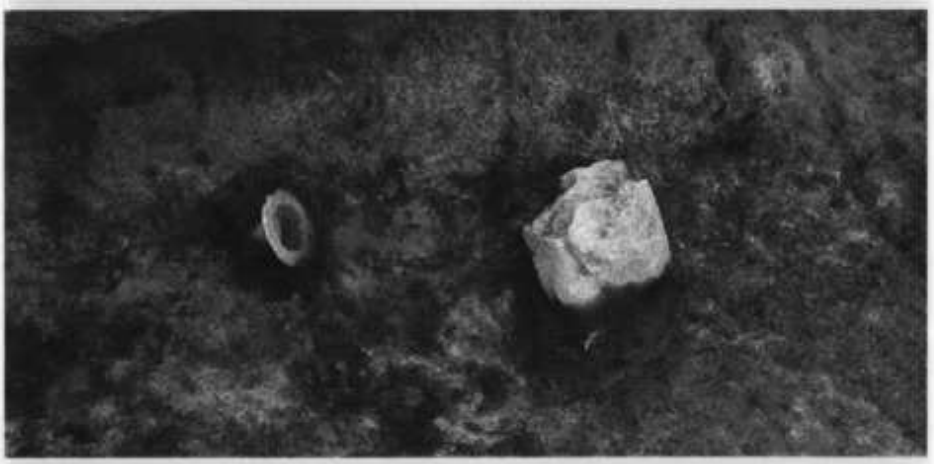
3　同Ⅱ区全景
（西から）

1　1号住居跡カマド
（南から）

2　同上

3　2号住居跡
（南から）

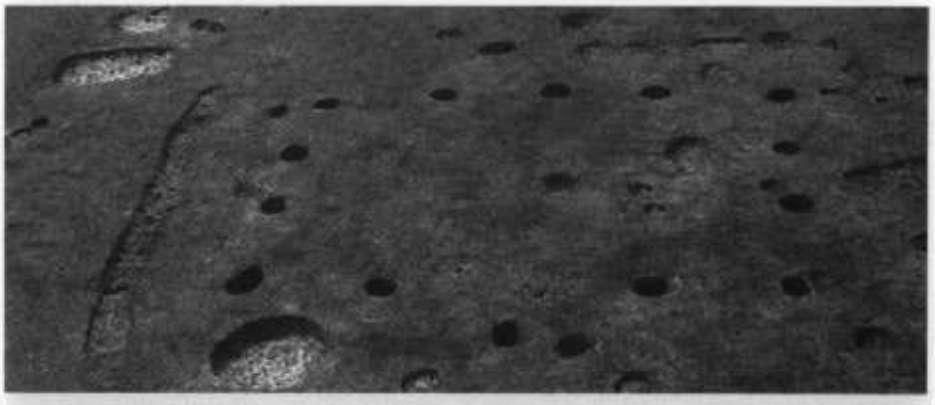
1 2号住居跡カマド
（南から）



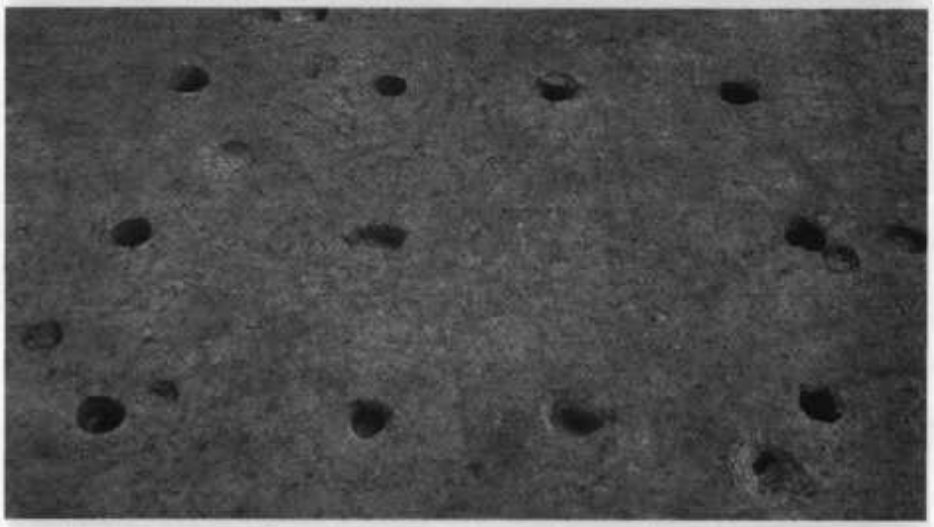
2 2号住居跡
遺物出土状態

3 同上

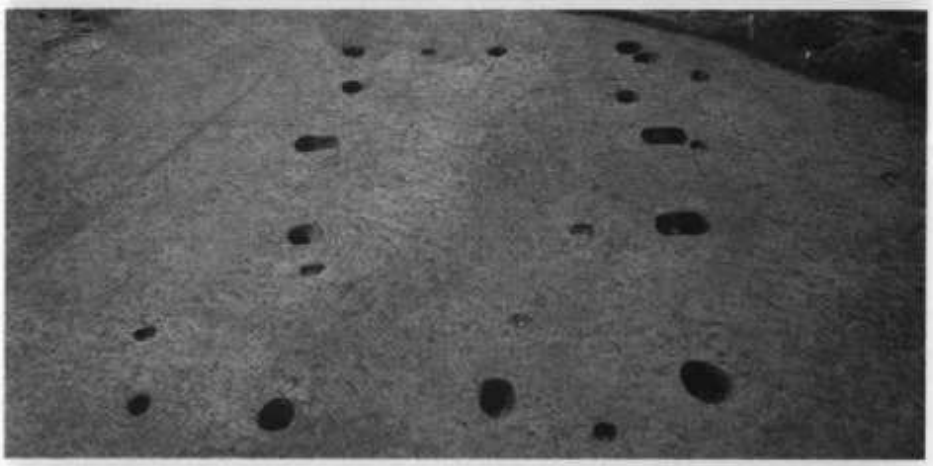
図版106



1　SB1（東から）



2　SB2（南から）



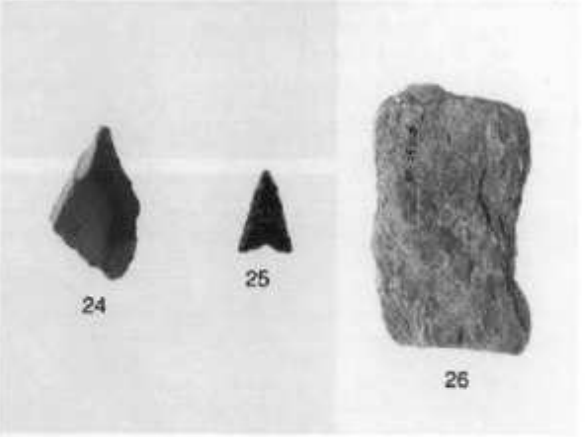
3　SB3（北から）

4　SB4（南から）

1　SX1（南から）

2　SX2（北から）

3　SX3（東南から）



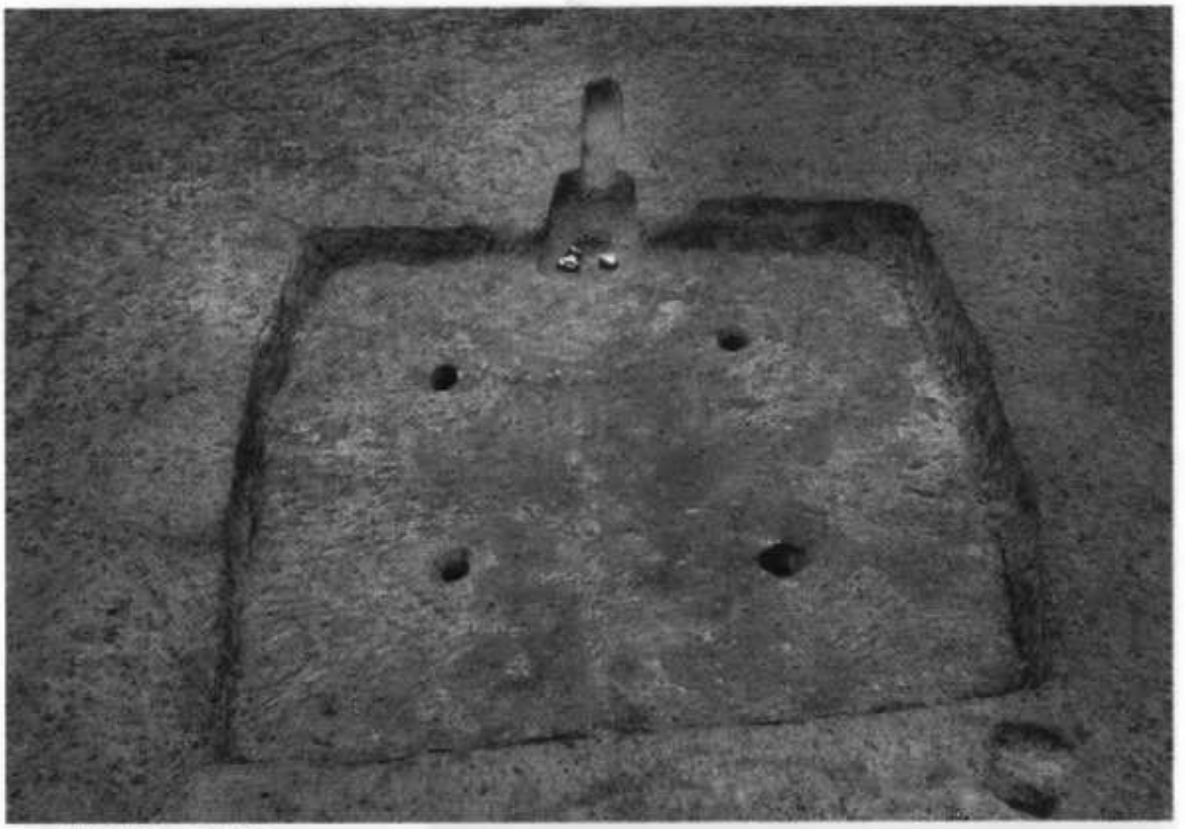
SK6（南から）・ SK1（西から）と石成久保遺跡出土遺物

1　大環端遺跡西半部全景（北西から）

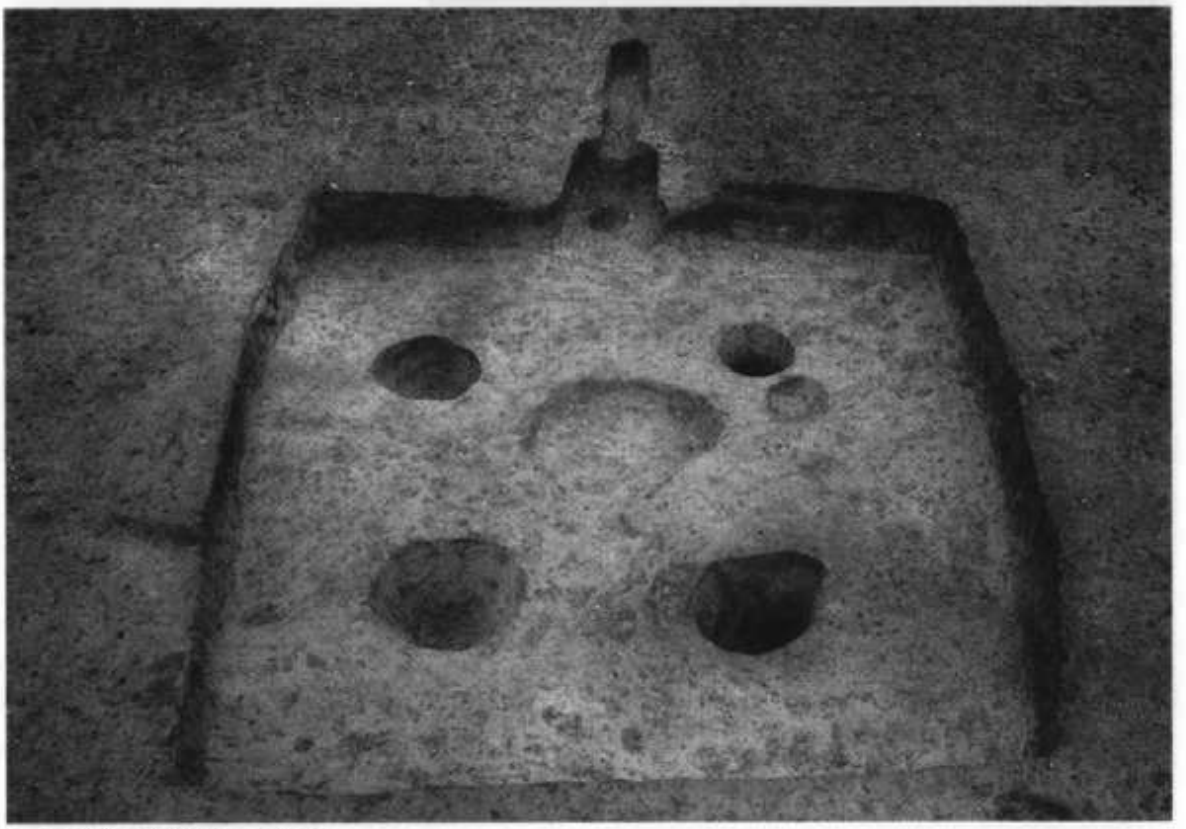
2　大環端遺跡東半部全景（南東から）

1　1号住居跡（東から）

2　同貼床掘下げ後（東から）

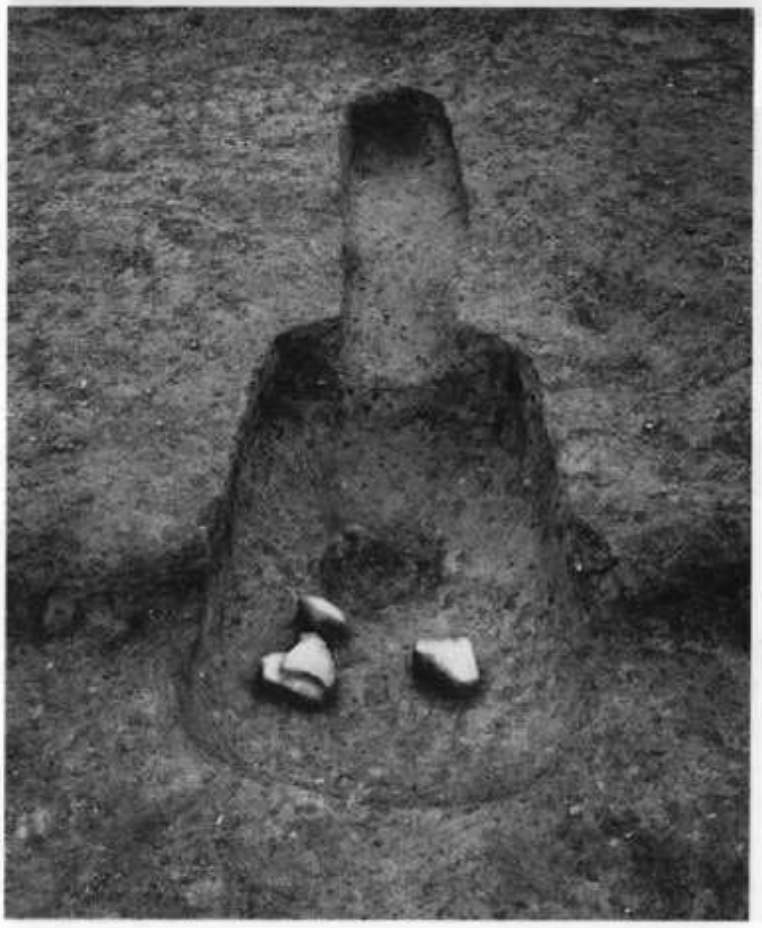


1　2号住居跡（東から）

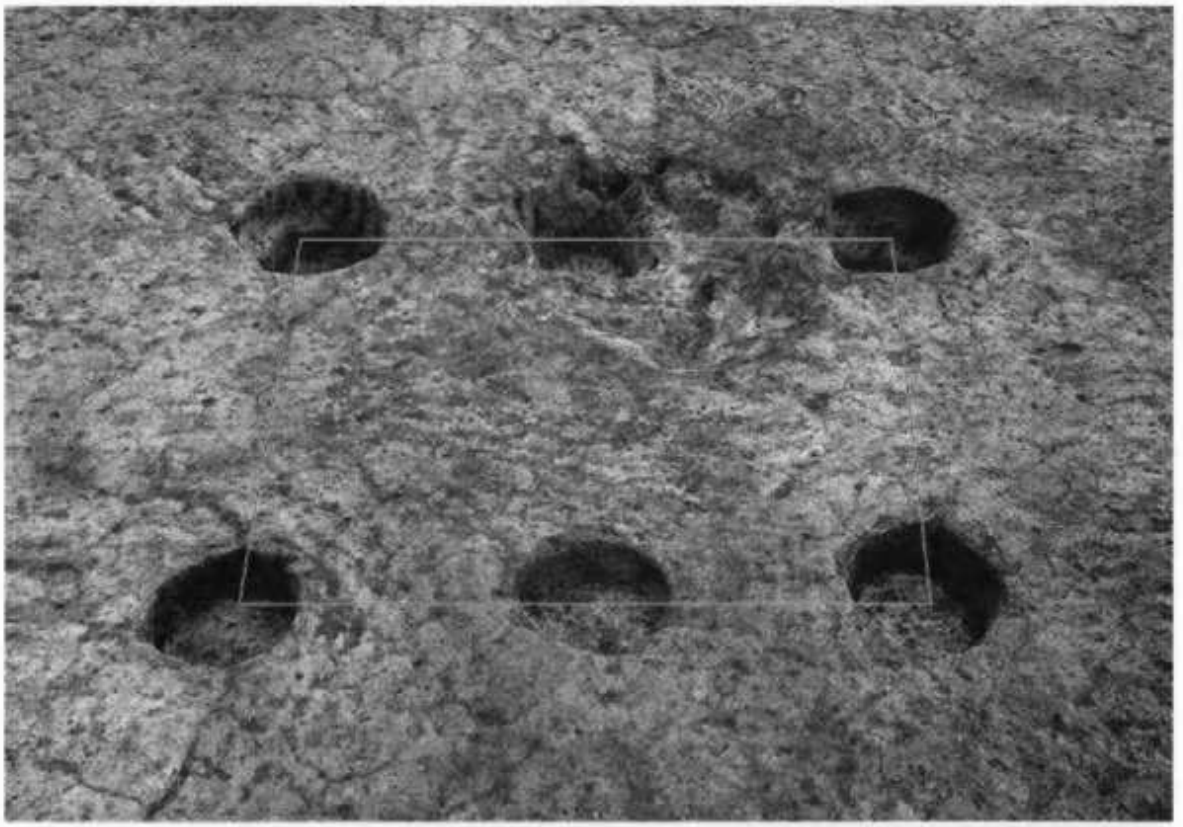


2　同貼床掘下げ後（東から）

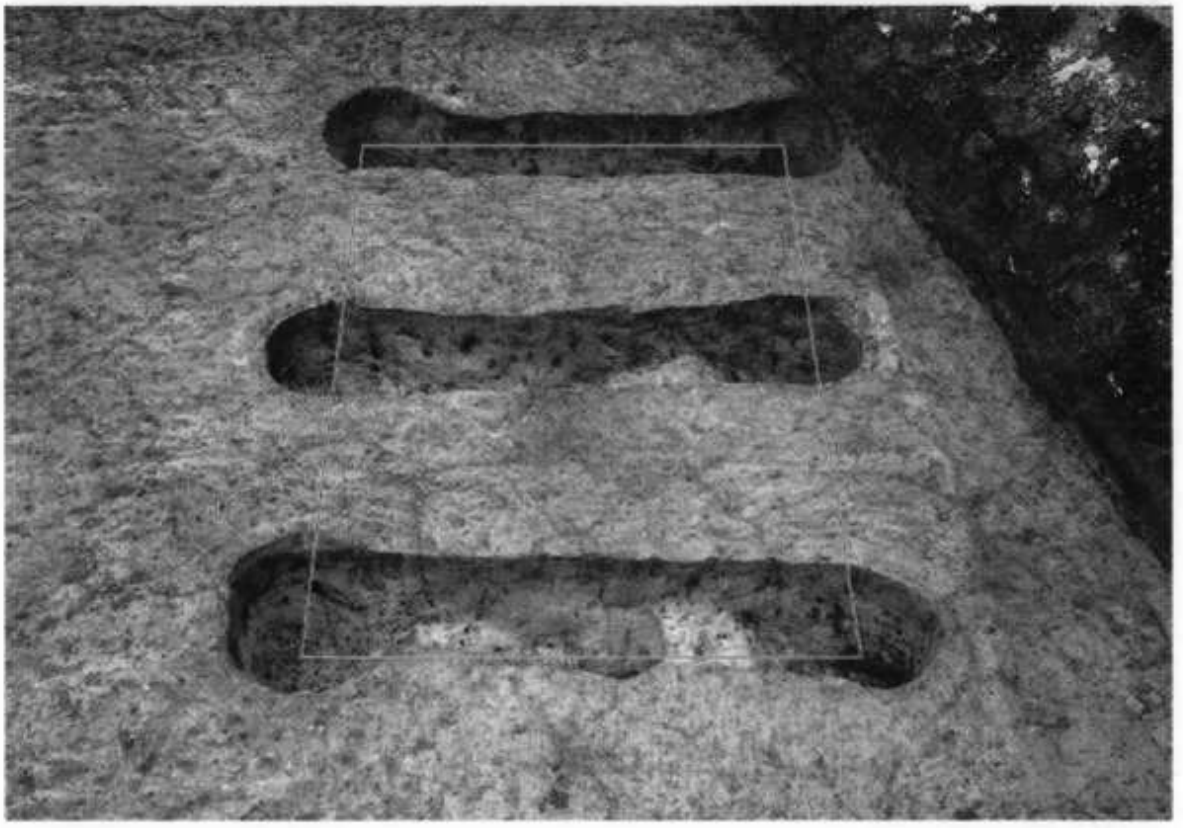
1　1号住居跡
カマド
（南東から）



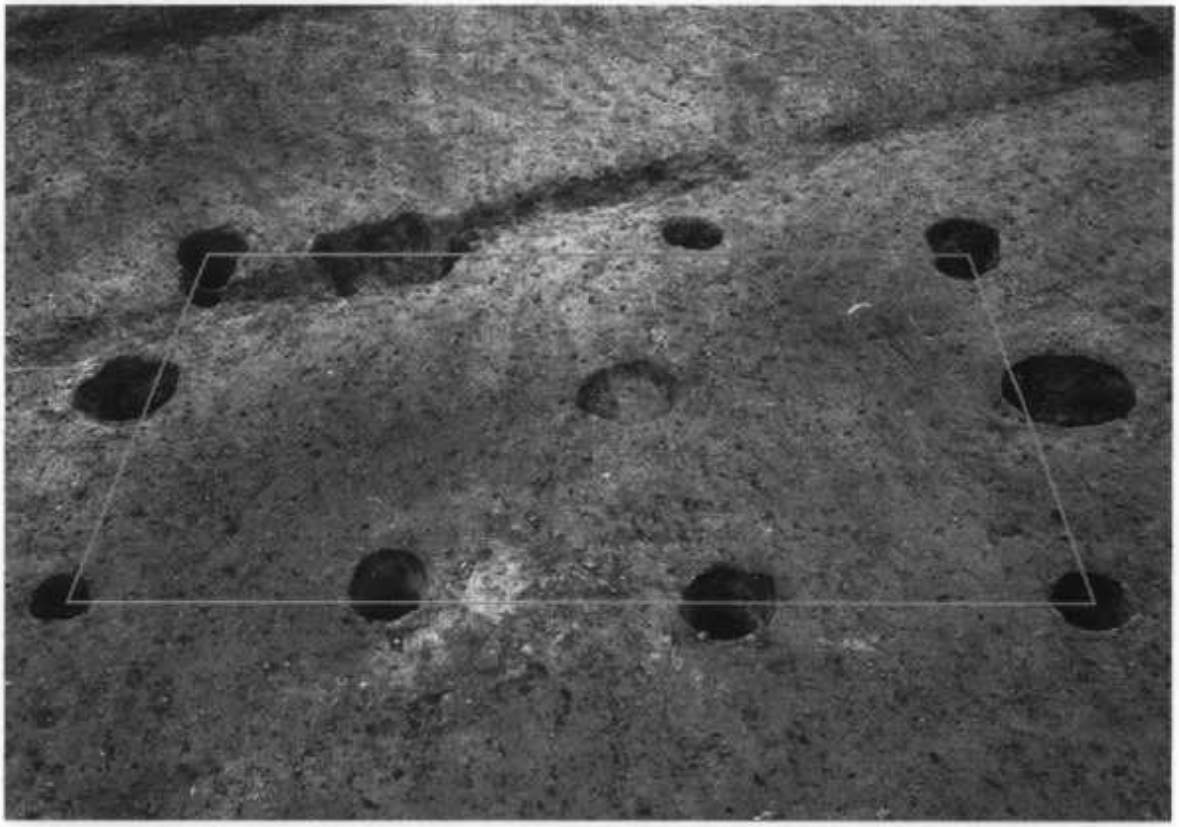
2　2号住居跡カマド（東から）



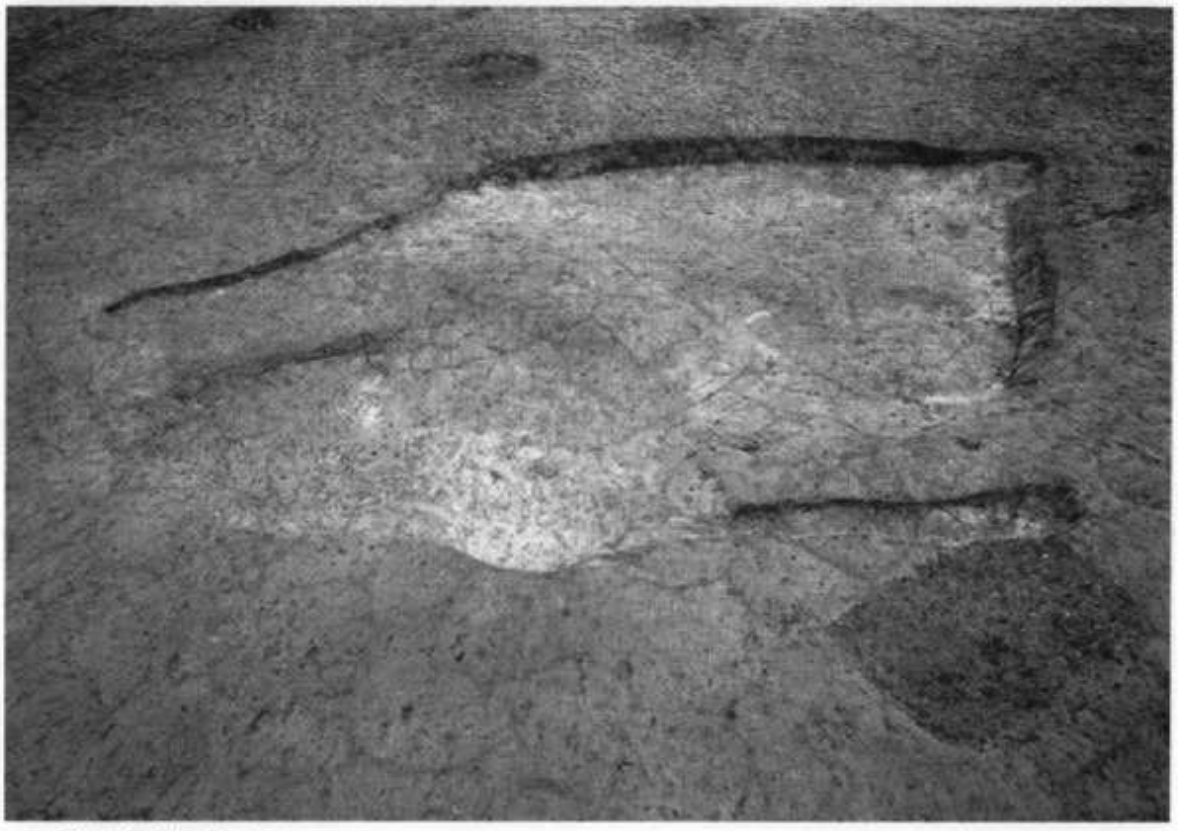
1　1号建物跡（北東から）



2　2号建物跡（南東から）



1　3号建物跡（南西から）



2　1号竪穴遺構（北から）

1　南西端土壙墓群全景（東から）

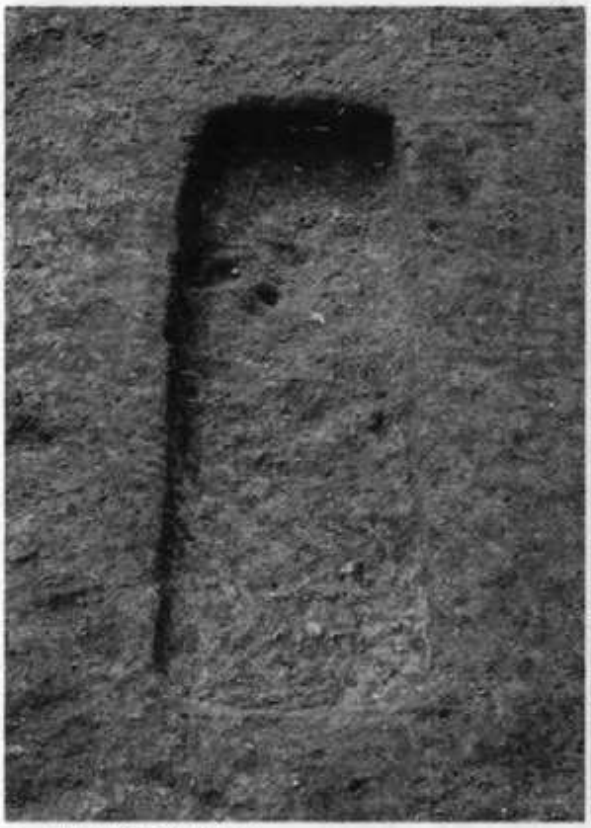
1　14・15・18～24・27号土壙墓（東から）

1　1号土壙墓（東から）

2　2号土壙墓（東から）

3　3号土壙墓（北から）

4　4号土壙墓（北東から）



1　5号土壙墓（東から）

2　6号土壙墓（西から）

3　7号土壙墓（西から）

4　8号土壙墓（北東から）

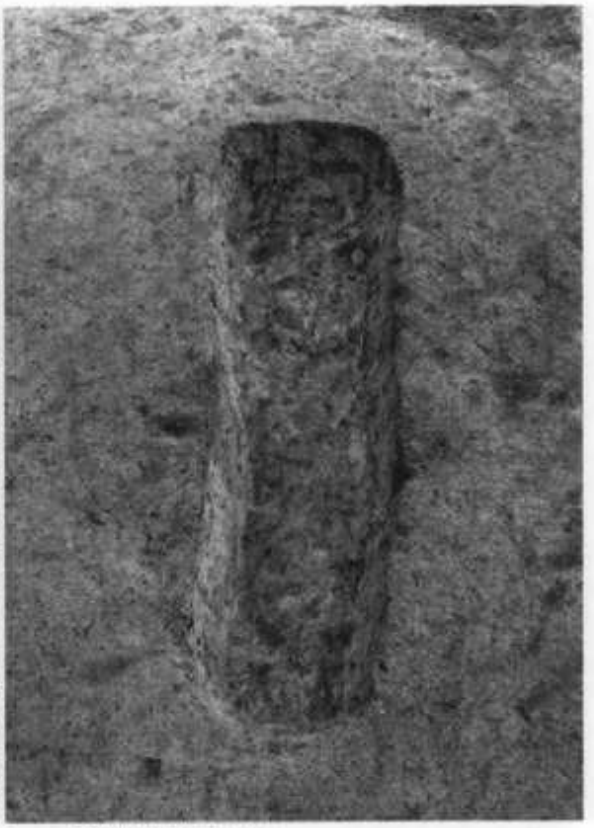
1　9号土壙墓（西から）

2　10号土壙墓（西から）

3　11号土壙墓（北から）

4　12・13号土壙墓（西から）

1　14号土壙墓（北東から）



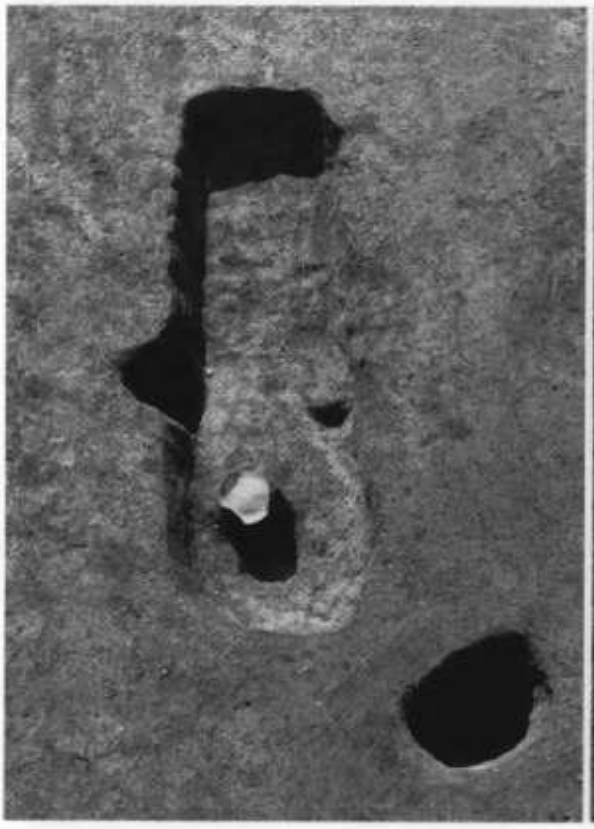
2　15号土壙墓（西から）

3　16号土壙墓（西から）

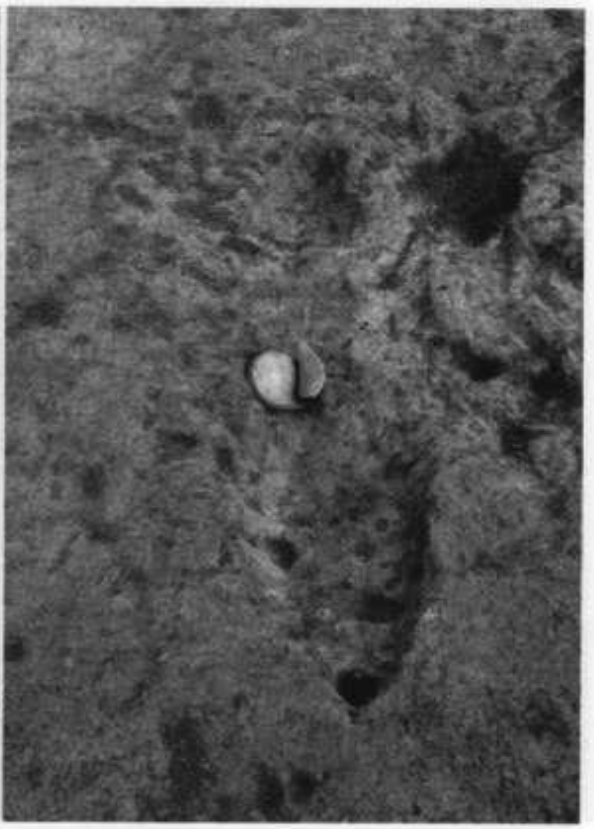
4　17号土壙墓（北から）

1　18号土壙墓（西から）

2　19号土壙墓（北東から）



3　20号土壙墓（北東から）



4　21号土壙墓（南から）

1　22号土壙墓（南西から）

2　23号土壙墓（南西から）

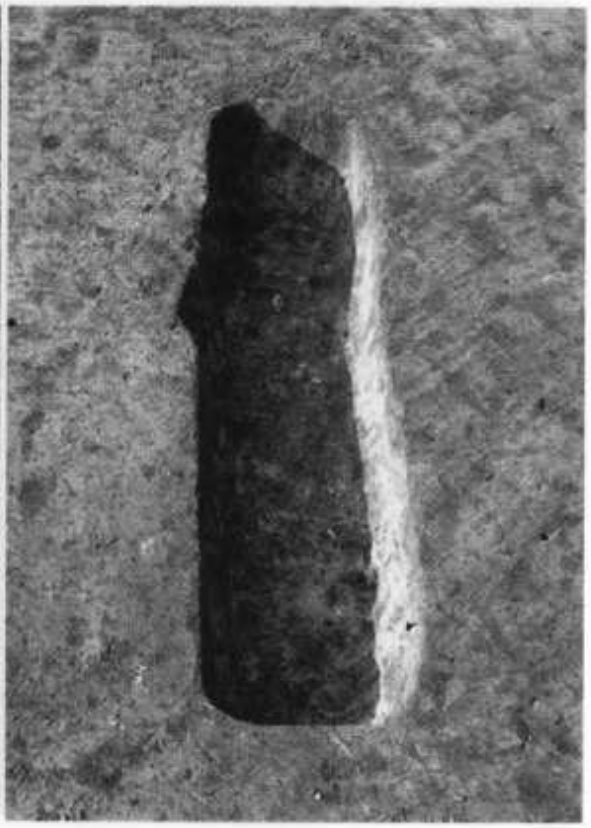
3　24号土壙墓（北東から）

4　25号土壙墓（北から）

1　26号土壙墓（西から）

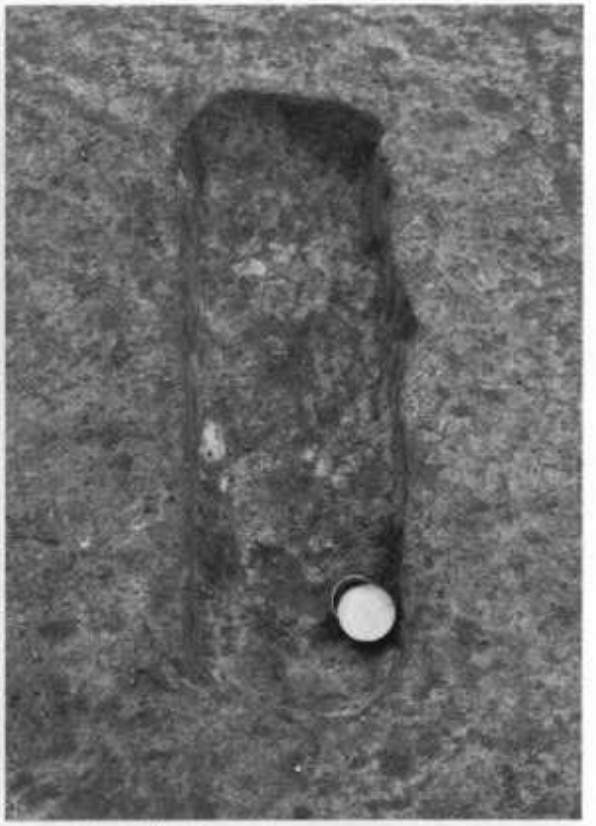
2　27号土壙墓（西から）

3　28・29号土壙墓（南東から）

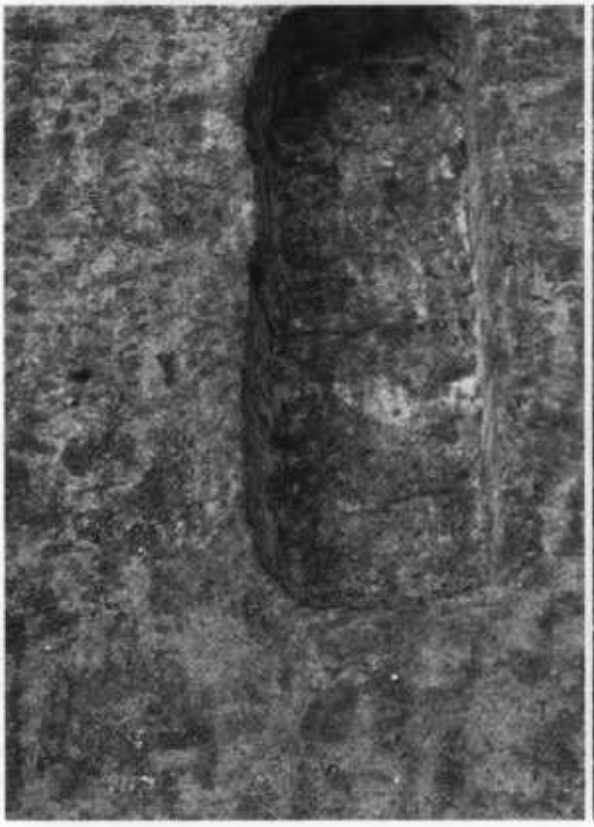


4　30号土壙墓（南東から）

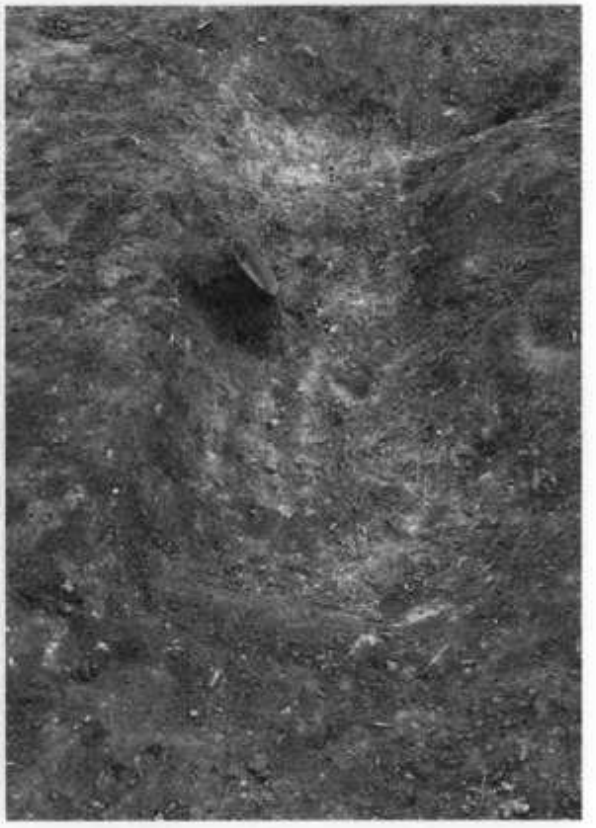
1　31号土壙墓（北から）



2　32号土壙墓（東から）



3　33号土壙墓（北から）



4　34号土壙墓（北から）

住1-1

竪1-1

D4-1

D7-1

D7-2

D7-3

D7-4

D20-1

D21-1

D23-1

D33-1

D33-2

D34-1

大還端遺跡出土土器

報告書抄録

ふりがな	なかみちいせき　いしなりくぼいせき　だいかんばいせき
書名	中道遺跡・石成久保遺跡・大遷端遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	39
編著者名	高橋章・伊崎俊秋・小田和利
編集機関	福岡県教育委員会
所在地	〒812　福岡県福岡市博多区東公園7-7
発行年月日	西暦1996年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
なかみち 中道	ふくおかけんあさくらぐんあさくらまち 福岡県朝倉郡朝倉町 おおあざおおばあざなかみち 大字大庭字中道	404420	570374	33° 23′ 34″	130° 42′ 6″	19850722 ～ 19851127	13,900	道路 (九州横断 自動車道) 建設
いしなりくぼ 石成久保	あさくらまちおおあざいしなり 朝倉町大字石成 あざくぼ 字久保	404420	570373	33° 23′ 36″	130° 41′ 56″	19850617 ～ 19850723	5,520	同　上
だいかんばた 大遷端	あさくらまちおおあざいしなり 朝倉町大字石成 あざだいかんばた 字大遷端	404420	570372	33° 23′ 40″	130° 41′ 46″	19860107 ～ 19860131	9,300	同　上

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中道		旧石器 縄文	落し穴　21基	細石刃・スクレイパー 押型文土器・晩期土器 打製石鏃・異形石器 石斧・叩石	
	集落	弥生	竪穴住居　25軒 掘立柱建物　3棟 土坑　39基 周溝遺構　1基 甕棺墓　3基	弥生土器 石包丁・片刃石斧 紡錘車・砥石・台石 投弾・鉄斧	焼失住居が多い 丹塗土器が多い 台石が多い
	集落	古墳	竪穴住居　6軒 掘立柱建物　3棟	須恵器・土師器	
	集落	奈良	竪穴住居　28軒 掘立柱建物　21棟 土坑　16基	須恵器・土師器 墨書土器・製塩土器 砥石・台石・鉄鉗	掘立柱建物が竪穴住居の回りにある
		中世	溝　2条	瓦器・銭	道か？
石成久保		縄文	落し穴　1基	石鏃	
	集落	古墳	竪穴住居　2軒 掘立柱建物　4棟	須恵器・土師器	集落の北端部か
		近代	土坑　40基		いも穴か
大遷端	集落	古墳	竪穴住居　2軒 掘立柱建物　3棟 竪穴遺構　1基	須恵器・土師器	まばらな分布
	墓地	奈良	土壙墓　34基	須恵器・土師器	富裕農民層の墓地か

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2133051
登録年度 H7	登録番号 6

九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－39－

平成8年3月31日

発行 福岡県教育委員会
〒812 福岡県福岡市博多区東公園7-7

印刷 隆文堂印刷株式会社
〒801 北九州市門司区畑田町1-1